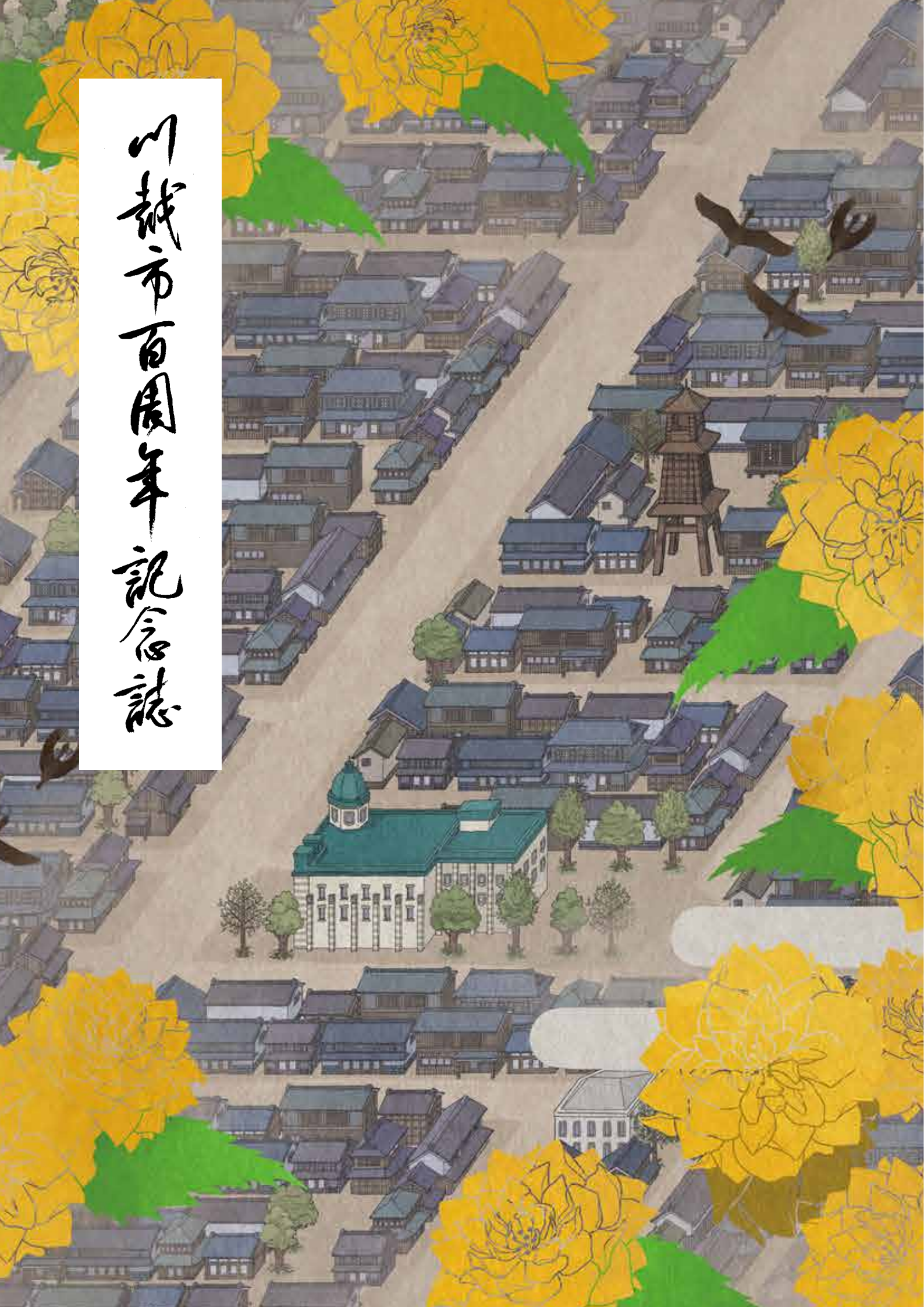


川越市百周年記念誌



川城市百周年記念誌

- 4 [ご挨拶] 川越市長 川合善明
- 6 [special interview] おめでとう、川越市
三吉彩花／市村正親／大木伸夫／菅野祐悟／
高梨雄平／花宮沙羅／RINA
- 28 [年表]
川越市、その百年 —紡がれてきたまちの記憶—
- 62 [column]
今も残る、江戸時代の面影
- 68 **川越のこと。**
70 100周年を迎えた川越市
74 紡がれる歴史 —古代～大正の川越—
86 情緒あふれる川越の建築
92 三七〇年、継承される川越まつり
100 産業を支えた新河岸川の舟運
104 豊かな自然の恵み 川越の農業
110 飛躍し続ける川越の商工業
- 118 **kawagoe ART ARCHIVE**
120 絵画・彫刻
128 文化財
- 136 [interview]
まちのこえ
- 146 川越市市制施行100周年 記念事業
- 152 川越市市制施行100周年 PRパートナー商品紹介
- 154 データで見る川越市
- 156 参考文献

さあ、次の百年へ。 時を超えて繋がる 未来へのまちづくり



川合善明

川越市長

市制100周年を機に 大きな発展を遂げる 川越の歴史を振り返る

大正11年12月1日、川越市は、埼玉県で初の市制を施行しました。令和4年は川越市市制施行100周年の節目となります。

川越は、古く歴史を訪ねれば、江戸初期に城下町として整備され、主に商業を中心に発展を遂げてきた地域です。特に江戸中期から明治、大正にかけて川越は広い分野で大いに繁栄してきました。第二次世界大戦後には、埼玉県全体が工業や商業で栄えつつある中で、川越はさらに観光が大きな産業の一つになってきたという変遷があります。現在の川越が観光の面においても大いに発展を遂げることができたのは、先人たちが蔵造りの町並みやお祭りの文化などをしっかりと後世に継承し、それを維持してきてくださったというところが大きいと感じます。川越ではこのように守り語り継がれてきた地域の歴史や文化が大きな観光資源となり、今では日本だけでなく海外に



川越城本丸御殿

も、素晴らしい日本の都市として広く知られてきたところです。

また、川越は昔から教育面にも注力してきたまちでもあります。古くは江戸時代、松平大和守家が設けた博諭堂（講学所。藩士の教育機関）などといった藩校の歴史があり、また明治5年の学制発布とほぼ同時期に、旧市街地はもちろん昭和30年の合併で加わった農村地域にもきちんと学校ができ、教育の場が整備されたことに鑑みると、この地域の皆様がいかに教育に熱心だったかということがよくわかります。今でも川越を出身としてさまざまな分野で活躍されている方が大勢いらっしゃいますが、その成果と言えるかもしれま



さらに、川越には歴史の長い企業が多いことも特徴です。関東地域の産業を昔から担ってきた川越商人の気質が今も受け継がれていること、一方では新しい時代へ挑戦していく勇氣を持ち、地元川越を基盤にしっかりと腰を据え未来を見ているからこそ、長く続く企業が多いと考えられます。

古いところ、新しい。 まちの魅力を再発見し、 更なる発展を遂げる

私は川越の松郷で生まれ育ちました。思い出のある場所といえば、一つは川越城富士見櫓跡（御獄神社）

周辺です。子どもの頃はここの前を通って小学校へ通っていました。この辺りの小径は旧市街の中では珍しく、いまだに城跡の雰囲気が残っている場所です。その光景は65年前と全く変わっておらず、大変気に入っている場所の一つです。また近所の伊佐沼には子どもの頃から魚釣りなどをしに、よく遊びに行っていました。今でも散歩の時に伊佐沼を一周しては、季節を感じる事が私の楽しみとなっています。

そして忘れてはならないのが、川越のみならず関東を代表する「川越まつり」です。私が育った地域は山車を保有しておりませんでしたがお祭りは、正月と並んで子どもにとって大変楽しみな行事でありました。受け継がれてきた祭礼から成る絢爛豪華な山車と迫力のある曳っかわせ、この祭りにかかわる人々の情熱や心意気は昔から変わらず、今の時代にもいにしえの人々の息吹が感じられます。

このように川越は多くの歴史や文化が息づいているまちとしての特徴を生かしながら、魅力溢れる観光地としてさらに発展を遂げていくこと

でしょう。

私は、川越のまちを発展させるとともに、この地域に住まい暮らしていく市民の皆様のために、より落ち着いたある住みやすいまちづくりを目指していきたいと思っています。このまちに誇りを持ち、市民の皆様がずっと住み続けていただけるよう、また、これから川越に来ていただく多くの人にとっても住んでみたいと思っただけのまちにすることが、私のまちづくりの目標です。

先人に思いを馳せ、 これからの100年を また、歩み出す

100周年は一つの大きな区切り

です。これを一つの機会として、今まで川越を育ててきてくださった先人に思いを馳せ、そしてこれからの100年に向けて盛大に祝いたいと考え、今年には様々な100周年記念事業を行ってきました。主に川越における先人のこと、歴史、文化について、市民の皆様にもう一度再認識していただきたいという意図で講演会などを行い、そして12月1日の式典で締めくくりました。こうした川越市の100周年記念事業が、市民の皆様にとって、川越市の魅力の再発見となり、さらに愛着を深める機会となりましたならば幸いです。

次の百年に向けて市民の皆様とともに歩みを進めていきたいと思



川越市市制施行100周年

おめでとう、川越市



ichimura
MASACHIKA

このまちが、
俳優人生の原点



kanno
YUGO

川越まつりの思い出は、
父の肩車



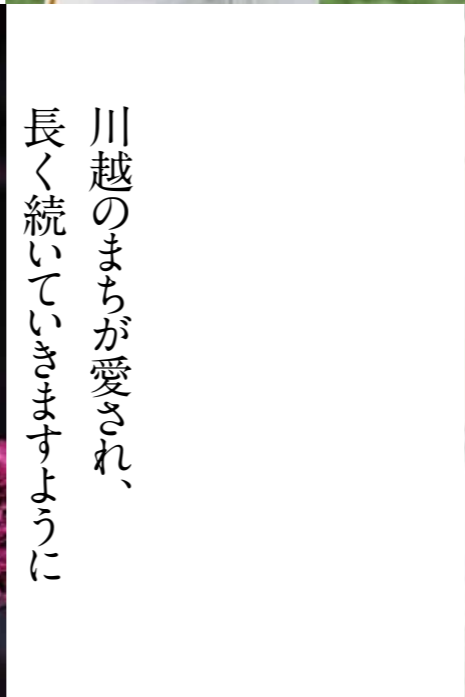
oki
NOBUO

生まれたまちを、
誇りに思う



takanashi
YUHEI

野球を通じ、
思い出あふれる川越



hanamiya
SARA

川越のまちが愛され、
長く続いていきますように



miyoshi
AYAKA

住む人のやさしさが
感じられるまち



RINA

音楽で、
故郷に貢献したい



hanamiya
SARA

Special Interview

2022年に市制施行100年を迎えた川越市。
長い歴史の中で、日本だけでなく
世界でも活躍する人々を輩出してきました。
この記念すべき100周年に際し、様々な分野で活躍する方々
に
お祝いの言葉と故郷への想いを伺いました。



旧山崎家別邸 (松江町)

俳優・モデル
雑誌「Seventeen (セブンティーン)」のトップモデルとして人気を誇り、“女子高生のカリスマ”とも呼ばれた。2017年惜しまれながら同誌を卒業し、その後、雑誌「25ans Wedding」のカバーガールを2021年まで務めた。女優としても、2019年「ダンスウィズミー」、2020年「犬鳴村」、「Daughters」、「十二単衣を着た悪魔」に出演。2021年には初舞台「PROM」でミュージカルにも挑戦。同年秋には、自身が初監督をつとめた作品も含まれる「MIRRORLIAR FILMS Season1」が公開、こちらは北京国際映画祭でも上映された。2022年12月には、Netflixオリジナルシリーズ「今際の国のアリス Season2」が全世界で配信。

Profile

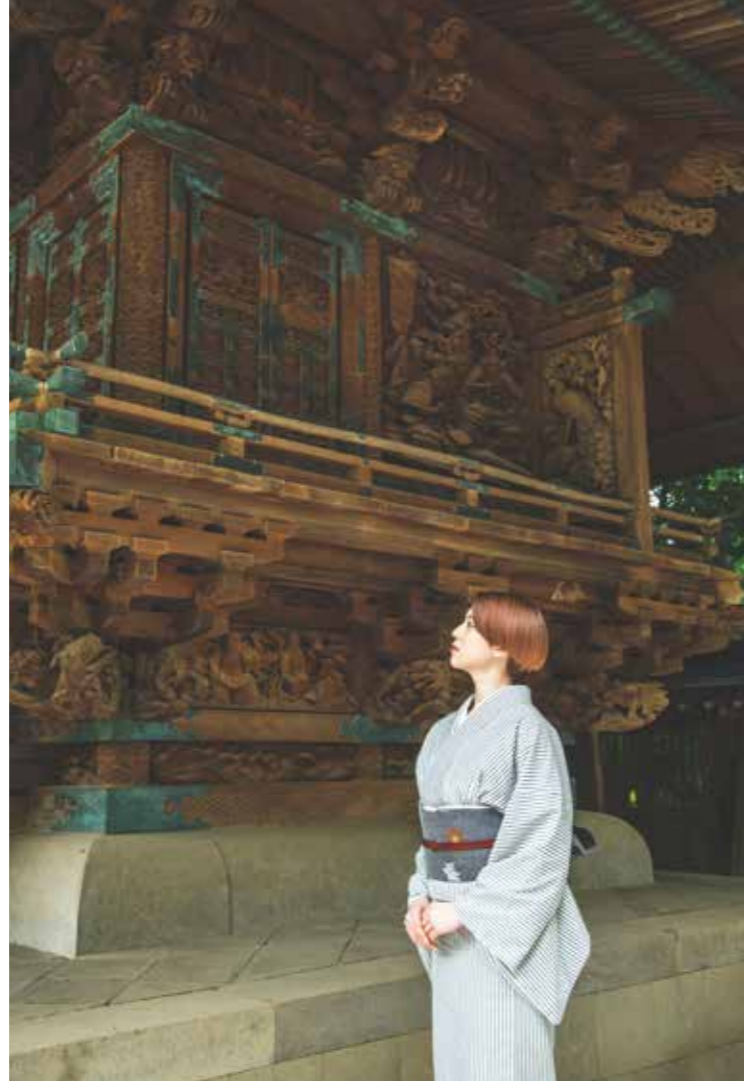


2022年、小江戸川越大使になった、俳優の三吉彩花さん。小さい頃から親しんだ川越のまちを、川越唐棧を纏った三吉さんが訪ねます。三吉さんの深い川越愛についても、語っていただきました。

miyoshi AYAKA

三吉 彩花

ずっと、ずっと、
昔のこと。
だけど、いつも私の隣にあった
大切な地域の記憶



川越水川神社本殿（宮下町）



五百羅漢（小仙波町）



蓮馨寺境内（連雀町）

大人になってから見る
故郷の景色は、
見慣れた場所のはずなのに、
ちよつとだけ心が震える

ゆったり、とか、
のんびり、とか。
このまちに生まれて、
本当によかった



伊佐沼



川越水上公園（池辺）

Interview

miyoshi
AYAKA



俳優、モデルとして国内外で活躍の場を広げる三吉彩花さんは「川越のことについて話したら、時間が足りなくなるかも!」と宣言するほどの川越好き。撮影時のきりりとした表情から一変、溢れんばかりの川越愛を柔らかな表情でいっぱい語ってくれました。

いつも友達と一緒に!

よくクレアモールで遊んでいました

——改めまして、撮影お疲れさまでした。川越は久しぶりにいらっしやいましたか?
いえ、実は数日前にも個人的な用事があった、ユープレイスに行っていました! 電車に乗ってきただけですが、駅前も子どもの頃からだいぶ変わっていて、帰るたびにびっくりしています。

——電車にも乗られるんですね。

普通に乘りますよ! 新型コロナウィルスが蔓延し始めた頃は、父に東京まで迎えにきてもらったりしてましたけど(笑)、最近はもう電車移動で。東京から川越、これもまたすぐに来られて便利なんですよね。西武新宿線、東武東上線、JRと三つの路線があって、アクセスしやすくて。

——中学校まで川越で過ごしていたのですが、その頃の思い出の場所を教えてください。

仲の良い友達と、クレアモールでよく遊んでいましたね。ゲームセンターでプリクラを撮ったり、お買い物をしたり、ドーナツ食べたり。菓子屋横丁にも駄菓子を買いによく行っていました。今でもたまにお漬物を買に行きますよ。

「川越のことになると話が尽きない!」と三吉さん



マイボトルに持ち歩くほどコーヒー好きだそう

長い駄菓子を初めて見たときはびつくりしました(笑)。それから今日撮影した川越水上公園。ここは週末に行われるフリーマーケットに母がブースを出していて、私もよく手伝っていました。店番したり、他のブースを眺めたり。広くて気持ちが良いので、街中とは違った自然いっぱいの雰囲気大好きな公園です。鯉に餌をあげたりもしていたなあ。

——今でもよく川越にいらっしやってるんですか?

はい、年に10回以上は戻っていますね。実家が近いこともありますが、法事があれば帰ってきて家族と過ごしたり、お正月には毎年必ず喜多院さんに初詣に行っていますし。

今でも昔からの友達と会うのは、川越が多いです。みんなでご飯を食べに行ったり、一番街を歩いて、買い物したりしてますよ!

——そうだったんですか! ちなみに商店街では何をお買い求めにきているのでしょうか。

私、お料理をするのがすごく好きで。特に和食を家でよく作って

いるので、好みの器を探しにやまわさんに行ったり、包丁を見にまちかんさんに行ったり。乾物を買に行ったりもしています。子ども頃とは違う買い物をするようになって、川越のまちって本当にいいものが揃っているなあ、と実感しています。専門店があるっていうところが大事だな、と思うんです。もちろん、食えることが大好きなので、芋羊羹とか甘いものもすっかりいただいているんですけど(笑)。今は観光地というよりもあって、グルメやスイーツ

もとても充実していますよね。来るたびに発見があって、ワクワクしちやいますよね！「インスタ映えするなあ」と思いながら歩いていきます。

——今年も川越まつりも開催となりますが、お祭りの思い出はいかがですか？

山車のある町内ではなかったのですが、小さい頃は両親と、少し大きくなってからは友達と一緒に観に行っていました。屋台もたくさんあって、とてもワクワクしていたのを覚えています。広い範囲で通行止めになって、とにかくまちの熱気とお囃子、みんなの掛け声がすごくて、動けないほどの人だかり。江戸時代から続いているってすごいことだなあ、と思っています。やっぱりこのまちにとつて、ずっと受け継がれてきた特別な日なんだな、というのを感じます。今年しばらくぶりに開催ということで、まちも盛り上がりそうですね。また観に行きたいなあ。

——三吉さんが川越出身だということ、お仕事するときにも川越のことが話題になることがあるとか

そうなんです。テレビ番組でも川越がよく取り上げられているところもあるからだと思いますが、最近は「どんなまちなの？」とよく聞かれます。地元が好き過ぎるので、勝手にPRさせていたいただきますけれど（笑）。

ちなみに私の出身地が川越だった

初詣は毎年、喜多院。
「今年も来ていました！」



大切な故郷。 私、川越が大好きなんです

ているまちだということを説明すると、とても喜んでくださるんです。実際に「行ってきたよ、とても素敵なまちだった！」「川越、本当にいいよね」という声を聞くと、とても誇らしい気持ちになります。町並みも建物も、維持していくのは大変なんだろうな、と思

うのですが、この情緒ある風景は、他のまちではなかなかない、大切な川越の資産だと感じています。ずっと残していつてくれたらいいなあ、と思いますね。あと、まちの人がとにかく優しい！！

——撮影の時も、まちの人とお話しされていましたね。

伊佐沼のほとりで。
「空が広くて気持ちいい！」



Interview

miyoshi AYAKA

て知らない人もまだまだ多いのですが、通っていた名細中学校の名前だけ知っているファンの方もいて。でも「なぐわし」って読めない人には読み方からしつかりお伝えしています（笑）。「なぼそ」じゃないよ！ っ。

——川越愛が溢れていますね！

三吉さん自身の川越への想い、お聞かせください。

新しいお店やスポットができていく一方で、私が小さい頃から知っている神社やお寺、蔵のまちも残っていて、すごくうれしい気持ちになります。外国の方とお仕事するときに、古いものを大切にし

川越では、プライベートで何か一つ買い物するときにも、お店の人たちが声をかけてくださって。こだわっているからこそ、ちゃんと商品の説明してくださるのが買物の魅力ですよ。昔から感じていましたが、人の優しさがしっかり感じられるのって、川越の良いところの一つだと思います。

——川越市はさらに次の100年へ向けて歩んでいきますが、三吉さんのこれからの目標や夢を教えてください。

今、俳優やモデルなど様々なジャンルのお仕事をさせていたただいています。いつも何かに挑戦したいなと思っているのですが、特に今後はアジアを中心とした活動を展開していきたいと考えています。新型コロナウイルスのこともあって、なかなか活動が難しい時期も続いていましたが、私自身は国内外問わず積極的に活動の幅を広げていきたいですね。今日は長い時間、川越のまちで過ごさせていただきましたが、やっぱり私、川越が大好き。いつになっても大切な故郷です。川越市市制施



おなじみの水上公園で鳩と見つめ合う

行100周年は、「おめでとう」という気持ちと同じくらい、「ありがとう」という感謝の想いを持っています。これからも自分自身の活動を通して、大好きな川越をPRしていきたいと思っています。

——本日はありがとうございました！

●行きつけのお店も多く、驚くほど市内に詳しい三吉さん。インタビューが終わっても、最新の川越情報のチェックに余念がありませんでした。

市村正親

ichimura
MASACHIKA

俳優



俳優・声優として舞台や映画など様々な分野で活躍される市村正親さんに、高校卒業まで過ごされた川越の思い出をお話していただきました

俳優を目指した
原点は川越のまちに
ありました

——市村さんが幼少の頃過ごした川越の思い出を教えてください。

僕が暮らしていた宮下町は辺り一面が田んぼでした。近くを流れる小川でザリガニ採りをしたり、夏の盆踊りの時期になると氷川神社の前に集まってみんなで踊ったり、いろいろなことをして遊んで、自然と親しみながら過ごしました。

——少年時代に過ごされた川越は今よりも自然が豊かだったんですね。

そうですね。例えば新河岸川は川幅もそう広くはない小川でしたが、カエルやフナ、メダカが生息していて……、いつの時代に戻りたいかと聞かれたらやはりその時期が一番戻りたいですね。

母が営むお店が大手町にあったので、秋の川越まつりでは大手町の山車を曳いていました。珍しい三ツ車の山車で、舞台では白狐が踊るんですね。僕はその白狐の姿に触発されましたね。



ミュージカル「スクルージ」2019年公演より 撮影：田中亜紀

——お母様は飲食店をされていたのですよね？

母はモダン亭太陽軒の向かいで「いっちゃん」という居酒屋を営んでいました。僕は、店の手伝いでよく近くの小川藤まで鰻の頭と骨を買いに行っていました。店内に入ると4人掛けの席があって、奥には2階に上がる階段があるんですね。僕はいつも勝手口から入って、「市村です」と挨拶して頭と骨を買っていくんですけど、階段を見るたびに「この上の部屋で、きっと誰かが鰻の身を食べているんだろうな」と思っていましたね（笑）。

川越は風情を残して
発展していく
楽しいまち

——市村さんの思う川越の魅力を教えてください。

やはり風情と情緒があるところでですね。川越駅から商店街を歩いていくと少しずつ雰囲気が変わり、仲町あたりまで足を運ぶと「小江戸」のムードが漂ってきますよね。時代とともにまちが発展していく様子も見ていて楽しいです。特に一番街と菓子屋横丁は子どもの頃と雰囲気が変わって驚きましたけど（笑）。あの頃は普通の住まいだった古民家も、いつのまにか改装されてお店として使われていたり、川越はどこに行っても楽しさがてんこ盛りのまちです。



「市村座」で川越を訪れることを楽しみにしています

——これからの川越に期待すること

はありますか？

ウエスタ川越ができて、大きな催しが行われるようになりましたね。僕も仕事柄よく舞台や演劇を見に行きますが、川越に住む人にもそういった場所でいろいろな文化に触れてもらって、たくさんのお話を語り合ってもらいたいです。川越まつりやまちの歴史についてもそうですね、みんなが誇りを持って川越の文化を語れるようになったら、更に良いまちになるんだろうなと思います。

——最後に市村さんの今後の目標を聞かせてください。

長く舞台に立てるような俳優でい

Profile

1949年生まれ。川越商業高校を卒業した後に俳優の道を目指し、1973年に劇団四季の「イエスキリスト＝スーパースター」でデビュー。舞台・映画・ドラマなど幅広い分野で活躍し、2021年に上演されたミュージカル「オリバー！」では長男・優汰さんが俳優デビューして、親子共演を果たしました。2022年12月ミュージカル「スクルージ」、翌年2月役者生活50周年記念公演「市村座」が公演予定。



oki
NOBUO

大木伸夫 [ACIDMAN]

ミュージシャン

3ピースロックバンド「ACIDMAN」のボーカルとして活動するミュージシャンの大木伸夫さん。2017年には「コエドブルワリー」とのコラボレーションビールが話題となりました。

歴史と文化が息づくまち、川越で育ったことをとても誇りに思う

——ACIDMAN、結成25周年おめでとうございます。川越市市制施行100周年と同じ年ということで、とてもご縁を感じます。

ありがとうございます！ あつという間の25年間です。地元川越と一緒に記念の年になりました。

——早速ですが、大木さんにとって、川越と言えば？

やっぱり、蔵造りの町並みですね。すぐそばに実家があるので、ここが僕の実風景です。それから菓子屋横丁は友達の実家もあつたので、しょっちゅう遊びに行っていました。

——改めて外から見る川越はいかがですか？

子どもの頃から、「小江戸」と呼ばれていることは何となく意識はしていました。僕はちょうど観光地としての開発が始まった頃に上京してしまつたのですが、地元に戻るたびに、町並みのレベルが上がっていくというか、どんどん素晴らしくなつ



ACIDMAN 25th&20th Anniversary Tour "This is ACIDMAN" 2022.9.1 Zepp Haneda
Photo by Tsukasa Miyoshi / Victor Nomoto

見えますね。

ちょうど札の辻のところ、祭りの最後の時間帯になると曳っかわせが始まるんです。小学生くらいのときから、お囃子の音や「わっっ！」という観衆の盛り上がり、子どもながらに興奮していました。とても良い「音の記憶」として耳に残っています。

「川越を盛り上げたい」 地元企業との コラボレーション

——2017年の「コエドブルワリー」とのコラボ企画はどんなきっかけで生まれたのですか？

結成20周年を迎え、さいたまスーパーアリーナでフェスをさせていたんだときに、「せっかくなら川越にゆかりのあるところとコラボレーションできたらいいな」と思っていました。そんな折に偶然、コエドブルワリーさんとのご縁をいただき、地元川越への思いを共有してコラボすることになりました。故郷の味わいを楽しめるともおいしいビールになって、本当にうれしく感じまし

た。

——これからの川越市に期待することはありますか？

蔵のまちは電柱を埋めていることもあり景観もいいし、特に夜の蔵造りの町並みはライトアップされてもすごくきれいです。今は地元の人しか知らないような夜の川越もPRしていきたいいな、と思っています。

——では、最後に今後の目標を教えてください。

僕はいつも遠い未来を見据えつつも、目の前にあることに全力を注ぎたいと思っています。このコ

Profile

1977年生まれ。ミュージシャン。ロックバンド「ACIDMAN」のボーカル、ギター担当。1997年にグループを結成。「生命」「宇宙」をテーマに掲げ幅広いサウンドで音楽の可能性を広げ続けている。現在までに12枚のオリジナルアルバムを発表、6度の日本武道館公演、2017年に結成20周年を迎え「さいたまスーパーアリーナ」にて「SAI」を主催。薬剤師の資格を持ち、所属事務所の代表も務める。



お馴染みの時の鐘をバックに

ていくのを感じました。今は東京でもほとんどの人が川越を知っていますよね。「今度行くからおもしろいお店を教えてください」と聞かれると、川越の出身として誇らしい気持ちになります。本当にいいところであつたなあと思うのでありますね。

——住んでいた頃の印象深い思い出はありますか？

川越まつりですね！ 幼稚園のときは半纏を着て山車を曳き、思春期になってからは毎年友達と遊びに行きました。今も川越まつりのたびに川越に帰ってきていて、山車を曳かせてもらうことがあります。お祭りの日に通りを眺めているだけで、なんて素晴らしいまちなんだろうという満足感に浸れます。

——ご実家の近くからは山車がよく

菅野祐悟

kanno
YUGO

音楽家



映画やテレビドラマ、アニメなど様々なジャンルにおける
劇伴音楽を手がける、作曲家の菅野祐悟さん。
近年は東武東上線川越駅・川越市駅の発車メロディー
川越にまつわるお仕事もされています。

懐かしい思い出が
川越の景色とともに
よみがえる

——川越で過ごしていた頃の思い出を教えてください。

川越には中学校3年生まで住んでいました。小学校5年生くらいまで、サンロード商店街にあるピアノ教室に週に1回通っていましたね。川越水上公園のプールは何度も行きまして、菓子屋横丁の記憶もありますね。小学校の高学年になってからは友達と川越駅に遊びに行ったりもしました。僕は笠幡駅の方に住んでいたのですが、そこから川越駅まで電車で行って、時の鐘あたりを散策するのが小学生にはちょっと冒険的な感じで楽しかった。中学校では吹奏楽をやっていて、合同練習で他の中学校で練習したこともありまして。一番思い出に残っているのは川越まつり。父親に肩車してもらって沿道を歩いたのですが、人がとても多くて熱気がすごかったのを覚えています。

——川越には今でも来られることは

ありますか？

今は実家も川越から引越したのであまり来ることはなくなりましたが、数年前に川越駅の発車メロディーを作らせていただいて久しぶりに訪れました。駅前は当時とはかなり景色が変わっていましたね。

——今、大人になった菅野さんが感じる川越の魅力とは？

小江戸と言われているだけあって、やはり「川越まつり」じゃないでしょうか。あれだけの熱気のあるお祭りがあるのは一つの大切な文化だと思います。それに、駅のあたりは都会ですが、少し離れると静かです。



風情ある路地も、川越の魅力の一つ

緑がたくさんあって住みやすいですよ。都内にも近いし。僕が子どもの頃はカブトムシを取ったり、田んぼでザリガニを釣ったりして遊びましたが、そんな東京にはない穏やかさ、ネイチャーな感じが心地よかったです。やっぱり田舎の自然と都会とのハイブリッド感がいいなと思います。

——今後の目標を教えてください。若い頃目標にしていた自分よりも、現実の自分の方が出世している（笑）。です。これ以上こうなりたくないというより、粛々と仕事をするだけです。今の自分は、かつて想像していた以上のビッグタイトルや、多くの人に愛されている作品に携わらせていただいています。それらの作品に対して失礼のないように、ファンの方たちをがっかりさせないよう、丁寧に、丁寧に粛々と仕事をする。今、満たされている感じはすごくありません。だからこれ以上望むべきではない

想定外のところに いるからこそ 日々精進の気持ちで

——キャリアの中で、自分の目標や想像を超えてきたと自覚したタイミングはありましたか？

僕の想像の範囲内でのゴールは、大河ドラマでした。その目標が10年以上前に達成されて、その後も、『ジョジョの奇妙な冒険』をやらせていただいたり、『名探偵コナン』、他にも朝ドラ、映画、ドラマの曲をたくさんやらせていただきました。自分としてはここまで来るとは想定していなかった。夢が全部叶っていますね。

それはすごいことですね！



2016年2月11日「菅野祐悟 Valentine Concert 2016」

とはいえ、大変といえば大変です。でも仕事はずっとしていきたいです。大変さを上回るくらい、日々充実していますから。川越出身の作曲家としてこれからも多くの名曲を生み出せるよう精進します。

Profile

1977年生まれ。音楽家。東京音楽大学作曲科卒。2004年フジテレビ9ドラマ『ラストクリスマス』で作曲家デビュー。主な作品に、NHK大河ドラマ『軍師官兵衛』、連続テレビ小説『半分、青い。』、アニメ『ジョジョの奇妙な冒険』、劇場版『名探偵コナン ハロウィンの花嫁』がある。映画、ドラマ、アニメを中心に幅広く活躍中。



takanashi
YUHEI

高梨雄平

読売ジャイアンツ

小学3年生の時に川越で野球を始め、現在はプロ野球選手として活躍する高梨雄平投手。高校まで過ごした川越の思い出を語っていただくとともに、未来を担う子どもたちへメッセージをいただきました

都会的でありながら
自然も残るまち、
川越の空気が好き

—川越の思い出の場所はどこですか？

小学3年生から野球を始めたのですが、所属していた野球チームが活動していた安比奈親水公園ですね。あとやっぱり初雁球場。父親と野球を観戦しに行き、そこで一緒に食べた小峰商店の焼きそばがうまかった思い出があります。子どもの頃は毎日のように同級生と小学校の校庭で遊んでいました。家に帰ってすぐ集合して、ドッジボールをしたり、サッカーボールを当てる盤に硬球を投げて先生に怒られたり、少々やんちゃな子どもでしたね(笑)。川越の好きなどころは、適度に都会でちょっと自然も残っているところですね。のんびりした空気が好きですね。

—家族でよく行くお店などを教えてください。

鰻で有名な「ぼんぼ亭」です。実家からも近いし、川越に帰るとよく行きます。

100周年というタイミングでお祝いメッセージを送らせていただけるなんて大変光栄です。本当におめでとうございます。市内にタワーマンションも建ちますし、これからの存在感のある市になるのではないかと思います。これからの更なる発展を願っています。



マウンドで活躍する高梨投手

本気になって
何かに熱中できる
人生は楽しい

—野球選手として高梨さんの今後の目標を教えてください。

もっとうまくなりたいという気持ち、野球を始めてからずっと持ち続けています。プロになると野球が楽しくないと言う人もいますが、僕はずっと楽しいままです。子どものときの草野球のような楽しさとはまた違うんですが、「ああ、生きているな」という「生」を実感させられます。

—高梨さんに憧れる川越の小学生、中学生にメッセージをお願いします。

自分が面白いと感じたことは、周りに何を言われても続けた方がいいと思います。中学生くらいになると、人のやりたいことに対して「無理でしょ」と言う奴が出てくるんですけど、「野球選手なんて諦めろ」とか。

そういう雑音にあまり耳を傾けない力を養ってほしいです。やると決めたらやればいい。僕は親から無理だと言われたことがなくて、「とりあえずやってみろ、でもやるからには徹底してやれ」と言われてきました。両親は僕のことを信じて任せてくれていました。それが僕にはよかったです。思っています。そして、何かにのめり込んでいるときはそれだけが人生だと考えがちです。例えば受験に失敗してしまったり、もう人生終わりだと嘆きたくくなりますよね。でも、世界は死ぬほど広いです。たとえ一度挫折したとしても人生は終わりではないし、選択肢は幾らでもある。学校でも家でも肩の力を抜いて、時には見る角度を変えて、何か熱中できることを探してくれたらいいなと思います。

—高梨さんも、野球と勉強の両立に大変な努力をされたのでしょうか。

両親は「勉強はできたほうがいいよ」という感じでしたね。僕の方から塾に行かせてほしい、と頼んでいました。

—最後に、川越市市制施行100周年のメッセージをお願いします。



「川越は自慢の故郷です！」

Profile
1992年生まれ。プロ野球選手。川越東高校、早稲田大学卒業。2016年に東北楽天ゴールデンイーグルスに入団し、2020年読売ジャイアンツへ移籍。趣味は料理で、YouTubeチャンネル「たかなしきっちん」を配信中。

花宮沙羅

宝塚歌劇団

Interview

宝塚歌劇団の娘役として活躍する花宮沙羅さん。幼い頃から地域の魅力を肌で感じてきました。今でも川越愛は、健在です！



©宝塚歌劇団

このまわちが自分の原点。舞台人として、今後も精進していきたい

—花宮さんの川越での思い出を教えてください。

地元のバレエ教室です。3歳からバレエを習い始め、青春時代はほとんどバレエ教室で過ごしたと言っても過言ではありません。中学時代も部活動には入らず、学校が終わるとすぐにレッスンへ。高校は都内のバレエコースがある学校に通っていましたが、できるだけ早く帰ってきて教室に通っていました。それから、子どもの頃から紫芋ソフトクリームが大好きです。甘過ぎず、でもしつかりお芋の味がして大好きなんです！
—川越まつりも参加されていますか？
学生時代は毎年参加していました。

それぞれの町の山車があって、違う町の山車と出会ったときに始まる曳っかわせ。とても迫力があるので、もっと多くの方々に見ていただきたい伝統のお祭りです。

—今後の目標を教えてください。

宝塚歌劇団に入団して7年目となりました。新人公演では最年長の期となり、一つの節目を迎えます。上級生の方からは信頼してもらえ、下級生からは安心してついてきてもらえるような、そんな存在になりたいと思っています。

—100周年を迎える川越市にメッセージをお願いします。

これからも、私の生まれ育ったまちが、たくさんの人々から愛され長く続いていくことを願っています。私自身も川越市出身者として恥じることはないよう、今後も舞台人として日々精進してまいります。



©宝塚歌劇団

劇場での活躍にご期待ください！



軽快なリズムでグランドピアノを演奏するRINAさん

音楽を通じて、川越の魅力を世界に届けたい

—川越ではどのような学生時代を過ごしましたか？

私は中学生の時に陸上をやっていた、あの頃は大会があると高階中学校から自転車をこいで、汗をかきながら会場の川越運動公園まで通っていました。友達と菓子屋横丁にもよく行きましたよ！ 長い菓子屋はよく買って食べていました。端っこが美味しいんですよ（笑）。友達

から「川越の長い菓子屋を買ってきよ」って今でも言われます。

—RINAさんにとって川越はどんな場所ですか？

私はコンサートや仕事の打ち合わせでいろいろな場所に出かけることがあります。川越に來ると「落ち着いて暮らせるまちだな」と改めて感じます。自然が多くて、心豊かにいられる場所が川越かなと思っています。
—これから川越のまちでやりたいことを教えてください。

地元である川越でコンサートをたくさん開催して、音楽でみんなが繋がっていただけたらいいなと思っています。まずは私がコンサートを開いて、それをきっかけに全国から音楽家の皆さんが集まって、演奏してもらえ、環境を作っていただけたらとてもワクワクしますね！ そこから日本や世界にも音楽を届けたいです。

—市制施行100周年を迎える川越にメッセージをお願いします。

100周年おめでとうございます。この先の100年を見据え、大好きな川越を盛り上げていきたいように、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。

RINA

ピアニスト

ニューヨークを拠点にジャズピアニストとして活躍し、自身の奏でる音楽で多くの人に感動を与えてきたRINAさん。生まれ育った川越の好きな場所や、今後挑戦したいこととお聞きました。

Interview

Profile

国立音楽大学でジャズピアノを学び、卒業後はアメリカ・ボストンにあるパークリー音楽大学へ留学。ピアニスト、エリス・マルサリス氏のコンペティションに出場し、そこで入賞したことがきっかけとなり、ニューヨークを拠点に活躍。自身が感じたことをそのまま音楽として表現し、多くの人に感動を届けている。



川越市、その百年

紡がれてきたまちの記憶



大正から令和へ、
私たちのまちの
変遷を見る

大正十一年（一九二二）十二月一日に、埼玉県下で初の市制がしかれた川越市。仙波村との合併により人口は三万人を超えました。以後、大きな戦争や幾たびの災害を乗り越え、変わりゆく情勢の中で私たちの故郷川越は逞しく発展してきました。まちの歴史を辿ることで、当時の人々の生活の様子や故郷の変遷、そ

して今につながる川越の魅力が見えてきます。「川越市、その百年」では、写真を中心に市制が施行されてからの百年を年表とともに振り返ります。資本主義の発達や民主化が進行した大正期、戦争や高度経済成長など動乱の時代ともいえる昭和期、まさに観光産業が開いた平成期、そして令和の時代へ――。

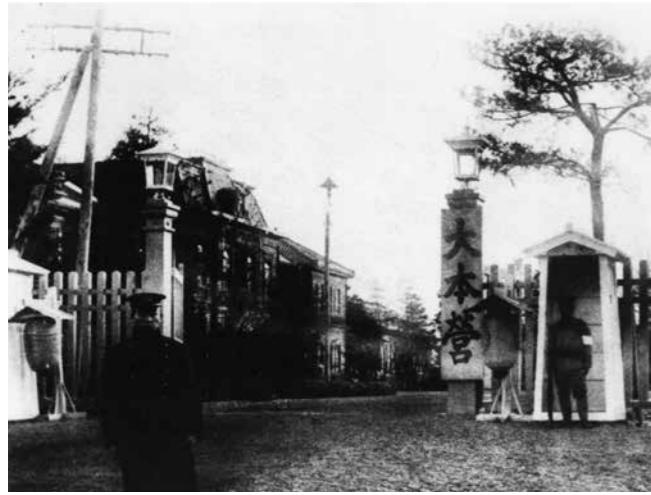
その時代を生きた先人たちの活躍や思い出の場所は現代の川越にも今なお息づき、私たちの未来への道標を示してくれるのです。



川越町役場（大正元年頃）



南町通り（大正元年）



陸軍特別大演習の大本営。川越中学校（現埼玉県立川越高等学校）に置かれた（大正元年11月頃）



第3部消防組のオートバイポンプ（大正11年頃）

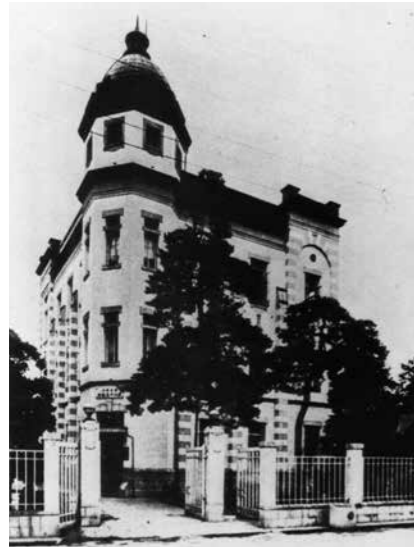


現在の中央小学校付近（大正10年頃）

1922
大正11年



江戸町通り。右手奥に時の鐘が見える（大正元年頃）



大正7年に洋風建築となった第八十五銀行

- 1月 大隈重信国民葬
- 2月 ワシントン海軍軍縮条約
- 6月 第21代内閣総理大臣に加藤友三郎が就任
- 11月 オスマン帝国が滅亡
- アインシュタインが来日
- ツタンカーメンの墓が発見される
- 4月 仙波村議会
- 川越町との合併を決議
- 5月 川越町・仙波村の合同委員会
- 合併に関する協約を締結
- 6月 市制施行決議書を県知事に提出
- 8月 川越町の綾部利右衛門ら旧西武鉄道を創立
- 9月 川越町に山村裁縫手芸伝習所・山村塾が開校
- 12月 川越町と仙波村が合併
- 県下最初の市制が施行
- 市長臨時代理者に綾部利右衛門が就任



鍛冶町通りの祝賀風景。市章を描いた提灯や市旗がみえる（大正11年12月）



猪鼻通りの祝賀風景（大正11年12月）

市制施行により
都市化が進んだ川越

大正11年12月1日に川越市は市制を施行し、市制施行を祝う祝賀行事が盛大に行われました。祝賀式には多くの来賓が訪れ、町内には紅白幕が張り巡らされて山車がお披露目されるなど、祝賀ムードに包まれたといえます。翌年9月1日には関東大震災が発生。関東全域で多くの人が被災しましたが、川越では出火はなく、大きな被害はありませんでした。

大正期には川越にも多くの洋風建築が建設されました。市内には今でも大正時代の建築が複数遺されており、店舗として活用されています。

looks back to
100 years with
a picture.

大正
1922-1926

川越市、その百年
紡がれてきたまちの記憶

大正時代のまち並み



猪鼻通り (現大正浪漫夢通り / 大正13年頃)



南町通り (大正13年頃)



第八十五銀行の屋上から南側をのぞむ、鍛冶町通りの遠望



志義町通り (大正13年頃)



川越南尋常小学校 (現中央小学校 / 大正13年頃)



東上線川越西町駅 (現川越駅 / 大正13年頃)



鍛冶町にあった時田醤油店 (大正12年頃)



川越北尋常小学校 (現川越小学校 / 大正12年頃)

1925
大正14年

- 1月 日ソ基本条約調印
- 4月 治安維持法が公布
- 5月 普通選挙法が公布
- 2月 西武鉄道の安比奈砂利線が完成
- 3月 川越城址が県指定史跡となる



川越区裁判所 (大正13年頃)



県立川越蚕業学校 (現埼玉県立川越総合高等学校 / 大正13年頃)

1924
大正13年

- 1月 第23代内閣総理大臣に清浦奎吾が就任
- 5月 パリオリンピック
- 6月 第24代内閣総理大臣に加藤高明が就任
- 7月 メートル法の使用が始まる
- 4月 川越市郭町に製茶研究所設立



大手町に置かれていた川越警察署 (大正13年頃)



県立川越高等女学校 (現埼玉県立川越女子高等学校 / 大正13年頃)

1923
大正12年

- 9月 関東大震災
- 第22代内閣総理大臣に山本権兵衛が就任
- 2月 第一回市議会議員選挙
- 3月 高階尋常高等小学校 (現高階小学校) が開校
- 9月 関東大震災で圧死8名、全壊20戸
- 芳野村で尋常高等小学校の校舎が倒壊
- 11月 川越市教育会が発足



久保町駅。川越電気鉄道の路線は、この頃西武鉄道大宮線となっていた (現中央公民館 / 大正13年頃)



赤間川と高沢橋。明治43年の洪水で石橋が流され鉄橋となった (大正13年頃)



御大典奉祝祭／羅陵王の山車（昭和3年11月16日）



大正期の川越まつり風景／細女の山車



火の見櫓落成記念（大正15年頃）

1926
大正15年（昭和元年）

激動の時代を越え、
発展の一路へ

63年続いた昭和の時代。世界大戦、戦後の復興と高度経済成長、さらに国際化へと日本が大きく動いた時代です。川越では様々な分野で近代化が加速しました。昭和30年には9つの村と川越市の合併が実現し、人口、面積ともに増大。市内に広大な農業地域を保有しながらも、商工業に従事する人々がますます増え、高度経済成長とともに工業都市としての発展を遂げました。昭和40年代からは駅前の整備や商店街の活性化により、現在の川越に近い風景になっていきます。

昭和

1926-1989

looks back to
100 years with
a picture.

- 1月 第25代内閣総理大臣に若槻禮次郎が就任
- 12月 大正天皇崩御、摂政皇太子裕仁親王が践祚し、昭和に改元
- 4月 市立商業学校（現川越市立川越高等学校）が川越城二の丸跡地に開校



お稚見さん



南町（元町二丁目）で演じられた石原のささら獅子舞（大正14年頃）

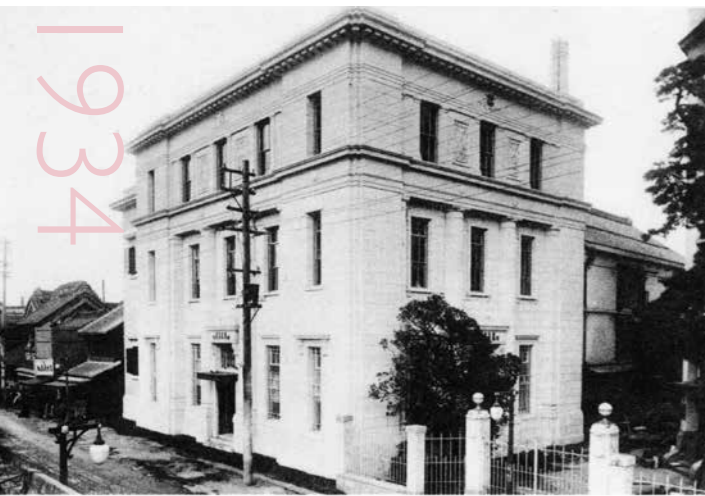


古尾谷八幡神社（大正末頃）

川越市、その百年

紡がれてきたまちの記憶

1927-1934



第八十五銀行の北側に建てられた川越貯蓄銀行（昭和8年頃）



上松江町（松江町二丁目）の初市。小島米穀店前に積まれた米俵（昭和7年1月）



山田尋常高等小学校（現山田小学校／昭和5年頃）



郭町にあった川越商業学校。旭町の校舎に移ったのは昭和35年（現川越市立川越高等学校／昭和2年）

1934
昭和9年

- 7月 第31代内閣総理大臣に岡田啓介が就任
- 8月 ドイツでヒトラーが総統となる
- 6月 川越市診療所が設置

1933
昭和8年

- 3月 F・ルーズベルト大統領就任、ニューディール政策を掲げる
日本が国際連盟を脱退する
- 2月 川越市が県下最初の都市計画法適用都市になる
- 10月 川越市志義町より新田町駅に至る中央通が開通
- 12月 農村振興土木事業として赤間川改修工事が開始

1932
昭和7年

- 3月 日本が満洲国を樹立
陸海軍将校ら首相官邸を襲撃
犬養首相射殺（5・15事件）
- 5月 第30代内閣総理大臣に斎藤実が就任
- 7月 ロサンゼルスオリンピック
- 1月 川越市下水道工事実施設計が認可
- 3月 川越市長に早川金十郎が就任
- 10月 名細村の河肥氏館跡（河越館跡）、県指定史跡となる
- 12月 市立図書館が北久保町に新築、開館式挙行
- 市制施行10周年
- 川越競馬場が新宿町に完成

1931
昭和6年

- 4月 第28代内閣総理大臣に若槻禮次郎が就任
- 9月 関東軍が軍事行動を開始（満州事変）
- 12月 第29代内閣総理大臣に犬養毅が就任
- 10月 川越市長に林寿夫が就任



手古舞姿（昭和7年頃）

1930
昭和5年

- 4月 ロンドン海軍軍縮条約
- 11月 濱口雄幸首相、銃撃
- 8月 川越小唄が発表

1929
昭和4年

- 7月 第27代内閣総理大臣に濱口雄幸が就任
ニューヨーク証券取引所で株価大暴落、
世界恐慌の引き金となる
- 7月 川越秩父県道の初雁橋が架設
- 10月 東武東上線川越〜池袋間の電車運転が始まる
霞ヶ関カンツリー倶楽部が開場

1928
昭和3年

- 5月 アムステルダムオリンピック
- 2月 川越市の武州ガスが業務を開始
- 3月 川越市商業会議所が商工会議所と改称
- 8月 養寿院の文応元年在銘銅鐘が国宝に指定
- 12月 川越市体育協会が設立

1927
昭和2年

- 3月 片岡直温蔵相の失言による金融不安（昭和恐慌）
- 4月 第26代内閣総理大臣に田中義一が就任
- 12月 上野〜浅草間に日本最初の地下鉄
（現東京メトロ銀座線）が開通
- 4月 西武鉄道の東村山〜高田馬場間が開通
- 川越〜東村山間が電化
- 川越〜高田馬場間が直通となる



川越第二尋常小学校（現中央小学校）生徒（昭和3年11月）



川越第二尋常小学校（現中央小学校／昭和初期）



志義町交差点（現仲町交差点／昭和14年頃）



西武鉄道川越駅（現本川越駅／昭和10年代）



高沢橋（昭和10年代）

1942
昭和17年

- 6月 ミッドウェイ海戦
- 8月 マンハッタン計画開始
- 12月 市制施行20周年

1941
昭和16年

- 8月 川越夜舟舟歌が東京放送局より放送される

- 7月 第39代内閣総理大臣に近衛文麿が就任
- 10月 第40代内閣総理大臣に東条英機が就任
- 12月 日本軍がハワイ真珠湾攻撃、マレー半島に上陸し対米英宣戦布告（太平洋戦争）

1940
昭和15年

- 7月 川越市の伝統芸能「石原のさらさら獅子舞」が全国放送
- 4月 国鉄川越線が開通

- 10月 大政翼賛会が発会
- 9月 日独伊三国同盟
- 7月 第38代内閣総理大臣に近衛文麿が就任
- 3月 南京政府樹立
- 1月 第37代内閣総理大臣に米内光政が就任

1939
昭和14年

- 12月 新河岸川水害予防組合、南古谷村・高階村地内などで掘削改良工事に着手
- 8月 川越市長に伊達徳次郎が就任
- 12月 川越市と田面沢村が合併

- 1月 第35代内閣総理大臣に平沼騏一郎が就任
- 5月 ノモンハン付近で日本軍とソ連軍が衝突（ノモンハン事件）
- 8月 第36代内閣総理大臣に阿部信行が就任
- 9月 ドイツ・ソ連のポーランド侵攻を発端に第二次世界大戦勃発

1938
昭和13年

- 4月 国家総動員法が公布
- 3月 愛国製粉、日清製粉と合併し日清製粉川越工場となる
- 5月 第二次下水道竣工式が行われる
- 8月 川越筆筒家具工業組合が開設

1937
昭和12年

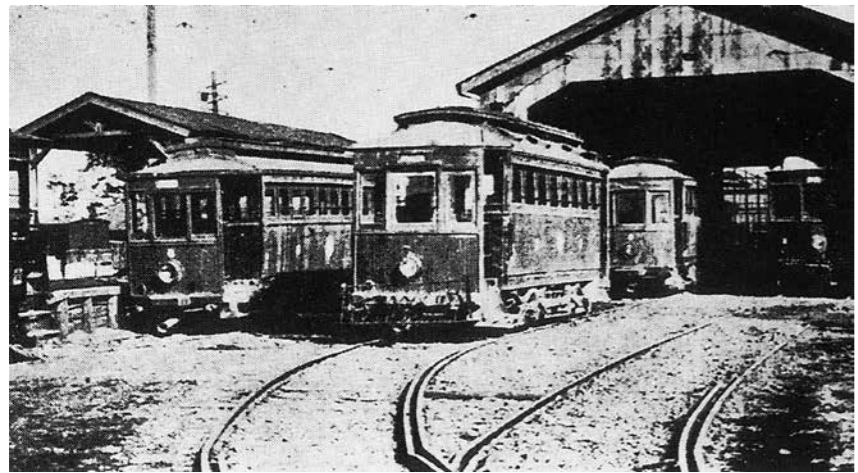
- 2月 第33代内閣総理大臣に林銑十郎が就任
- 6月 第34代内閣総理大臣に近衛文麿が就任
- 7月 蘆溝橋で日中両軍が衝突、日中戦争がはじまる
- 11月 日清紡績が川越紡績を買収

1936
昭和11年

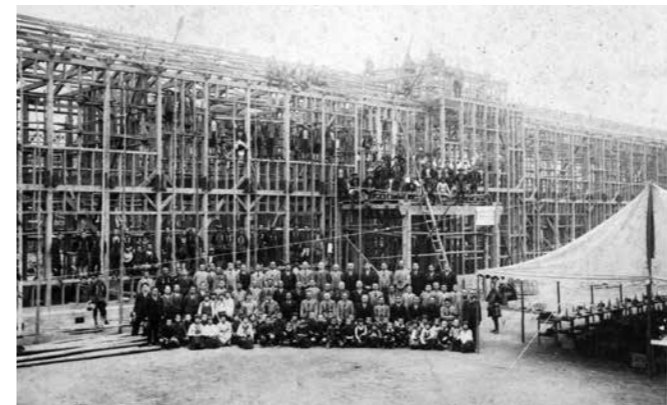
- 2月 皇道派青年将校が高橋是清大蔵大臣・斉藤実内大臣らを殺害（2・26事件）
- 3月 第32代内閣総理大臣に廣田弘毅が就任
- 8月 ベルリンオリンピック
- 3月 川越市下水道第一期工事が竣工
- 4月 埼玉県、総工費50万円で上江橋架設に着手
- 10月 東京築地の家庭衛生婦人会650名が観光で訪れる
- 芋掘会が開かれ、約3,000人が訪れる

1935
昭和10年

- 2月 菊池武夫が貴族院で美濃部達吉の天皇機関説を攻撃
- 8月 川越市長に橋本定五郎が就任



久保町車庫（現中央公民館／昭和15年頃）



川越第一尋常小学校（現川越小学校）改築工事（昭和12年）



新宿町競馬場は市立川越高等学校の南方にあった（昭和10年頃）

川越市、その百年

紡がれてきたまちの記憶

column

発智庄平 (1864-1936)

ほっちしょうへい

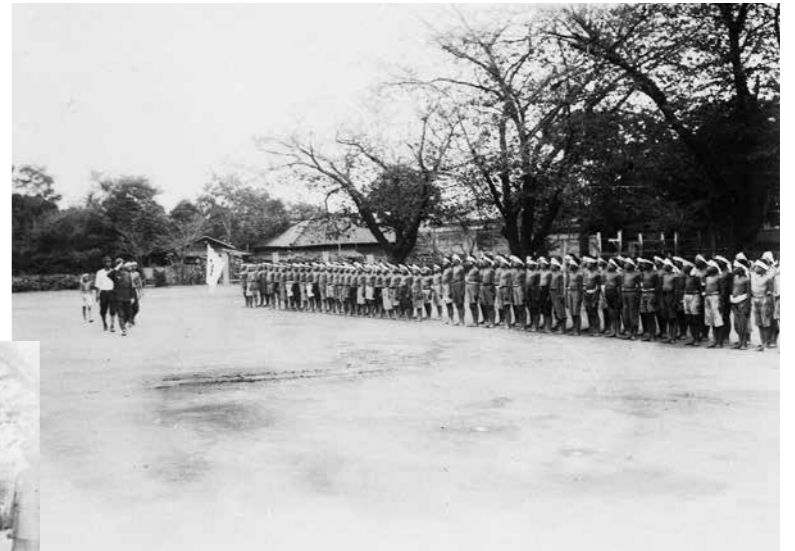
教育者・事業家。元治元年（1864）黒須村の名主の家に生まれた庄平は7歳の頃、母方の実家があった霞ヶ関村の豪農・発智家の養子となります。その後、英才教育を受けた庄平は、東京の共立学校（現開成学園）で高橋是清校長のもと英語などを学びました。

明治16年（1883）に帰郷後は、学校校長などを務め、発智家当主として事業の傍ら教育者としての道を歩きました。明治33年（1900）、黒須信用貯蓄組合（旧黒須銀行）を設立し頭取に就任。「資産を道徳的に運用する」「利益を公共事業に投資する」などを規約とし、「道徳銀行」と称賛されました。大正3年（1914）埼玉県霞ヶ関村村長に、大正7年（1918）、埼玉育児院長となり、昭和3年（1928）松山町（現東松山市）の発智宅から、翌年には現在地に育児院を移転し、事業を拡張しました。

昭和2年（1927）、地域振興策として自身の土地にゴルフ場建設を計画。昭和4年（1929）、近衛文麿、五島慶太、鳩山一郎ら錚々たるメンバーを発起人として、霞ヶ関カンツリー倶楽部を開業しました。



1 発智庄平 [左2人目]と創業者たち(昭和11年)
2 開場式(昭和4年10月6日)
写真提供：霞ヶ関カンツリー倶楽部



現在の川越小学校の軍事教練の閲兵風景(上)
上級生の体育の授業で軍事教練が行われた(左)
(昭和18年~19年頃)



1949

昭和24年

- 2月 第49代内閣総理大臣に吉田茂が就任
- 4月 北大西洋条約機構(NATO)結成
- 7月 岩宿遺跡にて旧石器発見
- 12月 湯川秀樹がノーベル物理学賞を受賞
- 10月 富士見中学校が開校

1948

昭和23年

- 1月 マハトマ・ガンディー暗殺
- 3月 第47代内閣総理大臣に芦田均が就任
- 4月 新制高校・新制大学12校が発足
- 5月 世界保健機構(WHO)発足
- 7月 美空ひばり歌手デビュー
- 10月 ロンドンオリンピック
- 11月 第48代内閣総理大臣に吉田茂が就任
- 3月 GHQ職員ら川越市立図書館を視察

1947

昭和22年

- 4月 労働基準法・地方自治法が公布
- 5月 第46代内閣総理大臣に片山哲が就任
- 9月 日本国憲法が施行
- 11月 関東地方大水害(カスリーン台風)
- 1月 社団法人川越商工会議所設立が認可
- 4月 新学制により新中学校が開校

1946

昭和21年

- 1月 NHKのど自慢放送開始
- 4月 長谷川町子『サザエさん』連載開始
- 5月 第45代内閣総理大臣に吉田茂が就任
- 11月 日本国憲法が公布
- 10月 川越市長に伊藤泰吉が就任
- 11月 西武農業鉄道が西武鉄道に改称

1945

昭和20年

- 3月 東京大空襲、空襲激化
- 4月 第42代内閣総理大臣に鈴木貫太郎が就任
- 戦艦大和が撃沈
- 8月 広島・長崎に原爆投下、玉音放送(終戦)
- 第43代内閣総理大臣に東久通宮稔彦王が就任
- 10月 連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)設置
- 第44代内閣総理大臣に幣原喜重郎が就任
- 4月 川越市長に河合正臣が就任
- 霞ヶ関カンツリー倶楽部が閉鎖
- 8月 河合市長が前夜の熊谷市空襲につき、全市内区長を集めて救援活動を協議。
- この年までに川越市へ疎開した人数は1万2000人を超える

1944

昭和19年

- 6月 大都市の学童集団疎開決定
- 7月 第41代内閣総理大臣に小磯國昭が就任
- 10月 満18歳以上を兵役に編入
- 12月 日清紡績川越工場、中島飛行機の下請工場となる

1943

昭和18年

- 7月 東京府と東京市が統合し、東京都となる
- 7月 第八十五銀行、武州銀行などと合併し埼玉銀行に
- 9月 川越市長に渋谷塊一が就任
- 川越商工会議所が解散



戦後の保健衛生対策として行われた蠅買上げ(昭和20年代)



戦時下の市役所。昭和12年9月から毎月1日は国民精神総動員の日と定められた



防空演習の様子。ガスマスクを着けたり、バケツを手送りにして消化活動にあっている

川越市、その百年
紡がれてきたまちの記憶



西小仙波の山車竣工式の記念写真（昭和32年10月）



川越氷川神社前の松江町2丁目の山車（昭和30年頃）



新河岸川（昭和30年5月／日本カメラ博物館所蔵／菌部澄撮影）



喜多院の境内になっている三位稻荷神社で行われた南大塚のもちつき踊り（昭和28年頃）

1958
昭和33年

- 9月 全市一斉メートル法を実施
- 7月 埼玉県川越職業訓練所（現県立川越高等技術専門学校）が開校
- 12月 第57代内閣総理大臣に岸信介が就任
- 6月 東京タワー完成

1957
昭和32年

- 10月 第56代内閣総理大臣に岸信介が就任
- 8月 インフルエンザ全国に流行、児童だけで50万人以上感染
- 3月 米駐留地上軍が撤退開始
- 3月 川越〜大宮間の荒川に架かる上江橋が竣工
- 8月 市民の歌「われらの川越」完成 発表会が開かれる
- 9月 一か月に及ぶ橋本雅邦名作展が開催（東京国立博物館）
- 10月 川越市から8点が出品される
- 10月 霞ヶ関カンツリー倶楽部で第5回カナタ杯国際ゴルフ大会開催 中村寅吉が優勝

1956
昭和31年

- 10月 鳩山首相らモスクワ訪問、日ソ共同宣言を発表
- 11月 日本が国際連合に加盟
- 11月 メルボルンオリンピック
- 10月 第55代内閣総理大臣に石橋湛山が就任
- 10月 喜多院堂舎修復落慶及び太田道灌江戸築城500年記念で大名行列が行われる

1955
昭和30年

- 3月 第53代内閣総理大臣に鳩山一郎が就任
- 5月 ワルシャワ条約機構(WPO)結成
- 10月 日本社会党右派・左派統一
- 11月 自由党・日本民主同盟、自由民主党を結成
- 1月 第54代内閣総理大臣に鳩山一郎が就任
- 1月 川越市及び大東村を除く中部行政支会の八か所を合併申請書を県に提出
- 3月 川越市及び大東村、合併申請書を県に提出
- 4月 川越市と隣接9か村の合併記念式が行われる
- 市村合併後、最初の市議会議員選挙が行われる

1954
昭和29年

- 12月 第52代内閣総理大臣に鳩山一郎が就任
- 5月 川越市職業センター（授産施設）が設立
- 川越市上下水道、給水を開始

1953
昭和28年

- 2月 NHKテレビ放送を開始
- 5月 第51代内閣総理大臣に吉田茂が就任
- 2月 市役所に水道課が設置
- 12月 川越市教育委員会発足
- 11月 川越市制施行30周年
- 6月 川越市初雁球場が完成、巨人対松竹戦が開催
- 9月 老袋の入間川の岸辺から縄文時代後期の丸木舟が発見される
- 7月 川越市教育委員会発足
- 7月 ヘルシンキオリンピック
- 10月 第50代内閣総理大臣に吉田茂が就任

1952
昭和27年

- 2月 イギリスのエリザベス2世が即位
- 4月 手塚治虫『鉄腕アトム』連載開始
- 5月 メーデー参加者、皇居前広場で警官隊と衝突
- 8月 川越市営プールが開場
- 4月 「市政だより」第一号が発行
- 9月 サンフランシスコ講和条約締結
- 6月 日本がユネスコに加盟
- 9月 日米安全保障条約締結

1951
昭和26年

- 1月 初雁グラウンド整備工事を開始
- 7月 金閣寺放火、焼失
- 6月 朝鮮戦争勃発

1950
昭和25年

当時の消防車「フォード号」での操法訓練。奥に見えるのは旧市庁舎（昭和29年11月）



県立川越高等学校の前で行われた川越消防団の訓練（昭和29年9月）



市民プール（昭和46年）



一番街・時の鐘周辺（昭和30年5月）

上江橋の完成（昭和32年）

川越市、その百年
紡がれてきたまちの記憶



埼玉国体開催（昭和42年）



昭和42年の埼玉国体に向けて前年に完成した市民体育館（昭和56年）



上江橋料金所（昭和30年代）



高沢橋（昭和30年頃）

1967
昭和42年

- 2月 第62代内閣総理大臣に佐藤栄作が就任
- 9月 埼玉国体開催
- 10月 吉田茂元首相の国葬が行われる
- 3月 川越城本丸御殿が県指定有形文化財となる
- 4月 広報の題字が「川越」となる
- 9月 高沢橋が竣工
- 10月 月吉陸橋が竣工
- 市内でバレーボール及び軟式野球の国体競技が開催される

1966
昭和41年

- 2月 全日空機が東京湾に墜落、133人が死亡
- 5月 文化大革命始まる
- 6月 ビートルズ来日
- 4月 川越警察署が移転
- 7月 川越狭山工業団地の完工式
- 三笠宮様牛塚古墳を「見学市民体育館」が竣工
- 10月 市民体育館が竣工
- 12月 川越市合併史稿発刊

1965
昭和40年

- 2月 アメリカによる北ベトナム爆撃開始
- 6月 日韓基本条約締結
- 12月 朝永振一郎がノーベル物理学賞を受賞
- 9月 国際商科大学（現東京国際大学）が設立
- 川越市長に加藤瀧二が就任

1964
昭和39年

- 8月 トンキン湾事件
- 10月 東海道新幹線開業
- 東京オリンピック
- 11月 第61代内閣総理大臣に佐藤栄作が就任
- 4月 市立養護学校が開校
- 5月 川越市民会館が竣工

1963
昭和38年

- 1月 日本初の長編テレビ用連続アニメ『鉄腕アトム』放送開始
- 4月 NHK大河ドラマが放送開始
- 8月 米英ソ連が部分的核実験停止条約調印
- 11月 ケネディ大統領暗殺
- 12月 第60代内閣総理大臣に池田勇人が就任
- 7月 市内上寺山と鯨井を結ぶ雁見橋が開通

1962
昭和37年

- 2月 東京都の人口が1,000万人を突破
- 10月 ケネディ大統領 キューバ海上封鎖（キューバ危機）
- 12月 首都高速道路「京橋」芝浦間が開通
- 12月 市制施行40周年

1961
昭和36年

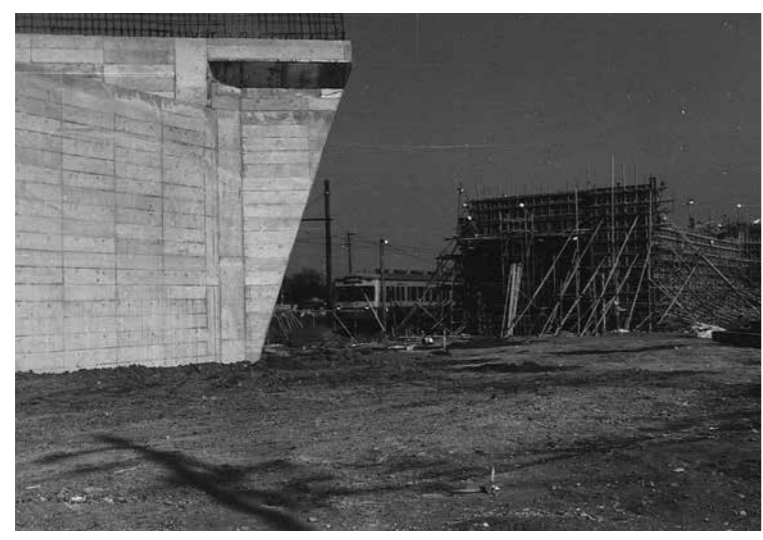
- 8月 東ドイツが東西ベルリンの境界封鎖、ベルリンの壁建設
- 3月 町名地番整理を開始
- 5月 東洋大学工学部が名細地区に開校
- 東中学校が開校

1960
昭和35年

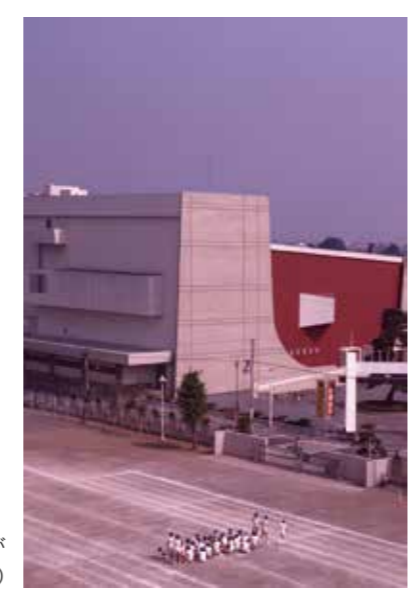
- 6月 安保阻止行動が繰り返され、国会構内で学生1名死亡
- 7月 第58代内閣総理大臣に池田勇人が就任
- 8月 ローマオリンピック
- 12月 第59代内閣総理大臣に池田勇人が就任
- 所得倍増計画を発表
- 4月 初雁公園で埼玉県産業文化展が開催
- 小ヶ谷の初雁橋が完成
- 8月 第一回百万灯ちようちん祭りが開催

1959
昭和34年

- 9月 伊勢湾台風
- 1月 池袋の百貨店で川越文化展が開催
- 4月 月越小学校が開校
- 7月 県立川越高等学校野球部、西関東大会優勝
- 甲子園出場
- 12月 川越市観光協会が発足



工事中の関越道・川越インターチェンジ（昭和40年頃）



川越市民会館が完成（昭和39年）



市制施行40周年（昭和37年）



昭和30年代の鍛冶町通り



市制施行50周年の川越まつり（昭和47年）



川越市市制施行50周年
現在の川越市役所本庁舎が完成した
（昭和47年）

1972
昭和47年

1971
昭和46年

1970
昭和45年

1969
昭和44年

1968
昭和43年

- 2月 札幌オリンピック
- 浅間山荘事件
- 5月 宮史郎とびんからトリオ「女のみち」リリース
- 沖縄返還
- 6月 田中角栄通産相「日本列島改造論」を発表
- 7月 第64代内閣総理大臣に田中角栄が就任
- 8月 ミュンヘンオリンピック
- 9月 日中共同声明
- 12月 第65代内閣総理大臣に田中角栄が就任
- 1月 棚倉町との友好都市調印式
- 山田市民センターが竣工
- 6月 川越市山の家が都幾川村の奥武蔵高原に開業
- 9月 新市庁舎基礎式
- 10月 新市庁舎の移転執務開始
- 12月 市制施行50周年記念歴史展が新庁舎と市内百貨店にて開催
市制施行50周年記念川越まつりが開催、山車24台が出る
市制施行50周年

- 1月 第一回タボス会議
- 8月 アメリカがドルと金の交換停止（ニクソンショック）
- 3月 古谷市民センターが竣工
- 4月 平塚橋が竣工
- 12月 関越自動車道「東京〜川越」間が開通、県内初の高速道路

- 1月 人口15万突破
- 4月 霞ヶ関北小学校が開校
- 7月 川越工業高校野球部が高校野球西関東大会で優勝、甲子園出場
- 8月 川越中央公民館が竣工
- 9月 国鉄川越線から蒸気機関車が姿を消す
- 10月 脇田本町から南大塚へ移転した少年刑務所が竣工
- 11月 川越勤労青少年ホームがオープン
- 1月 第63代内閣総理大臣に佐藤栄作が就任
- 3月 日本万国博覧会（大阪万博）開催
- よど号ハイジャック事件
- 11月 三島由紀夫、市ヶ谷駐屯地で割腹自殺
- 3月 川越商工会議所が現在地に移転
- 芳野市民センターが竣工
- 4月 武蔵野小学校が開校
- 高階南小学校が開校
- 7月 上戸運動公園が完成

- 1月 東安田講堂事件
- 7月 アポロ11号人類初月面着陸
- 8月 映画「男はつらいよ」第1作公開
- 藤子・F・不二雄『ドラえもん』連載開始
- 4月 東名高速道路一部開業
- 東京に霞が関ビルディングが完成
- 5月 松下幸之助著『道をひらく』発刊
- 6月 小笠原諸島が日本に返還される
- 10月 メキシコシティオリンピック
- 11月 さいとうたかお「ゴルゴ13」連載開始
- 12月 川端康成がノーベル文学賞を受賞
- 2月 川越城本丸御殿が復元
- 3月 川越氷川祭山車（10台）、付祭礼絵馬、祭礼絵巻が県指定有形民俗文化財となる
- 4月 広報誌「川越」2回発行となる
- 8月 川越市と川島町を結ぶ落合橋（上り線部分）が竣工



新庁舎基礎式（現市役所本庁舎／昭和47年）



川越市民会館で行われた川越商工会議所の
創立70周年・新舎屋移転記念会員大会（昭和45年3月）



昭和39年から平成初め頃まで、本丸御殿前には
使われなくなったSLが展示されていた（昭和49年）

川越市、その百年

紡がれてきたまちの記憶



新富町商店街 (昭和53年)



立門前通り (昭和53年)



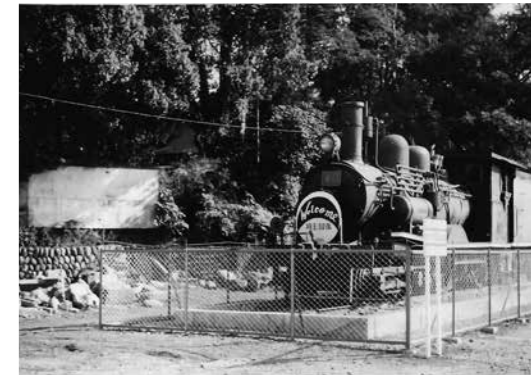
川越駅東口 (昭和53年)



志多町のマミーマート (昭和51年7月2日)



国道16号の一部として川越環状線開通 (昭和49年)



初雁公園のSL。東武鉄道の蒸気機関車が展示されていた (昭和48年10月)

1979 昭和54年

- 4月 富野由悠季・矢立肇原作アニメ『機動戦士ガンダム』放送開始
- 7月 ソニー「ウォークマン」発売
- 11月 第69代内閣総理大臣に大平正芳が就任
- 12月 ソ連アフガニスタン侵攻
- 3月 福原市民センター竣工
- 9月 人口25万人突破
- 10月 「わが街川越」放送開始

1978 昭和53年

- 5月 成田空港開港
- 12月 第68代内閣総理大臣に大平正芳が就任
- 4月 寺尾小学校が開校
- 霞ヶ関西小学校が開校
- 10月 西清掃センター本運転開始
- 11月 落合橋開通式

1977 昭和52年

- 6月 全米女子プロゴルフ選手権で樋口久子が優勝
- 9月 王貞治ホームラン世界記録達成
- 3月 南古谷市民センターが竣工
- 4月 牛子小学校が開校
- 寺尾中学校が開校
- 霞ヶ関東中学校が開校
- 7月 戸田川越荘オープン
- 10月 蔵造り資料館が竣工
- 11月 皇太子ご夫妻行啓

1976 昭和51年

- 2月 ロッキード事件発覚
- 7月 モントリオールオリンピック
- 12月 第67代内閣総理大臣に福田赳夫が就任
- 4月 大塚小学校が開校
- 上戸小学校が開校
- 霞ヶ関市民センターが竣工
- 8月 冒険の森(伊佐沼)が完成
- 9月

1975 昭和50年

- 4月 ベトナム戦争が終結
- 5月 田部井淳子、女性で初めてエベレスト登頂に成功
- 12月 子門真人「およげ!たいやきくん」リリース
- 4月 霞ヶ関東小学校が開校
- 5月 霞ヶ関北公民館が竣工
- 7月 川越市海の家が千葉県山武市にオープン
- 8月 関越自動車道「川越〜東松山」間開通

1974 昭和49年

- 8月 ウォーターゲート事件でニクソン大統領辞任
- 12月 佐藤栄作がノーベル平和賞を受賞
- 第66代内閣総理大臣に三木武夫が就任
- 4月 今成小学校が開校
- 霞ヶ関南小学校が開校
- 9月 高階西小学校が開校
- 10月 川越環状線が開通
- 川越武道館が開館

- 11月 市立川越診療所が小仙波に開所
- 12月 川越市と川島町を結ぶ釘無橋が開通
- 10月 大東公民館が竣工
- 8月 川越工業高校が甲子園出場、準決勝で惜敗
- 6月 人口20万人突破
- 高階北小学校が開校
- 八瀬大橋開通
- 4月 川越市・川島町で組織する川越地区消防組合が発足
- 12月 江崎玲於奈がノーベル物理学賞を受賞
- 10月 アラブ石油輸出国機構、石油生産の削減を決定 (第一次オイルショック)
- 2月 円変動相場制移行



日鶴川座 (昭和50年代)



伊佐沼冒険の森オープン (昭和51年)



川越武道館の開館 (昭和49年)



旧織物市場 (昭和50年頃)



一番街 (昭和54年)



本川越駅前 (昭和53年)

1980-1988
川越市、その百年
紡がれてきたまちの記憶



一番街 (昭和60年頃)



川越駅西口 (昭和60年代)



元町1丁目の大沢家住宅 (昭和55年)



志多町の梅原商店 (昭和55年1月2日)



志多町の柳屋酒店 (昭和56年1月3日)

1988
昭和63年

- 10月 川越水上公園が完成
- 7月 川越西文化会館(メルト)が竣工
- 9月 ソルオリンピック
- 4月 瀬戸大橋開通
- 3月 青函トンネル開通

1987
昭和62年

- 4月 大東西中学校が開校
- 古谷東小学校が開校
- 市民グランド(宮元町)が完成
- 8月 東武東上線、営団地下鉄有楽町線相互直通運転を開始
- 市内11農協合併、川越市農協誕生
- 12月 利根川進がノーベル生理学・医学賞を受賞
- 11月 第74代内閣総理大臣に竹下登が就任
- 3月 国鉄民営化

1986
昭和61年

- 4月 チェルノーベリ原発事故
- 5月 エニックス「ドラゴンクエスト」発売
- 7月 第73代内閣総理大臣に中曽根康弘が就任
- さくらももこ『ちびまるこちゃん』連載開始
- 2月 第57回選抜高校野球
- 4月 秀明高校甲子園出場決定
- 9月 高階西中学校が開校
- 川越線電化開通

1985
昭和60年

- 8月 日本航空123便墜落事故
- 9月 任天堂「スーパーマリオブラザーズ」発売
- 10月 任天堂「スーパードライク」発売
- 12月 大東南公民館が竣工
- 河越館跡が国指定史跡に

1984
昭和59年

- 7月 ロサンゼルスオリンピック
- 11月 鳥山明「ドラゴンボール」連載開始
- 4月 川越西小学校が開校
- 南古谷中学校が開校
- 霞ヶ関西中学校が開校
- 川越西中学校が開校
- 児童センター「子どもの城」が竣工
- 8月 オツフェンバッハ市と姉妹都市盟約

1983
昭和58年

- 4月 東京ディズニーランド開園
- 12月 第72代内閣総理大臣に中曽根康弘が就任
- 4月 川越西小学校が開校
- 南古谷中学校が開校
- 霞ヶ関西中学校が開校
- 川越西中学校が開校
- 児童センター「子どもの城」が竣工
- 8月 オツフェンバッハ市と姉妹都市盟約

1982
昭和57年

- 2月 ホテルニュージャパン火災
- 6月 東北新幹線一部開業
- 11月 第71代内閣総理大臣に中曽根康弘が就任
- 4月 新宿小学校が開校
- 野田中学校が開校
- 7月 太田道灌公像、10年ぶりに屋外へ
- 10月 市の木(櫻)、市の花(山吹)が決定
- 11月 小浜市と姉妹都市盟約
- 12月 市制施行60周年

1981
昭和56年

- 3月 黒柳徹子著『窓際のトットちゃん』発行
- 12月 福井謙一がノーベル化学賞を受賞
- 2月 川越市長に川合喜一が就任
- 3月 高階南公民館が竣工
- 4月 広谷小学校が開校
- 砂中学校が開校
- 8月 254号ハイパスが開通(川越〜富士見)

1980
昭和55年

- 7月 第70代内閣総理大臣に鈴木善幸が就任
- 12月 モスクワオリンピック
- 12月 ジョン・レノン殺害
- 4月 鯨井中学校が開校
- 保健センターが開校
- 8月 環境衛生センター運転開始



川越水上公園の完成 (昭和63年)



川越銀座通り商店街 (現大正浪漫夢通り/昭和56年)

川越西文化会館「メルト」の完成 (昭和63年)



児童センター「子どもの城」の完成 (昭和58年)



市制施行60周年記念式典(昭和57年)



東明寺門前通りの長屋 (昭和55年8月20日)

1989-1993

川越市、その百年

紡がれてきたまちの記憶



一番街の電線類地中化事業
(平成4年)



川越市やまぶき会館の完成 (平成4年)



前年に電線類地中化工事が完了した一番街 (平成5年)

1993
平成5年

1992
平成4年

1991
平成3年

1990
平成2年

1989
平成元年(昭和64年)

- 1993 (平成5年)
 - 7月 川越西郵便局が開局
 - 2月 川越市長に舟橋功一が就任
 - 12月 姫路城(兵庫県)、法隆寺地域の仏教建造物(奈良県)が世界文化遺産に登録
 - 11月 屋久島(鹿児島県)、白神山地(青森県・秋田県)が世界自然遺産に登録
 - 8月 第79代内閣総理大臣に細川護国が就任
 - 11月 欧州連合(EU)が発足
- 1992 (平成4年)
 - 12月 市制施行70周年
 - 9月 市鳥を「雁」に決定
 - 8月 川越運動公園陸上競技場が完成
 - 3月 一番街の電線類地中化工事が完了
 - 8月 秀明高校、夏の甲子園に出場
 - 3月 川越市やまぶき会館が竣工、6月から一般利用開始
 - 7月 バルセロナオリンピック
 - 5月 米米CLUB「君がいるだけで/愛してる」リリース
- 1991 (平成3年)
 - 9月 西武新宿線本川越駅ビルが完成
 - 12月 本川越駅証明センターが業務開始
 - 北公民館が竣工
- 1990 (平成2年)
 - 5月 川越城本丸御殿家老話所が公開
 - 3月 川越市立博物館が竣工
 - 8月 川越商業高校野球部、初の甲子園出場
 - 12月 農業ふれあいセンターがオープン
- 1989 (平成元年(昭和64年))
 - 1月 平成に改元
 - 4月 消費税導入
 - 6月 天安門事件
 - 8月 第75代内閣総理大臣に宇野宗佑が就任
 - 11月 第76代内閣総理大臣に海部俊樹が就任
 - 11月 ベルリンの壁崩壊 東西ドイツ統一
 - 1月 NHK大河「春日局」放送スタート
 - 3月 全国高校バレー、川越商業高校女子バレー部が銅メダル
 - 全国高校ソフトボール、星野女子高校が5年ぶり3度目の日本一
 - 川越市民センター竣工



本川越駅前 (平成4年頃)



川越駅前(東口)のモニュメントと
バスロータリー (平成2年頃)

観光産業の発展と 魅力的なまちづくり

平成は川越が観光地として定着してきた時代です。旧市街地を中心とし、遺されてきた伝統的な建造物や文化が見直され、新しい観光資源として注目され始めました。さらに駅周辺の整備や、埼玉川越総合地方卸売市場、川越市立博物館・美術館など多くの施設がオープンし、住む人々にとっても暮らしやすく、地域の歴史や文化により触れられるまちへと進化しました。また、平成7年に「川越氷川祭の山車行事」が国の重要無形民俗文化財に指定され、平成28年にはユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」に登録されました。日本だけでなく、海外にも川越の名が広まり、平成後期には外国人観光客も急増しました。

looks back to
100 years with
a picture.

平成

1989-2019



川越商工会議所と川越銀座通り商店街（現大正浪漫夢通り／平成6年頃）



川越銀座通り商店街のアーケード（平成6年頃）

1994
平成6年

- 4月 第80代内閣総理大臣に羽田孜が就任
- 6月 第81代内閣総理大臣に村山富市が就任
- 12月 古都京都の文化財(京都府・滋賀県)が世界文化遺産に登録
- 大江健三郎がノーベル文学賞を受賞
- 1月 川越南文化会館(ジョイフル)が竣工
- 3月 鐘つき通り電線類地中化が完了
- 5月 埼玉川越総合地方卸売市場が営業開始

1995
平成7年

- 1月 阪神淡路大震災
- 3月 地下鉄サリン事件
- 12月 白川郷・五箇山の合掌造り集落(岐阜県・富山県)が世界文化遺産に登録

1996
平成8年

- 1月 第82代内閣総理大臣に橋本龍太郎が就任
- 2月 任天堂「ポケモン」発売
- 7月 アトランタオリンピック
- 11月 第83代内閣総理大臣に橋本龍太郎が就任
- 12月 厳島神社(広島県)、原爆ドーム(広島県)が世界文化遺産に登録

1997
平成9年

- 3月 川越シャトル(東南コース)運行開始
- 4月 川越運動公園テニスコートが完成
- 6月 時の鐘が環境庁の「残したい日本の音風景百選」に選ばれる
- 11月 あさひ銀行川越支店(旧八十五銀行本店本館)の建物が文化庁「登録有形文化財」に登録される
- 8月 荒川にかかる国道16号の上江橋が完成
- 7月 香港がイギリスの植民地から中国へ返還される
- 11月 尾田栄一郎「ONE PIECE」連載開始
- 11月 ジェームスキャメロン監督映画「タイタニック」公開
- サッカー日本代表がW杯の初出場を決める
- 山一証券自主廃業

1998
平成10年

- 2月 長野オリンピック
- 6月 サッカーW杯フランス大会に日本初出場
- 7月 第84代内閣総理大臣に小淵恵三が就任
- 12月 古都奈良の文化財(奈良県)が世界文化遺産に登録
- 8月 小江戸大相撲川越場所が開催(川越運動公園)集中豪雨災害が発生

1999
平成11年

- 3月 速水けんたろう・成森あゆみ他「だんご3兄弟」リリース
- 12月 日光の社寺(栃木県)が世界文化遺産に登録
- JKローリング著「ハリーポッターと賢者の石」発行
- 3月 川越市が「業務核都市」に指定
- 4月 総合保健センター(小ヶ谷)がオープン
- 8月 集中豪雨で市内約700世帯が床下・床上浸水被害
- 12月 一番街を中心に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定

2000
平成12年

- 1月 サザンオールスターズ「TSUNAMI」リリース
- 4月 第85代内閣総理大臣に森喜朗が就任
- 7月 第86代内閣総理大臣に森喜朗が就任
- 9月 シドニーオリンピック
- 12月 白川英樹がノーベル化学賞を受賞
- 琉球王国のグスク及び関連遺産群(沖縄県)が世界文化遺産に登録

2001
平成13年

- 4月 教育総合相談センター「リベラ」がオープン(的場)
- 7月 尚美学園大学が開校
- 川越市民聖苑やすらぎのさと竣工
- 3月 ユニバーサルスタジアム・ジャパンがオープン
- 4月 第87代内閣総理大臣に小泉純一郎が就任
- 7月 宮崎駿の原作映画「千と千尋の神隠し」公開
- 9月 東京デイズニッシーが開園
- 12月 アメリカ同時多発テロ
- 野依良治がノーベル化学賞を受賞
- 1月 霞ヶ関北市民センター竣工
- 3月 大正浪漫夢通り(旧銀座商店街部分)の石張り舗装工事が完成
- 9月 伊勢原公民館竣工



川越運動公園総合体育館で行われた小江戸大相撲川越場所（平成10年）



川越南文化会館「ジョイフル」の完成（平成6年頃）



鐘つき通り電線類地中化工事（平成6年頃）

川越市、その百年

紡がれてきたまちの記憶



天皇、皇后両陛下とスウェーデン国王、王妃両陛下による川越ご訪問(平成19年)



仙波河岸史跡公園の開園(平成16年)



川越まつり会館の完成(平成15年)



大正浪漫夢通り(平成14年頃)

2009 平成21年

- 7月 国内46年ぶり、皆既日食
- 9月 第93代内閣総理大臣に鳩山由紀夫が就任
- 2月 川越市長に川合善明が就任
- 3月 NHK連続テレビ小説「ばいばい」放送開始
- 7月 名細市民センターが竣工
- 11月 河越館跡史跡公園が完成



河越館跡史跡公園の竣工式(平成21年)

2008 平成20年

- 8月 市内の各会場で彩夏到来08埼玉総体「女子バレーボール競技」を開催
- 7月 川越運動公園総合体育館で彩夏到来08埼玉総体「弓道競技」を開催
- 6月 東京メトロ副都心線と東武東上線の相互直通運転が開始
- 2月 東部地域ふれあいセンター(南古谷)が竣工



川越ナンバー導入(平成17年)

2007 平成19年

- 3月 天皇、皇后両陛下とスウェーデン国王、王妃両陛下が川越をご訪問
- 12月 高階市民センターが竣工
- 9月 第91代内閣総理大臣に福田康夫が就任
- 7月 石見銀山遺跡とその文化的景観(島根県)が日本の世界文化遺産に登録
- 2月 第1回東京マラソンが開園



彩の国まごころ国体開催(平成16年)

2006 平成18年

- 3月 川越城「日本100名城」に選定される
- 7月 霞ヶ関駅北口が開設
- 2月 表参道ヒルズがオープン
- 9月 第90代内閣総理大臣に安倍晋三が就任
- 12月 民放全局が地上デジタルテレビ放送を開始

2005 平成17年

- 2月 「川越氷川祭の山車行事」が国の重要無形民俗文化財に指定
- 7月 自動車の川越ナンバー導入決定
- 9月 第89代内閣総理大臣に小泉純一郎が就任
- 7月 知床(北海道)が世界自然遺産に登録



川越市立美術館の完成(平成14年)

2004 平成16年

- 7月 紀伊山地の霊場と参詣道(三重県・奈良県・和歌山県)が世界文化遺産に登録
- 8月 アテネオリンピック
- 4月 川越市保健所(小ヶ谷)が開設
- 5月 仙波河岸史跡公園が開園
- 9月 彩の国まごころ国体夏季大会開催(サッカー・ゴルフ)
- 10月 彩の国まごころ国体秋季大会開催(バレーボール・高校野球)

2003 平成15年

- 3月 イラク戦争
- 3月 「千と千尋の神隠し」が第75回アカデミー賞・長編アニメ賞を受賞
- 4月 SARS流行
- 4月 六本木ヒルズ開業
- 11月 第88代内閣総理大臣に小泉純一郎が就任
- 4月 中核市・川越スタート
- 9月 下水道事業の公営企業化、上下水道局新設
- 9月 川越まつり会館がオープン



クラッセ川越の完成(平成14年)

2002 平成14年

- 5月 サッカーW杯日韓大会
- 9月 小泉首相が日本の首相として史上初めて北朝鮮を訪問
- 12月 田中耕一がノーベル化学賞を受賞、小柴昌俊がノーベル物理学賞を受賞
- 7月 「クラッセ川越」がオープン
- 9月 北部地域ふれあいセンターが竣工
- 10月 オータン市(フランス)と姉妹都市盟約に調印
- 11月 中札内村(北海道)と友好都市盟約に調印
- 12月 市制施行80周年
- 川越市立美術館がオープン



「川越氷川祭の山車行事」
ユネスコ無形文化遺産登録
記念式典（平成28年）



市制施行90周年
川越まつり（平成24年）



サンマ祭り



姉妹友好サミット



佐々木則夫さん講演



記念式典

市制施行90周年記念事業（平成24年）



仲町観光案内所のオープン（平成23年）



川越市マスコットキャラクター
「ときも」の誕生（平成22年）

2018
平成30年

- 6月 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産（長崎県・熊本県が世界文化遺産に登録）
- 10月 豊洲市場が開場
- 11月 「来訪神」仮面・仮装の神々がユネスコ無形文化遺産に登録
- 12月 本庶佑がノーベル生理学・医学賞を受賞
- 3月 産業観光館（蔵里）昭和蔵リニューアル
- 12月 霞ヶ関西公民館竣工

2017
平成29年

- 7月 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群（福岡県）が世界文化遺産に登録
- 11月 トランプ大統領が来日、霞ヶ関カンツリー倶楽部でゴルフ
- 12月 第98代内閣総理大臣に安倍晋三が就任
- 1月 時の鐘の耐震化工事が完了
- 3月 「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が日本農業遺産に認定
- 4月 川越市斎場（小仙波）の供用開始
- 12月 新河岸駅の自由通路および橋上駅舎、西口駅前広場が完成、東口を新設

2016
平成28年

- 2月 本川越駅西口が開設
- 4月 旧山崎家別邸がオープン
- 12月 「川越氷川祭の山車行事」がユネスコ無形文化遺産に登録
- 7月 ル・コルビュジエの建築作品―近代建築運動への顕著な貢献―（日本・フランス・イギリス・ベルギー・アルゼンチン・インド）が世界文化遺産に登録
- 8月 リオオリンピック
- 12月 大隅良典がノーベル生理学・医学賞を受賞
- 山・鉾・屋台行事がユネスコ無形文化遺産に登録

2015
平成27年

- 7月 明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業（福岡県・佐賀県・熊本県・鹿児島県・山口県・岩手県 静岡県）が世界文化遺産に登録
- 9月 ラグビーW杯、日本が初戦で南アフリカに歴史的勝利
- 10月 マイナポータル制度が運用開始
- 12月 梶田隆章がノーベル物理学賞を受賞
- 大村智がノーベル生理学・医学賞を受賞
- 3月 ウェスタ川越竣工
- 8月 人口35万人突破
- 10月 東京国際大学の箱根駅伝初出場決定
- 11月 県立川越工業高校の生徒が、乾電池で動く電車でギネス世界記録達成
- 12月 県立川越高校出身の梶田隆章がノーベル物理学賞を受賞

2014
平成26年

- 6月 富岡製糸場と絹産業遺産群（群馬県）が世界文化遺産に登録
- 9月 御嶽山が大噴火
- 11月 「和紙」日本の手漉和紙技術がユネスコ無形文化遺産に登録
- 12月 赤崎勇、天野浩、中村修二がノーベル物理学賞を受賞
- 第97代内閣総理大臣に安倍晋三が就任
- 1月 箱根駅伝で東洋大学が2年ぶり4度目の総合優勝
- 3月 川越駅西口駅前広場供用開始

2013
平成25年

- 6月 富士山―信仰の対象と芸術の源泉―（山梨県・静岡県）が世界文化遺産に登録
- 12月 「和食」日本人の伝統的な食文化がユネスコ無形文化遺産に登録
- 3月 東武東上線が東急東横線とみどり線との相互直通運転を開始
- 9月 2020東京オリンピック・パラリンピック開催決定、市内でゴルフ競技開催予定
- 大東市民センターが竣工
- 12月 川越市自転車シェアリングが開始

2012
平成24年

- 2月 東京スカイツリー完成
- 7月 ロンドンオリンピック
- 12月 山中伸弥がノーベル生理学・医学賞を受賞
- 第96代内閣総理大臣に安倍晋三が就任
- 那智の田楽がユネスコ無形文化遺産に登録
- 1月 箱根駅伝で東洋大学が大会新記録で総合優勝
- 市シンボルマークが誕生
- 8月 なぐわし公園PICKOA（ピコア）完成
- 12月 市制施行90周年

2011
平成23年

- 3月 東日本大震災
- 6月 小笠原諸島（東京都）が世界自然遺産に登録
- 平泉―仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群―（岩手県）が世界文化遺産に登録
- 9月 第95代内閣総理大臣に野田佳彦が就任
- 11月 壬生の花田植、佐陀神能がユネスコ無形文化遺産に登録
- Mojang Studios「マインクラフト」発売
- 2月 旧山崎家別邸の庭園が、国の登録記念物に指定される
- 4月 仲町観光案内所・鍛冶町広場がオープン

2010
平成22年

- 6月 小惑星探査機はやぶさが7年間の宇宙の旅を終え帰還
- 第94代内閣総理大臣に菅直人が就任
- 11月 組踊、結城紬がユネスコ無形文化遺産に登録
- 12月 根岸英一、鈴木章がノーベル化学賞を受賞
- チニアのジャスミン革命（アラブの春が始まる）
- 3月 川越市マスコットキャラクター「ときも」発表
- 平塚橋北環状線が開通
- 4月 環境プラザ「つばさ館」がオープン
- 農産物直売所「あくれっしゅ川越」がオープン
- 10月 産業観光館「小江戸蔵里」がオープン



時の鐘耐震化工事の完了
（平成29年）



ウェスタ川越の完成
（平成27年）



産業観光館「小江戸蔵里」の完成（平成22年）



環境プラザ「つばさ館」の完成（平成22年）



農産物直売所「あくれっしゅ川越」
の完成（平成22年）

川越市、その百年
紡がれてきたまちの記憶



東京2020オリンピック聖火リレー（令和3年7月8日）



2022
令和4年

- 2月 ロシアがウクライナへ侵攻
- 3月 東京国立博物館150周年
- 7月 安倍晋三元首相、銃撃
- 10月 鉄道開業150周年（新橋〜横浜間）
- 11月 風流踊がユネスコ無形文化遺産に登録
- 12月 川越まつりが3年ぶりに開催
- 市制施行100周年



市制施行100周年川越まつり（令和4年10月15日、16日）

2021
令和3年

- 7月 東京2020オリンピック聖火リレー
- オリンピックゴルフ競技を霞ヶ関カンツリー倶楽部にて開催
- 子育て安心施設「すくすく川越」オープン



東京2020オリンピックゴルフ競技会場の霞ヶ関カンツリー倶楽部（令和3年）

2020
令和2年

- 6月 複合施設U PLACE（シーブレイン）がオープン
- 7月 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島（鹿児島県・沖縄県）が世界自然遺産に登録
- 北海道・北東北の縄文遺跡群（北海道・青森県・岩手県・秋田県）が世界文化遺産に登録
- 第100代内閣総理大臣に岸田文雄が就任
- 埼玉県150周年
- 真鍋淑郎がノーベル物理学賞を受賞



U PLACEのオープン（令和2年）

2019
令和元年（平成31年）

- 5月 令和に改元
- 7月 百舌鳥・古市古墳群―古代日本の墳墓群―（大阪府）が世界文化遺産に登録
- 12月 吉野彰がノーベル化学賞を受賞
- 2月 川越市デマンド型交通の運行開始
- 3月 県道川越北環状線が全線開通
- 4月 タイ王国を相手国とするホストタウンに登録
- 9月 霞ヶ関西公民館がオープン
- 旧山崎家別邸が国指定重要文化財となる
- 4月 7都府県に新型コロナウイルス蔓延による緊急事態宣言
- 9月 第99代内閣総理大臣に菅義偉が就任
- 10月 吾峠呼世晴の原作映画『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』公開
- 12月 「伝統建築工匠の技」木造建造物を受け継ぐための伝統技術がユネスコ無形文化遺産に登録



市制施行100周年川越まつり。新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりに開催された川越まつりは大いに賑わった（令和4年）

ともに歩む川越市、
次の100年へ

令和元年からの世界的な新型コロナウイルス感染症の蔓延で、令和2年4月に第1回目の緊急事態宣言が発出。川越まつりを含む市内の様々な行事や催しが中止を余儀なくされました。また、東京2020オリンピックは翌令和3年に開催となり、霞ヶ関カンツリー倶楽部でゴルフ競技が行われました。そして令和4年、川越市は記念すべき市制施行100周年を迎えました。10月には3年ぶりとなる川越まつりも開催、市内は大きな喜びと賑わいに包まれました。

looks back to
100 years with
a picture.

令和
2019-2022

今も残る、江戸時代の面影

川越には、今でも本丸御殿をはじめ江戸時代の名残りをとどめる堀跡や神社仏閣、道が多く残されています。

川越のまちは第二次世界大戦の空襲を免れ、江戸時代の風情が残っています。喜多院をはじめとする神社仏閣はもちろん、富士見櫓跡や堀跡（中ノ門堀跡、川越市立特別支援学校周辺など）、土塁（初雁公園内）や蓮池跡（初雁球場）など、地形からも当時の名残りをうかがい知ることができます。川越城の大手門があった場所は現在の川越市役所の東庁舎前であり、現在の市役所本庁舎のあたりには藩校（講学所）もありました。また川越城の近く、現在では学校などの施設となっている場所には、身分の高い武士が広い面積の屋敷を構えていました。

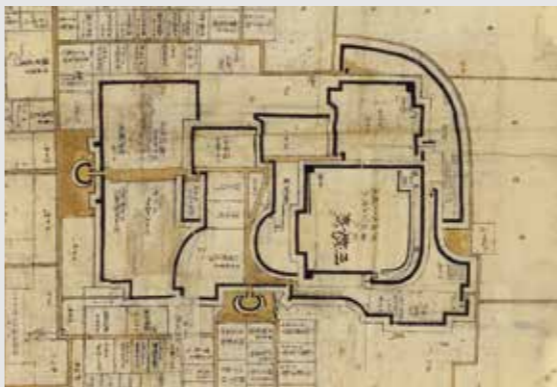


川越城周辺の地形
[カシミール3D「スーパー地形」<http://www.kashmir3d.com/>] を使用]



太田道灌像と大手門跡の碑（川越市役所）

現代の川越のシンボルとも言える時の鐘は江戸時代に建てられました。何度か大火により焼失していますが、その度に藩や川越にかかわる実業家・政治家などの寄付によって再建され、現在も川越のまちに時を告げています。一番街にも江戸時代からの蔵造り（大沢家住宅）が大火を免れて現存しています。また大手町や松江町には江戸街道の名残を留める「鉤の手」と呼ばれる道が現在も残されており、当時のまちな特徴を垣間見ることができます。



狩野文庫 川越城下図（一部）東北大学附属図書館蔵

喜多院

喜多院は天長七年（八三〇）、慈覚大師円仁によって創建されたと伝わります。本尊の阿彌陀如来をはじめ不動明王、毘沙門天等を祀り、当時は無量寿寺と名付けられていました。また、仙芳仙人の故事によると、その起源は奈良時代にまでさかのぼり、湖水から祥雲が昇るのを見て、毘婆尸仏が説法をした遺跡であると感得し、湖の神竜の助けを得て寺を建立したと言われています。

創建後、元久年間に戦火により焼失し、永仁四年（一二九六）に尊海僧正が再興しました。慈恵大師（元三大師）を祀り、関東天台の高僧によって再建された当寺は、関東天台の中心となりました。正安三年（一一三〇）、後二条天皇より関東天台宗の本山となるべき綸旨が下され、無量寿寺仏地院（中院）は、関東五八〇余ヶ寺の本山となりました。



慈恵堂

無量寿寺北院の第27世の法灯（最高位の僧）を継いで住職になり、復興の時代を迎えたとされます。なお、天海僧正は慶長一六年（一六一二）十一月に徳川家康が川越を訪れた際に、接見したといわれています。家康より大きな信頼を得た天海僧正は、以後、秀忠、家光と将軍家に仕えました。



徳川家光公誕生の間

代將軍・徳川家光は、堀田加賀守正盛に復興に取り掛かるよう命じ、江戸城紅葉山（現在の皇居）の別殿を移築して客殿、書院、庫裏を再建しました。現在の喜多院に「徳川家光公誕生の間」や、家光公の乳母であった「春日局化粧の間」があるのはそのためで、家光公が生まれ育った当時の様子を垣間見ることができます。



五百羅漢

はじめ、貴重な文化財として大切に保管されています。また、人々に親しまれている喜多院境内の「五百羅漢」は川越北田島の志誠の発願により、天明二年（一七八二）から文政八年（一八二五）の約五〇年間にわたり建立されたもので、中央高座の大仏、釈迦如来を含む五三八体の羅漢像が鎮座しています。

時の鐘

川越を代表するシンボルである時の鐘は、鐘撞堂とも呼ばれ川越に住む人々に親しまれてきました。その歴史は古く、寛永四年から十一年（一六二七～一六三四）の間に川越藩主を務めた、江戸幕府の重臣酒井忠勝によって多賀町（現在の幸町）の常蓮寺境内に創建されたと伝えられています。当時は大名などの一部の有力者しか

時計を持つことができな時代だったため、商人たちは時の鐘が鳴らす鐘の音によって、正確な時刻を知ることができました。また、享保一八年（一七三三）には火の見櫓が付け足され、時の鐘は火事が発生したことを知らせる早鐘としても利用されるようになりま

以来、長きにわたり川越に住む人々に時を告げてきた時の鐘ですが、度重なる火災により鐘楼や銅鐘が焼失しました。しかし、その度に再建され、現在残る時の鐘は、明治二十六年（一八九三）に発生し、町の四分の一を焼き尽くす甚大な被害を出した川越大火の後に再建されたものです。日々の暮らしに欠かせない時を告げる重要性から、渋沢栄一や高田早苗ら実業家や政治家などの寄付により、いち早く立て直されま



薬師神社

した。

鐘楼に吊るされた銅鐘は、安永五年（一七七六）の再建後は行伝寺より、安政四年（一八五七）の再建後は広濟寺より借用し、現存する銅鐘は川越の鋳物師・矢沢四郎右衛門によって鑄造されました。また、鐘楼については、大工の関根松五郎の設計、建築といわれています。

なお、時の鐘が建てられていた常蓮寺は明治維新の際に薬師神社となり、川越大火の後に時の鐘と共に再建されました。本尊には薬師如来が祀られています。

川越城本丸御殿

長禄元年（一四五七）、上杉持朝の重臣だった太田道真・道灌父子によって築城された河越城。現存する川越城の本丸御殿は江戸時代の嘉永元年（一八四八）、当時の川越藩主だった松平齊典が造営したものです。本来は全部で一六棟の建物がありましたが、明治維新後に次第に解体され、現在、建物の一部である玄関、大広間、家老詰所が残るのみとなりました。川越城は江戸時代から残る東日本唯一の本丸御殿建築として貴重なものです。



中ノ門堀

寛永一六年（一六三九）川越藩主松平綱が城の大改修を行った際に造られたものとされています。現在の川越市役所東庁舎付近の西大手門側から本丸方向への敵の侵入を防ぐために配された堀のひとつです。中ノ門堀の特徴は、城壁側とその向かい側の法面の勾配具合が異なる点です。城壁側は向かい側の三〇度に対して、六〇度の勾配があるため、城壁側が切り立ち、侵入者が堀を乗り越えられない工夫がなされています。



三芳野神社

三芳野神社は、川越城の鎮守として寛永元年（一六二四）、酒井忠勝によって再建されたと言われています。祭神は素戔鳴尊・奇稻田姫命。菅原道真・菅田別尊を合祀しています。天神を祀ることから、童歌「とおりゃんせ」の舞台といわれています。三芳野神社は川越城天神曲輪内にあつたため、一般の町人の参詣はできませんでしたが、外宮には年に2回、参詣が許されていました。



富士見櫓

御嶽神社が祀られている高台には、富士見櫓跡が残されています。櫓は合戦の際の物見や防戦の足場として、城壁、城門など高所に設置されました。川越城には北東隅に二重の虎櫓、本丸北に菱櫓、南西隅に三層の富士見櫓があり、最も高い富士見櫓が天守の代わりとなっていました。櫓は梁間10・36メートル、桁行11・33メートル、高さ10・91メートルあったとされていますが、現在はその姿はありません。





このまちで、
暮らそう。



100th Anniversary
KAWAGOE

川越のこと。

私たちが暮らすまち、川越。
この地の日常に息づく、
奥深い歴史と文化は
多くの人々を魅了しています。
もっと知りたい、
故郷のこと。

何気なく過ごす日常の中で、当たり前のようにそこにある地域の文化。幼い頃に遊んでいたお寺や神社、学校に通っていた道にも、それぞれのストーリーが存在します。私たちは保存されてきた建造物や、昔から変わらない通り、受け継がれてきたあらゆる伝統から、遠い昔よりこの地で生活してきた人々の息遣いを感じることができます。

「川越のこと。」では、古代から市制が施行される大正時代までの歴史や建築、川越まつり、そして農業や商工業の発展の歴史などのトピックスを解説します。100周年を迎えた今、もう一度先人たちの歩んできた道を振り返ることで、繋がり続ける地域の絆が見えてくるのではないのでしょうか。

100周年を迎えた 川越市

都心から30km圏内に位置する川越市。
利便性の高い都市であると同時に、
人々の生活の近くには豊かな自然が寄り添っています。

市域の変遷

明治三十二年（一八八九）、川越町・松郷・寺井村・東明寺村・小久保村・脇田村、野田村の一部と小仙波村が合併し、川越町が誕生しました。その後、大正十一年（一九二二）に川越町と仙波村が合併、県内初の市制が施行されます。昭和十四年（一九三九）には田面沢村を編入合併、昭和三十一年（一九五五）には、隣接の九か村と合併し、現在の市域となりました。

川に囲まれたまち、 川越の自然環境

川越市は埼玉県の南西部に位置する中核市で、都心から約30km圏内に位置し、9市2町に接しています。東部には荒川が、西部から北部を通り東部に向かって入間川が流れ、市

の中心部は新河岸川に囲まれており、比較的高低差の少ない平地になっています。

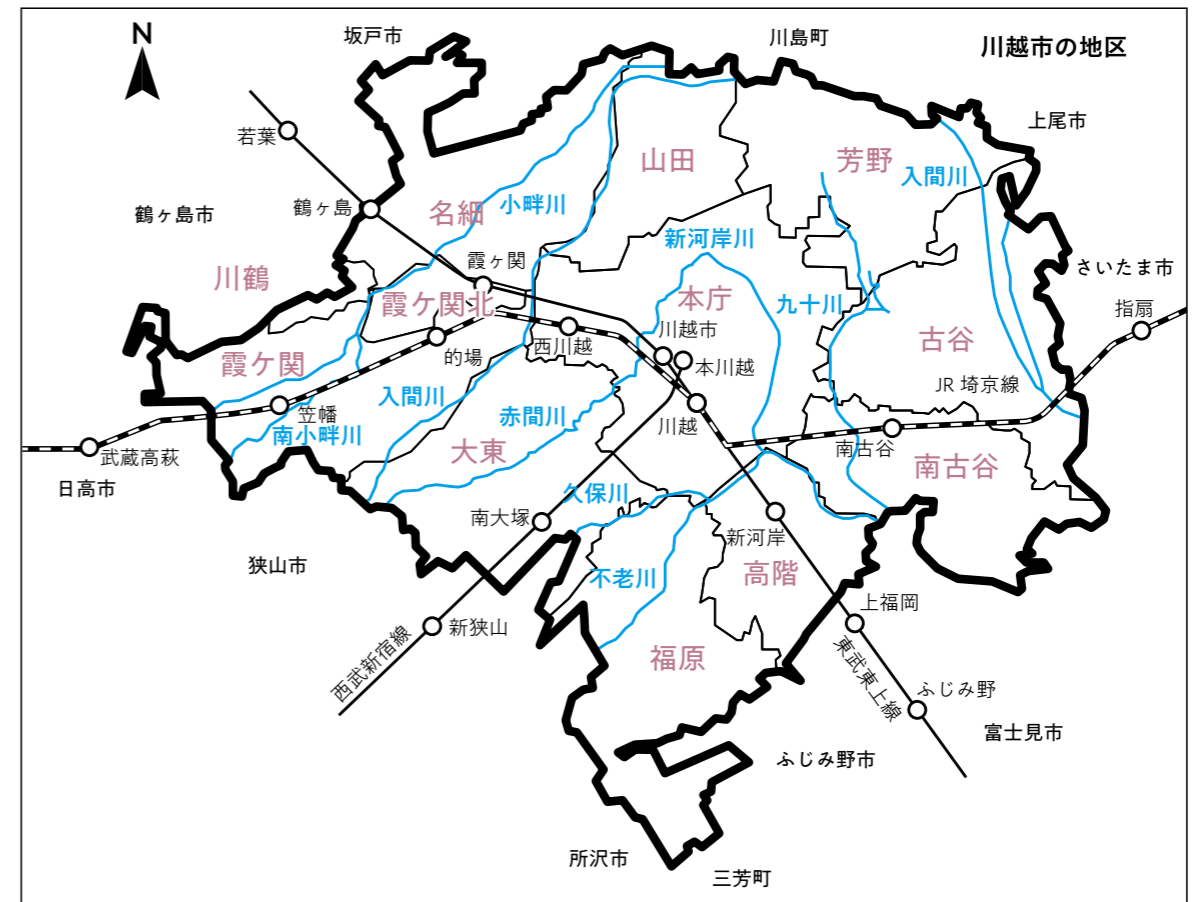
南部、西部から中部までは武蔵野台地上にあり、旧市街地はその北東端に位置します。古代から室町時代にかけては入間川左岸がこの地域における統治の拠点となっていました。室町時代に河越城が築かれたことにより、現在の中心部が徐々に拠点となってきました。また荒川及び入間川沿いは、昔から農地として利用されてきました。入間川扇状地（山間部を流れる川が平坦地へ出たときに

流れが弱まり運ばれてきた土砂が扇状に堆積してできた土地のこと。入間川右岸・大東地区周辺）は古くからの水田で、北部から東部（山田・芳野・古谷・南古谷地区）にかけては稲作地帯となっています。南西部（福原・高階地区）では近世に新田開発が進み、武蔵野の雑木林の面影が残る畑作地帯となっています。

また、川越市には324の公園があり（令和三年三月三十一日現在）、安比奈親水公園や川越水上公園、伊佐沼公園、御伊勢塚公園など大型の公園には多様な生物が生息しています。



時の鐘



角栄商店街（霞ヶ関）

大きな山や丘陵がない川越市ですが、このように河川や沼、雑木林や田畑、公園が人々の暮らしのすぐそばにあり、四季折々の自然が感じられることが川越の特徴です。

歴史と文化が引き継がれた コミュニティ形成

昭和三〇年（一九五五）に旧川越市と9か村が合併し現在の川越市域が形成されました。

【本庁地区】

昭和十四年（一九三九）当時の旧川越市の範囲。北部は近世に城下町として整備され、南部は川越駅や本

川越駅を中心に近代になって飛躍的に発展してきた地区です。城下町としての町割りが今でも残っており、多くの神社仏閣や文化財が集中する地区です。

【芳野地区】

市の北東部に位置し、古くから水田が開かれています。国道16号や県道川越上尾線へのアクセスもよく、工業団地や埼玉医科大学総合医療センター、川越運動公園など多くの施設が設けられている地区です。また伊佐沼は24ヘクタールと県内最大級



入間川



新河岸川

JR川越線の的場駅・笠幡駅周辺では、住宅開発が進んでいます。

【霞ヶ関北地区】
市の西部に位置し、東に入間川、西に小畔川が流れています。昭和四十年代に比較的大規模な住宅団地の開発が行われました。地元の人で賑わう角栄商店街や、武蔵野の面影が残る御伊勢塚公園、東武東上線の霞ヶ関駅があります。

【川鶴地区】
霞ヶ関地区と名細地区に挟まれた小畔川の左岸に位置し、昭和五十年代に日本住宅公団による土地区画整理事業が行われました。野球場などがある笠幡公園のほか、小畔水鳥の



安比奈親水公園

郷公園があります。

【名細地区】
市の北西部に位置し、田畑が広がる地区です。国指定の河越館跡、鎌倉街道の一部など中世の遺構が残っています。東武東上線鶴ヶ島駅が交通の拠点となっており、資源化センターと隣接するなぐわし公園PICKOA（ピコア）があります。

【山田地区】
市の北部に位置し、田園風景が特徴の地区です。国道254号が南北に通じ、沿道の土地利用が進んでいます。また、令和元年（二〇一九）には埼玉県道160号川越北環状線が開通しました。



伊佐沼

の面積を誇り、蓮や沿岸の桜並木など自然の魅力にも溢れています。


【古谷地区】
荒川と入間川の合流点にもなっている東部の地区で、田園風景が残る豊かな穀倉地帯となっています。また国道16号が県東部に向かって横断しています。

【南古谷地区】
市の南東部に位置し、東側の荒川と、西の新河岸川に囲まれた穀倉地帯です。南古谷駅周辺はウニクス南古谷など大規模な商業施設があり、住宅開発が進んでいます。

【高階地区】
新河岸川右岸の台地上にあり、市の南東部に位置し、国道254号（川越街道）と東武東上線が地区内を縦断しています。新河岸川に面する一帯には、江戸時代から大正時代にかけて、城下町川越の経済を支えた舟運の名残も感じとれます。

【福原地区】
市の南部に位置しており、十七世紀半ばに新田開発が盛んに行われました。現在も、平地林や広大な畑地など当時の名残りを有し、川越芋の産地にもなっています。

伊佐沼



明治44年の伊佐沼 右手の薬師神社側にも沼が広がっていた

関東では千葉県印旛沼に次ぐ面積を持つ伊佐沼。灌漑用のため池として使われており、周囲約2,500メートルの自然の沼です。江戸時代にはこの倍以上の広さがあったと言われています。春には桜、初夏には古代蓮が咲きほこり、広場やフィールドアスレチックが楽しめる「冒険の森」も併設されています。また伊佐沼には100種以上の野鳥やキタミソウなどの様々なめずらしい植物が確認されています。



市の鳥

かり
【雁】
平成4年(1992)12月1日指定



市の木

【かしの木】
昭和57年(1982)10月15日指定



市の花

【山吹】
昭和57年(1982)10月15日指定

【大東地区】
市の南西部に位置し、武蔵野台地と扇状地の低地に分かれています。狭山市に向かう国道16号には工業団地やロードサイドの店舗が多く、西武新宿線南大塚駅が地域の交通の拠点となっています。

【霞ヶ関地区】
昭和四年（一九二九）に開設された霞ヶ関カンツリー倶楽部では、東京2020オリンピックのゴルフ競技会場として使用されました。市の西部に位置し、南には入間川が流れています。中央部を流れる小畔川沿いには水田が広がっている一方で、



緑あふれる川越水上公園

紡がれる歴史 古代く大正の川越

古の時代、川越はどのような地だったのでしょうか。
遠浅の海だったとされる7,000~5,500年前から、
古代の役所の歴史、中世の河越氏の台頭や川越城、
近世の城下町の賑わい、近代における産業の発展。
川越に市制が施行されるまでの歴史を振り返ります。

縄文前期の川越

川越は、武蔵野台地（関東平野の荒川、多摩川、入間川に挟まれた広域台地を指します）の北端に位置し、関東ローム層の台地（川越台地、入間台地）と荒川の沖積地である荒川低地から成っています。
今から七、〇〇〇〜五、五〇〇年前頃の縄文時代前期は、縄文海進（現在より海面が二、三メートル高くなり、日本列島各地で、海水が陸地内奥へ浸入する現象）により、海は大宮台地の上尾市平方あたりまで入り込み、川越街道、上尾街道から南の田園地帯は遠浅の海でした。川越の中心市域で見ると、本丸御殿、小仙波貝塚跡辺り、新河岸川沿いが古東京湾（縄文海進時に関東平野一帯に存在した海湾）に面していたようです。こうした地形環境のため気候もおだやかで、

豊かな自然に恵まれた土地でした。

当時の人々の暮らしは、小仙波貝塚、小仙波四丁目遺跡、弁天南遺跡などにおいて、貝層や土器、石器、住居などの発見により垣間見ることが出来ます。当時の川越は海が近かったことから、海産資源を利用していましたがわかりません。縄文時代も後期に差しかかると海退が進み、海産資源の利用は減っていききました。

水稲農耕のはじまり

川越城跡で弥生中期の当時を偲ぶせる竪穴状遺構が発見されました。約二、一〇〇年前の弥生時代中期には、水田耕作の地を求めてやってきた人々による移住がなされ、川越に

も水稲農耕の暮らしが起りました。

水川神社について

六世紀の古墳時代、新河岸川水系には幾つもの古墳群（川越市内の仙波古墳群もその一つ）が築かれています。欽明天皇二年（五四〇）、大宮氷川神社より分祀、奉斎したという伝承がある川越氷川神社には、祭具の一種とみられる剣型石製品が遺されています。氷川神社は、出雲の簸川（スサノオがヤマタノオロチを退治した地）に通じるとされ、武蔵国に氷川神社が多いのも、武蔵国の開拓が出雲一族らによるものであるためとされています。

奈良時代の武蔵国と高麗人の文化技術

八世紀の前半、現在の東京都府中市の大國魂神社境内およびその一帯に武蔵国の国府が置かれ、貴族や有力者が派遣されて来るとともに、地域の豪族は地方役人に編成されていきます。川越周辺地域には武蔵国入間郡が置かれました。入間郡の役所である入間郡家は、霞ヶ関遺跡（川越市上戸新町）にあったとされています。



丸木舟 川越市立博物館蔵



「伊勢物語」のモデルとされる、在原業平三十六歌仙像（在原業平） 東照宮蔵

す。

かの白村江の戦（六六三）の後、唐・新羅の侵攻により天智七年（六六八）に朝鮮半島で栄えた高句麗が滅びたことで、高句麗からの渡来人（高麗人）が、入間川の支流である高麗川や新河岸川流域に移住し、霊龜二年（七一六）に高麗郡がつくられました。

奈良・平安時代の川越と「みよし野の里」

天平一五年（七四三）、聖武天皇の治世に発布された墾田永年私財法により、資本を持った中央貴族、寺社、地方の豪族は活発に開墾を行い、各地に墾田を私有する者が出現しました。武蔵国の豪族の子孫たちも多く墾田を私有していたとされます。

また、平安時代には多くの寺社が建てられました。中央から地方に流れて土着した豪族たちが、都への憧れや信仰心から地方に寺院を建立したことも一因です。天長七年（八三〇）、無量寿寺（現在の喜多院や中院など）が円仁によって創建されたと伝えられています。

平安時代の歌物語である『伊勢物語』にも、こうした川越の地所が登場

場します。「住む処なむ、入間郡みよし野の里なりける。／みよし野の田の面の雁もひたぶるに君が方にぞよると鳴くなる」と、「三芳野の里」という歌枕が出てきます。『伊勢物語』で歌われる「入間の郡、みよし野の里」ですが、川越市内の入間川に面した辺りではないかという説があります。

河越氏と鎌倉時代、「川越」の地名

平安時代末から鎌倉時代にかけて、各地に荘園が発達し、武士がその実権を掌握するようになりました。藤原氏が中央で権勢を握ると、皇族やその他の貴族は地方に下って土着し、地方武士となっていきました。武蔵国ではいわゆる武蔵七党と呼ばれる武士団ができ、平安時代後期から室町時代まで勢力を伸ばすことになりました。そのうちの一つ、桓武平氏の

一門である秩父氏の流れをくむ河越氏は上戸に居館を構え、この地に地盤を固めました。源頼朝に従った河越重頼は、妻が頼朝の嫡子・頼家の乳母に、娘が頼朝の弟・義経の正室になるなど重用されました。しかし、

頼朝と義経の対立が原因で、重頼は殺されてしまいます。ようやく重頼の三男・重員の時代になって、武蔵国留守所物検校職に就き、河越氏は命脈を保ちました。

「川越」の地名の初出は、文応元年（二二六〇）養寿院の銅鐘に「武蔵国河肥庄新日吉山王宮」と銘文にあることによります。河越荘は、平安時代末期から鎌倉時代にかけて、この地方を支配していた河越氏の荘園でした。

上杉氏の進出、太田道灌の河越城築城

元徳三年／元弘元年（二三三一）、鎌倉幕府の打倒を掲げた後醍醐天皇による元弘の乱が起きると、鎌倉幕

府の御家人だった河越貞重は、幕府御家人として上洛。しかし幕府の出先である六波羅探題の陥落により自害しました。貞重の子・高重は父の自刃を知り、幕府方から後醍醐天皇方の倒幕側へと転じ、新田義貞の挙兵に加わりました。元弘三年（二三三三）、鎌倉幕府は滅亡。後醍醐天皇による建武の新政府樹立、その後足利尊氏による室町幕府の時代を迎えます。

応安元年（一三六八）、河越直重を中心とした武士たちは平一揆を結成して蜂起、足利幕府に反旗を翻す（武蔵平一揆の乱）も上杉憲顕（関東管領）に敗退してしまいました（河越氏の多くは伊勢に逃れたと言われます）。正平二四年（一三六九）、平一揆の蜂起



河越太郎重頼のものと思われる供養塔（養寿院）



河越館跡（史跡公園）

河越夜戦、 後北条氏の支配

道灌なき後、扇谷上杉氏は衰亡の一途を辿ります。武蔵国を手に入れようとした小田原の北条氏綱は、大永四年（一五二四）に江戸城を、翌年、岩付城を攻略し、天文六年（一五三七）、遂に河越城を手に入れます。しかし、河越城奪還の機会をうかがう扇谷上杉朝定は、山内上杉氏、古河公方足利晴氏と連合し、天文一四年（一五四五）、今川義元による駿河侵攻によって北条氏康が出陣した時期に挙兵し、大軍で河越城を包囲しました。これを知った氏康は今川義元と和睦して小田原城へ戻り、外交交渉によって不利な状況を変えることに努めました。上杉氏の有力家臣、太田氏が北条氏側についたことを受け、戦いを仕掛けます。小勢であった北条氏康の軍ですが、天文一五年四月二〇日（一五四六年五月一九日）の奇襲が成功し、上杉朝定が討たれ扇谷上杉家は滅亡。山内上杉憲政は上野の平井城へ逃亡し、北条氏による武蔵国支配が本格的に始まります。

家康の江戸転封、 川越藩の立藩

天正一八年（一五九〇）八月、秀吉の命によって徳川家康は江戸への転封が決まります。川越を重要拠点のひとつと考えた家康は、古参の家臣酒井重忠を一万石をもって封じ、ここに川越藩が成立します。重忠以後の藩主は、江戸幕府が開かれた後、松平信綱や柳沢吉保をはじめ八家二人が務めることになりました。いずれも親藩・譜代大名で占められ、うち八名は大老や大老格・老中など、幕政を担う重臣でした。
寛永四年（一六二七）から寛永一

郡に河越城築城を命じました。そして応仁元年（一四六七）に起きた応仁の乱で、都での生活が苦しくなった公家達が、地方の有力武将を頼り、地方に下ったことで都の文化が伝播し、地方文化が開花しました。河越城でも文明二年（一四七〇）に、文雅に通じた太田道真が会主となって連歌会が催され、「河越千句」が遺されました。太田道灌は戦略家として活躍し、扇谷上杉氏を支えました（長尾景春の乱など、数多くの合戦を戦い抜き、上杉家の危機を救いました）。しかし、扇谷上杉氏の家臣団の対立に巻きこまれる形で、文明一八年（一四八六）、主君の扇谷上杉定正に殺されてしまいました。

足利氏の姻戚として、鎌倉公方の内紛を機に関東で勢力を伸ばした上杉氏は関東管領職を世襲し、上野・越後・武蔵・相模の守護を兼ねる有力な守護大名となります。上杉氏は山内上杉家・犬懸上杉家・宅間上杉家・扇谷上杉家に分家し、中でも山内家、扇谷家の両上杉氏が台頭します。

長祿元年（一四五七）、扇谷上杉持朝は、家臣であった太田道真・道灌父子に武蔵国豊嶋郡に江戸城、入間

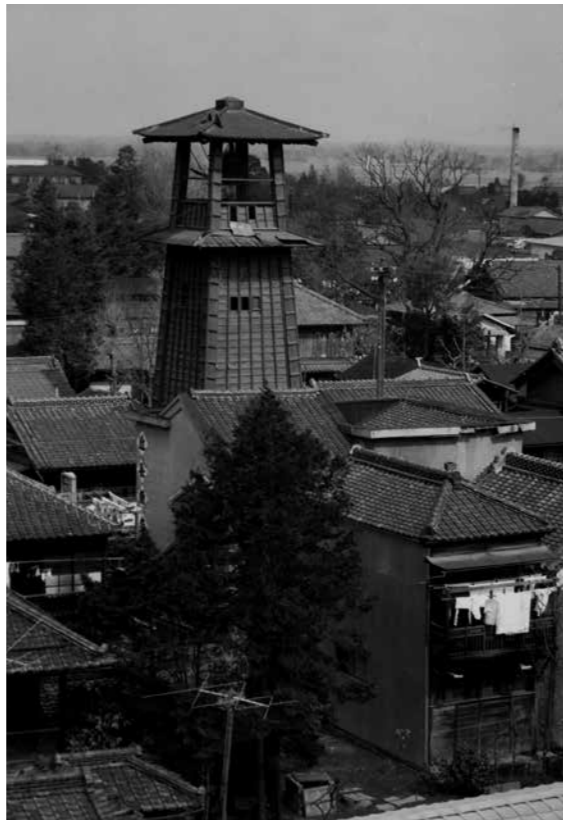
いきます。

江戸と川越をつなぐ川越街道は、川越から大井宿（現ふじみ野市大井）、大和田宿（現新座市大和田）、膝折宿（現朝霞市膝折町）、白子宿（現和光市白子）の四宿を経て、板橋宿（現東京都板橋区）に至り、中山道につながっていきます。川越街道の各宿には市が立ち、宿場町の体を成していたと言えます。

喜多院と仙波東照宮

平安初めの天長七年（八三〇）、円仁（慈覚大師）が無量寿寺（喜多院・中院・南院）を開山しました。そして、慶長四年（一五九九）、この無量寿寺の北院第二七世住職となったのが天海僧正とされます。天海僧正は徳川家康の尊崇が厚く、慶長一七年（一六二二）に寺号は「喜多院」と改められ、翌一八年（一六二二）には関東天台宗の総本山となりました。

元和三年（一六一七）、前年に亡くなった徳川家康の霊柩が、久能山（静岡県）から日光（栃木県）へ移葬される途中、天海僧正による法要が喜多院大堂で行われました。これを契機とし天海僧正の発願により、寛永一



時の鐘（昭和35年3月）



「江戸図屏風」
（右隻・川越御城）
国立歴史民俗博物館蔵

〇年（一六三三）、中院があった場所に仙波東照社が建立されました。しかし五年後の寛永一五年（一六三八）の川越大火で焼失。三代將軍徳川家光により、前の川越藩主で老中の堀田正盛が造営奉行に命ぜられ（石鳥居は堀田正盛が奉納）、幕府によって東照社は再建されました。本殿の回りには歴代の川越藩主が献燈した石灯籠があります。拜殿には岩佐又兵衛筆の「三十六歌仙額」が遺されています。また同社には江戸城二の丸東照宮へ奉納された、伝狩野探幽筆とされる十二面の「鷹絵額」（岩槻藩主阿部重次奉納）も遺されています。

一年（一六三四）の間に藩主をつとめた酒井忠勝が、多賀町（現幸町）の常蓮寺の境内に「時の鐘」を建てて以来、川越の町に時を知らせるものになったといわれています。忠勝は時間厳守を徹底した人物として知られた程、厳格な性格であったといわれています。そして時の鐘には享保一八年（一七三三）に火の見櫓が付設されました。現在の時の鐘は、明治二六年（一八九三）に起きた川越大火の翌年に再建されたものです。

川越街道

徳川幕府の関東体制を堅固なものにするために、川越藩は北武蔵の抑え役を担っていました。江戸と緊密に結びつき、関わりが深いことは、川越藩主を親藩・譜代大名から多く選んでいた事実からも明らかです。関ヶ原の戦いの翌年、慶長六年（一六〇二）、家康は江戸を基点とする東海道にまず宿駅伝馬制度をしき、道幅を広げ、宿場の整備、一里塚を設けるなどの街道整備を進めました。二代將軍秀忠の代に、五街道が定められ、東海道、日光街道、奥州街道、中山道、甲州街道の順に整備されて

なお家光は元和四年（一六一八）に初めて川越を訪れており、その後も度々川越に滞在し、近在の野で狩を楽しんだといわれています。

僧の学問所となった蓮馨寺

徳川家は浄土宗への信仰が厚く、開幕後すぐ、関東十八檀林の制（関東における浄土宗の僧の学問所として、武蔵国、相模国、下総国、上野国、常陸国の十八ヶ寺を浄土宗の檀林と定めたもの。阿弥陀仏の第十八願にちなむと言われます）を設けました。檀林とは幕府公認の僧侶の養成機関、いわば僧侶の大学です。武蔵国の九か寺のうち、川越の蓮馨寺も関東十八檀林の一つとなり、葵の紋が許された古刹です。香龍堂には、香龍上人（弘治一丁元和九年。捨て子の悪習を廃止して禄米を施し、困窮者の児女を弟子という目的で養育するなど、福祉に篤実な僧でした）が祀られています。

川越大火、「十ヶ町四門前郷分」の城下町整備と商工業の発達

川越の城下町は、江戸前期の寛永一五年（一六三八）の「寛永の川越

大火」で被災してしまいます。翌年、藩主となった松平信綱は川越城下の復興に当たり、「十ヶ町四門前郷分」の区画を定め整備を行いました（「十ヶ町四門前」はまとめて「町分」と言われていました）。

「十ヶ町」とは、商人町の「上五ヶ町」（本町・江戸町・高沢町・南町・北「喜多」町）、職人町の「下五ヶ町」（上松江町・榎「多賀」町・鍛冶町・鳴「志義」町・志多町）が指定され、「養寿院」「行伝寺」「妙養寺」「蓮馨寺」の門前町が「四門前」、城下町に隣接する松郷村と脇田村などの集落は「郷分」と呼ばれました。十ヶ町四門前町の道の多くが丁字路となり十字路



仙波東照宮

がほとんどないのは、城下町の特徴の一つとも言われています。

この町割り、現在の川越中心部の基礎になっています。川越の商工業者は、当初は江戸にならい、十組を作り組ごとに小行事を置き、城下町の職人や商人も藩の御用達を主たる生業としていました。次第に周辺の農村からの注文にも応じるにつれ、川越では織物と米が中心の産業となっていくます。

川越藩は、秋元喬知が甲斐国谷村藩から絹織物を持ち込み、「川越平」という平織りの絹織物を生産するようになりました。当時、贅沢品だった絹織物は、川越商人の手で江戸や



蓮馨寺

農村各地に送られ、呉服屋として名を成す商店も生まれました。

商人町の「上五ヶ町」では二・六・九のつく日に定期市（月九回の九齋市）が開催されたほか、後に上松江町で四のつく日に三齋市が開かれ、あちこちで市が開かれるようになりました。こうした定期市がその後、常設の店舗となって、商業地として発展していったのです。

川越城の大改修

扇谷上杉持朝が太田道真・道灌父子に命じて築城された頃の河越城は、本丸、二の丸、三の丸程度で、曲輪の周囲に堀を設け、土塁を築いたも

のと考えられます。寛永一六年（一六三九）、松平信綱が大幅な城郭拡張整備を行い、近世城郭として体裁を整える大改修を行いました。これにより、本丸、二の丸、三の丸、八幡曲輪に田曲輪、西曲輪などが加わり、城中に富士見櫓など三つの櫓が造られました。富士見櫓は高さ一五メートルある、三層造りのもので、城内一の高台に建てられ、天守の代わりをしました。

現存する本丸御殿はこの改修期よりもずっと後のもので、川越藩が一七万石と最高の石高を領した一八代藩主松平斉典治下の嘉永元年（一八四八）に建てられています。

松平信綱と柳沢吉保の新田開発

江戸時代は米経済社会であり、農業を盛んにすることを重要視した時代です。

江戸開幕から五〇年が経ち、江戸の人口増による水不足の解消のため、承応二年（一六五三）に幕府は多摩川から水を引く「玉川上水」の掘削の総奉行を、老中で川越藩主の松平信綱に命じました。信綱の指揮によ

り、難工事を経て、承応三年（一六五四）に「玉川上水」を通水。信綱はその功績が認められ、「玉川上水」から領内の野火止（現新座市）への分水を許されました。信綱は、これと前後して領内の野火止に新田を開発し、農家五四、五戸を移していました。承応四年（一六五五）に野火止用水が開削されると新田開発が大幅に進み、感謝した農民は信綱の官位にちなみ、「伊豆殿堀」と呼びました。

こうして玉川上水から野火止台地を経て、荒川支流の新河岸川に至る全長二四キロメートルに及ぶ野火止用水が完成します。「玉川上水」と「野火止用水」の分水割合は、「七分は江戸へ通じ、三分は信綱へ賜はり、領内へそ、げり」（新編武蔵風土記稿）と記されるほどで、野火止の開拓農民や、その他の貴重な飲料水、生活水として使われることになりました。

その他にも信綱自身が先頭に立って、九か村の新田開発事業（今福、中福、上松原、下松原、下赤坂、堀兼、水野など、現在の川越市から狭山市）を推進。武蔵野台地の未墾地を開発することで、小農を自立させて新本百



元禄七年川越図（元禄7年）川越市立図中央書館蔵

幕末の川越藩——品川沖御台場の警備、川越藩の廃藩へ

姓とすることで、年貢の取り立てや、藩の財政貢献を考えました。そして元禄七年（一六九四）に川越藩主となった柳沢吉保は、農作物増産によって藩政を充実させるため、川越藩士の曽根権太夫に命じて、川越城から南の「地藏林」を拠点に開発し、その地域が三富（上富、中富、下富）と呼ばれています。（三富村の検地は元禄九年に実施され、一三年から収納が命じられました）。

嘉永六年（一八五三）、ペリー率いるアメリカ合衆国海軍東インド艦隊の艦船四隻が浦賀沖に來航。日本に開港を迫りました。

ペリーの帰国後、幕府は品川沖に御台場（砲台）を設置し、外国船を迎え撃つ江戸湾の防備を計画、相州沿岸警備に当たっていた川越藩は、会津藩、忍藩とともに御台場警備を命じられます（川越藩は第一台場を、会津藩は第二、忍藩は第三台場を担当）。慶応二年（一八六六）、松平康英が八万四千石で棚倉藩より入封します。慶応三年（一八六七）一〇月には、

元禄七年川越図

川越町守柵錦
江戸長下川右岸門所在之為
大正五年十月二日野村信成氏
編纂

一五代将軍徳川慶喜が大政奉還を断行。翌慶応四年（一八六八）一月には、旧幕府軍が鳥羽伏見の戦いで新政府軍に敗れ去りました。康英は新政府への恭順を決定。藩論をまとめて老中を辞し、上洛しています。康英は京都で謹慎の身となりますが、恭順の姿勢を貫き、川越藩は戦火から免れることができました。同年五月、川越藩は上野の彰義隊から分派した渋沢成一郎（喜作）らが結成した振武軍と交戦。飯能戦争でこれを破ります。

明治二年（一八六九）、康英は養子である康載に家督を譲って隠居。間もなくして康載は版籍奉還を行い、川越藩の知藩事を拝命します。明治四年（一八七二）、明治新政府は廃藩置県を断行。川越藩は川越県と改称し、廃藩となりました。天正一八年（二五九〇）に酒井重忠が藩主に任命されてから二八一年続いた川越藩政は、その幕を閉じました。川越県は四か月後には廃止となり、その後、入間県（明治四年）、熊谷県（明治六年）、埼玉県（明治九年）へとあわただしく編入されることになります。

明治の大火と川越

現在、川越の代名詞とも言われる「蔵造り」の町並み。現存している蔵造りのほとんどが、実は江戸期にできたものではありません（最古のものは寛政四年「二七九二」にできた大沢家住宅です）。川越のまちは明治期に三回の大火に見舞われますが、中でも明治二六年（一八九三）三月七日に発生した大火により、中心街の四分の一を超える戸数が焼失してしまいました。このとき、類焼を免れた蔵を見た川越商人は、江戸日本橋の商家を参考にし、火事に強い建



川越城本丸御殿の家老詰所

築としてこぞって蔵造りの商家を建てるようになります。この大火から数年後には、蔵造りの町並みが形成されました。江戸・東京の蔵造り商家が姿を消した現在も、川越ではかつての江戸の町家の景観が残され、その面影を感じることができます。

川越の城下町は、江戸時代を通じて、近隣の村々の経済的中心地として存続していました。明治四年、川越藩の廃藩により、川越商人たちは

商工業の近代化——第八十五国立銀行、川越商業会議所の誕生



明治26年の川越大火による川越町の焼失状況
川越町焼失之図 川越市立博物館蔵



明治10年代の鍛冶町通り

歴史と文化を守り

後世に伝えることは、

まちの発展にもつながる

大学で学んだ古典文学に興味を持ったことがきっかけで歴史小説家の道を歩み始めた篠さん。2005年に川越の武将河越重頼の娘、郷姫の壮絶な人生を描いた『義経と郷姫』を執筆したとき、後の『青山に在り』につながるヒントを得たといいます。「郷姫の取材で川越を訪れたとき、川越藩筆頭家老の小河原左宮の話が出てくる本に出会いました。幕末にこんな人物がいたと知り、彼の死に様も含めてこの人は小説の主人公になれるなと思いました。実際、物語の主人公にしたのは、左宮の息子で架空の人物です。この作品を書くまでは平安・鎌倉時代を書きたいという気持ちが強かったのですが、川越藩の魅力にひかれ、初めて幕末のお話を手がけました。」

こうしてできあがった『青山に在り』は、日本歴史時代作家協会賞作品賞を受賞。『義経と郷姫』執筆後は講演その他に招かれるなど、川越と



今も残る川越城本丸御殿にて

の縁も深くなりました。まちで時代の名残を感じるのには、蔵造りの町並みや川越城跡。城下町の風情が色濃く残り、歴史の重みを感じるそうです。「川越といえば古い城下町が何よりの魅力ですが、今はそこに新しい光が当てられ、観光地としても目覚ましい進歩を遂げているように感じています。これから埼玉県の中心となつてさらに発展していくまちになるのではないのでしょうか。川越のすばらしい歴史や文化をぜひ次の世代に残していただき、地域内外の方に広く語り伝えていただけたらうれしく思います。」

篠綾子

ayako SHINO

小説家

歴史・時代小説家として活躍する篠綾子さん。

2018年に出版された『青山に在り』という、川越を舞台にした青春歴史小説が生まれたきっかけは、幕末川越藩への強い魅力でした。

Interview

Profile

1971年埼玉県春日部市生まれ。東京学芸大卒。歴史・時代小説作家。健友館文学賞受賞作『春の夜の夢のごとく—新平家公達草紙』でデビュー。主な著書に『義経と郷姫』『白蓮の阿修羅』『月蝕 在原業平歌解き譚』『醉芙蓉』など多数。2019年、『青山に在り』で日本歴史時代作家協会賞作品賞を受賞。



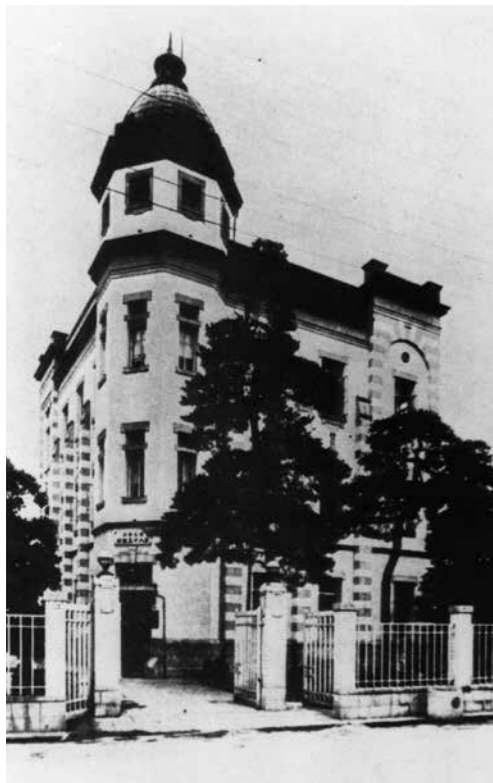
儚く美しい友情の物語
『青山に在り』





大正初年の南町通り

川越平、川越斜子などが農村や城下町の婦女子の手内職として盛んに行われていました。明治時代になると政府の奨励により、輸出産品としても川越の織物は重要な産業となりました。川越を中心とした地域では、開国以後、日本では紡げなかった、極めて細い木綿糸が欧米諸国から安く大量に輸入できるようになったことで、唐棧(室町時代末期頃から日本に渡来した高級絹木綿で、かつては絹に比してはるかに高価で庶民には無縁のものであった)が新たな織物の国産品として発展を遂げるようになります。貿易を通じ欧米産綿織物の脅威を感じていた、川越志義町出身の実業



第八十五銀行

家である中島久平は、輸入品である安くて良質な唐糸(洋糸)を横浜で買い込み、当時絹織物の産地として栄えていた川越の機屋に「唐棧」を試織させます。その結果、舶来品と同等の品質の唐棧がはるかに安価で生産できることを知り、川越地方の機業家に唐糸を大量に配って唐棧を織らせました。これが川越唐棧の始まりです。川越唐棧は「川唐」という愛称で大ヒットし、全国に商圏を広げ、川越は良質の唐棧大生産地となりました。粋で美しい川唐は明治三〇年代頃まで一世を風靡しました。

川越織物市場

明治四三年(一九一〇)には川越織物市場が開設され、川越織物市場組合や川越織物市場株式会社が設立されるなど、織物の市が開かれるようになりました。川越織物市場は上棟式から約三週間市場開場式が執り行われ、毎月六回ほど開場されて織物の現品取引が行われていました。織物業者の期待を背負って開設された川越織物市場でしたが、世間が手織りではなく力織機(蒸気などの動力を用いて布を織る機械)の時代に入り、さらに第一次世界大戦後の深刻な不況に見舞われたことなどを背景に、大正八年(一九一九)に解散となりました。



川越渡辺銀行(大正2年)



明治39年に開通した「川越電気鉄道」

陸軍特別大演習が行われていた川越中学校
明治四五年(一九一三)七月三〇日、明治天皇が崩御。大正天皇統裁のもと、大正元年(一九一三)一月、

損害を被り、様々に変貌していきます。川越の産業は、明治時代になっても幕末の頃と同様、農村地帯から収穫される穀物類と織物が中心を占めている状況でした。江戸から明治にかけて、輸出主要产品である織物業による発展を遂げる川越は、明治新政府の富国強兵策の波と軌を一にすることになります。公債を与えられた士族がうまく活用できず生活難を招いているという背景もあり、資本流通のための金融機関の整備が必要となりました。明治一一年(一八七八)、江戸期からの豪商・綾部利右衛門らの尽力により、川越に県内初の国立銀行である「第八十五国立銀行」が開業(明治三一年法律に基づき、私立銀行の「第八十五銀行」に、また明治二九年(一八九六)には、同行の経営陣により「川越貯蓄銀行」も開業しました。本店の建物は、明治二六年(一八九三)の「川越大火」で焼失しましたが、大正七年(一九一八)に現在も遺る、保岡勝也の設計による本店が完成しました(現埼玉りそな銀行旧川越支店。明治一三年(一八八〇)には、川越商人七人による「川越銀行」、大正二年(一九一三)

には「川越渡辺銀行」も誕生しました。明治二二年(一八八九)四月、市町村制が実施されます。この頃は、商工業の態勢も整い、周辺の農村との結びつきも深まっています。川越町は農家の副業や旧士族の生活手段としての織物業に注目し、商業都市として大きな地歩を築いていきます。明治二七年(一八九四)から始まる日清戦争の追い風もあり、川越の商工業は本格的に発展します。明治三三年(一九〇〇)に、埼玉初の商業会議所が川越に誕生(当初会員は二七〇名、穀物と織物関係商人が主力)。商業会議所の成立は、川越の商工業の大きな推進力となります。明治三九年(一九〇六)には川越・大宮間に電気鉄道が敷設、四一年には県立川越染織学校(後の県立川越工業高校)が開校し、特設電話が設置され、四三年に川越織物市場株式会社が設立されるなど、商業会議所の活動が実を結ぶこととなります。大正時代に入ると商工業は不振になりますが、第一次世界大戦(一九一四―一八)による戦需から盛況となります(戦争

終結後は再び不況に)。そして昭和三年(一九二八)に商業会議所は川越商工会議所と名を変え、戦時下に解散を余儀なくされましたが、戦後に再び設立され、現在に至ります。川越の鉄道史
「新河岸川」の舟運で栄えていた川越商人たちは鉄道敷設に初めは消極的でしたが、明治二八年(一八九五)、所沢や高麗郡などの商人たちの手により、東京と川越を結ぶ「川越鉄道」(現西武鉄道)を設立し、「川越駅」(現本川越駅)が開業。川越における鉄道の歴史が始まります。明治三九年(一九〇六)、町への電力供給に合わせて、川越の久保町と大宮を結ぶ路面電車「川越電気鉄道」が開通。大正三年(一九一四)、田面沢(現川越市駅の一つ先の駅で後に廃止)と池袋間を結ぶ「東上鉄道」(現東武東上線)が開通しました。こうした鉄道敷設で、物資輸送の鉄道利用が増える中、新河岸川の舟運利用も続いていましたが、東上鉄道の延伸、そして昭和六年(一九三二)、埼玉県を通船停止令により舟運は次第に衰退していきました。

その後、軍事目的もあり、昭和五年(一九四〇)に国鉄川越線(現JR川越線)が開通。現在に続く川越の鉄道路線網が完成することになります。中島久平と川越唐棧
川越の織物は江戸時代から有名で、



志義町通りの南側の町並み。右から荷車のある麻庄肥料店、袖蔵のある葉の大塚屋、一軒おいて呉服太物の亀屋、洋物商の松定と続く(明治44年)



本町通り



志義町の山車



旧川越市役所



旧川越市役所のイルミネーション



江戸町の山車



高澤町の山車



喜多町の山車



上松江町の山車



南町通り



南町の山車



連馨寺付近



志義町通り

川越市が誕生

大正七年（一九一八）、市制施行のための「臨時委員設置規定」が川越町会で可決。市制施行の要件である人口に達していなかったことから、近隣の仙波村と合併する動きが起ります。川越町は米穀を中心とした商取引が盛んで問屋も多く、商業会

川越などで「陸軍特別大演習」が行われました。川越中学校（現埼玉県立川越高等学校）に大本営と行在所（川越中学校の東棟二階）が置かれ、当時即位したばかりの大正天皇が大元帥として統監するために行幸しました。この行幸に合わせ、直前に川越町役場（旧市庁舎）が建設されています。

県内初の市制施行により、

四月の村会で合併案が可決され、同年一月二四日付内務省告示をもって、一月一日に川越町は埼玉県初の市制が施行され、「川越市」となりました。人口は仙波村との合併により三万人を超えました。市議会選挙は翌年二月に行われ、同志会、鉄心会、公友会という政治集団が誕生します。同志会は、川越商人を中心とした伝統的な政治勢力で、明治以来の改進黨から憲政会へ発展した政

議所も設置されて商工業が発展した地域でした。また鉄道など交通網の発達などにより人口も増加、懸案であった町村合併および市制施行は、地元の人々が最も熱望するところでもありました。仙波村でも、大正一二年（一九二二）

党の流れをくむものです。鉄心会は、政友会系議員、中立系議員、仙波村出身の議員らによって構成されました。公友会は、県立川越中学校の生徒と卒業生による学生同志会と実業同志会の合併でできた、町の有識者の政党でした。一月一七日から三日間にわたって開催された公式の川越市制祝賀祭では、市庁舎となった旧川越町役場に新市名が掲げられ、夜はイルミネーションが点灯されました。各町内では紅白幕を張り巡らし、市旗や市章入り祝賀提灯が軒ごとに掲げられ、山車を曳き回すなど、盛大に市制施行を祝いました。



川越唐棧



川越織物市場（明治43年）



川越中学校の大本営（大正元年）



戦闘訓練（大正元年）

情緒あふれる 川越の建築

川越の大きな魅力の一つ、「蔵造りの町並み」。色濃く残された江戸情緒に、観光客も目を見張ります。川越には、その他にもまちの人々に大切にされてきた魅力的な伝統的建造物が多く遺されています。

小江戸川越の代名詞、「蔵造りの町並み」

「江戸黒」と呼ばれる黒漆喰が美しい蔵の建ち並ぶ一番街。その周辺のエリアは、平成十一年（一九九九年）に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、毎日多くの観光客で賑わい、今や川越観光の定番スポットになっています。

川越は幾度も大火を経験していましたが、この蔵造りの町並みができるきっかけとなった大きな火事は、明治時代に発生しました。明治二六年（一八九三）三月一七日に、養寿院門前付近より出火し、板葺き屋根であった町中に延焼。この大火によって、当時の川越の全戸数の四割近くを焼失しました。

しかし、この大火にあっても、小川文平宅（現大沢家住宅／国指定重要文



蔵造りの町並み

化財)、利根川筆吉宅（現存せず）、黒須東三宅（現存せず）、加藤兼吉宅（現存せず）、綾部惣兵衛宅（現存せず）などは、高い防火性により焼失を免れました。

蔵造りとは？

大火の後、焼失を免れた土蔵を見て、川越の商人たちは当時の東京日本橋の町並みを参考に、日本の伝統的な防火建築である土蔵造り（外観を塗り込めて、柱などが露出しない造り方で耐火性にすぐれている）を採用し、建設に取りかかりました。明治三四

年（一九〇二）には五一件の蔵があり、うち二四件は防火対策が施されるようになりまし。

一番街の通りには蔵造り（一般的に「土蔵造り」と呼ばれる建物の構造・工法）の店舗が道路に面して建てられており、これを「店蔵」と言います。倉庫としての機能を持つ「土蔵」と併せて、火事の際の類焼を防ぐ役割を持っています。

その意匠は重厚な装飾も兼ね備えていました。特徴としては、圧倒的な重量を感じる瓦葺きの大屋根とその最上部に設けられた「箱棟」と呼ばれる高さのある大棟、箱棟の両端に置かれた大きな「鬼瓦」や「影盛」（鬼瓦の後ろにあり、箱棟と鬼瓦の接合部分のバランスをとっており、木製の骨組みに漆喰や瓦を塗り込めてある）、階段状に細工が施され密閉性が高い大きな「観音開扉」、そして火事の際に扉を閉めた後に扉の目地を土などで塗り込めるための作業台として使われる「目塗台」などが挙げられます。また、隣家との境などに当時はまだ新しい建築材料だったレンガなども使用されました。このように蔵造りは、いつ起こるかかわから

ない火事から店や商品を守るための工夫が多く施されています。建設には、大工、左官の三職が関わり、乾燥によって伸縮する土や漆喰を狂いなく合わせる設計や技術で造られ、棟札（梁など建物内部の高所に取り付けられた建築・修理の記録）には三職それぞれの責任者である頭、棟梁、親方の名前が書かれています。

町家の配置と敷地

川越には蔵造りだけではなく様々な建築様式が見られます。川越市川越伝統的建造物群保存地区には、現

在の一三六件の伝統的建造物が特定されています。敷地内の建物は片側に路地や庭用されています。

伝統的な町家は、間口が狭く奥行きが長い敷地になっているのが特徴です。間口幅は平均すると四・四間で、奥行きにはばらつきが見られます。敷地内の建物は片側に路地や庭

などを設けたL字型が多く、通り側に面したほうから「店」、「座敷」、「離れ座敷」や「蔵」の順で配置されています。

商家の「店」部分には、幾つかの共通性があります。例えば道路に接し、隣同士が隣接していること、二階壁面が一階壁面よりも後退して通りの空間を確保していること、屋根の勾配がほぼ一定であること、角地以外では左右対称な立面となっていることなどが挙げられます。また、住居などとして使われていた「奥」の部分は、隣家と軒を接している店とは異なり、中庭、横庭、後ろ庭な



軒蛇腹（陶舗やまわ）



箱棟（原田家住宅）



鬼瓦と影盛（まちかん本店）



田中家住宅



大沢家住宅

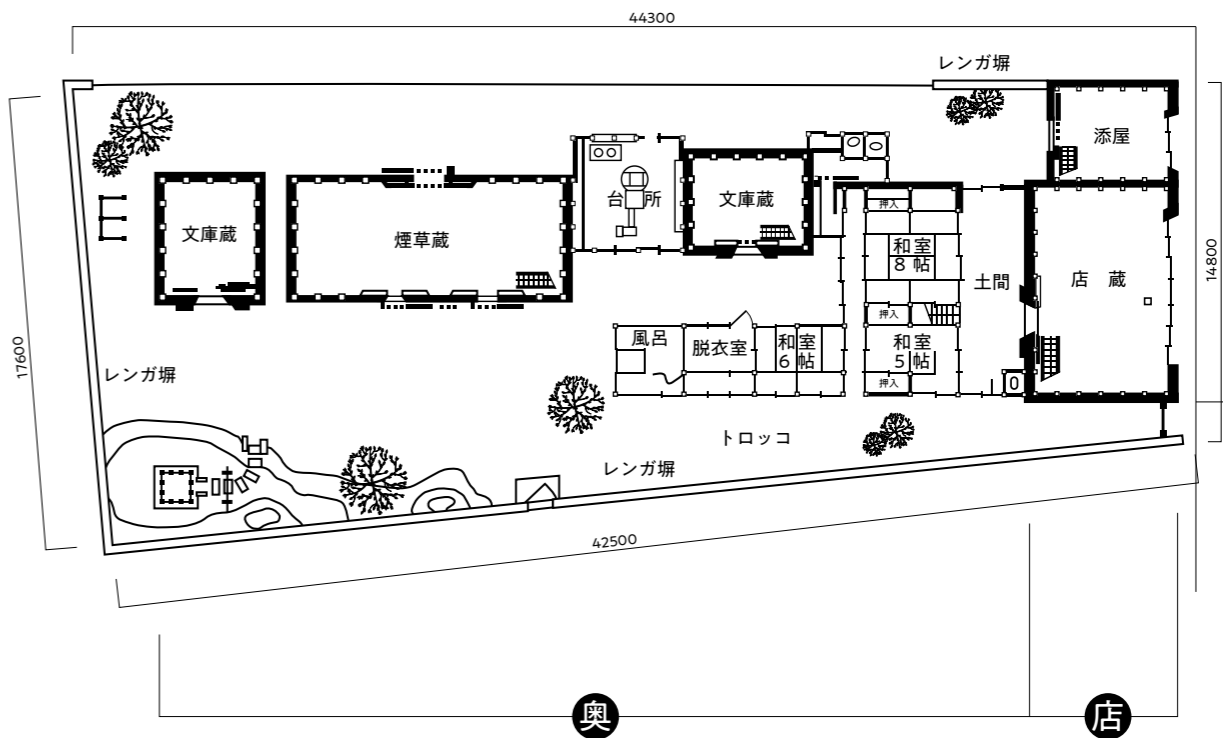


旧山崎家別邸

フランス積みのレンガと天井の小屋組み（ハンマーヘッド工法）が美しい日本聖公会川越キリスト教会礼拝堂（大正一〇年、ウィリアム・ウィルソン設計）や、ドリス式の柱や緻密なメダリオン装飾が特徴的な川越商工会議所（昭和二年、前田健二郎設計、旧武州銀行川越支店 など当時の姿のままで使用されています）。



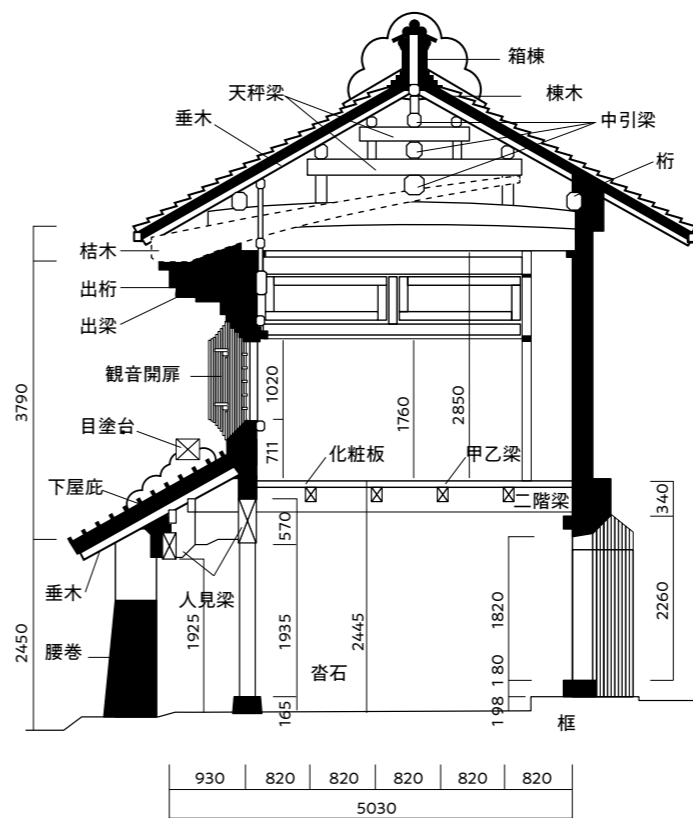
日本聖公会川越キリスト教会礼拝堂



旧小山家住宅（蔵造り資料館）
参考：川越の蔵造り—川越市指定文化財調査報告書—/川越市教育委員会



旧湯宮釣具店（現手打ちそば百丈）



山崎家住宅・構造図
参考：川越の蔵造り—川越市指定文化財調査報告書—/川越市教育委員会



看板建築が並ぶ大正浪漫通り。手前の建物が間仁田家

ど日照や風通しの良いスペースが確保されています。このような工夫が、密接して建てられている町家の住環境を快適にしています。

川越の近代洋風建築

川越には近代洋風建築も多く遺されています。今も川越のランドマークとなっている旧第八十五銀行本店本館（現埼玉りそな銀行旧川越支店/登録有形文化財）は、建築家・保岡勝也の設計、印藤順造の施工で大正七年

（一九一八）に完成しました。ルネサンス様式の装飾や塔に、ベルシャ風の縞模様を取り込みまとめたデザイン、鉄骨鉄筋コンクリートを早期に使用した建築としても知られています。さらに旧山吉デパート（昭和一年・現山吉ビル）や和菓子店の亀屋五代目の山崎嘉七の別邸（大正一四年・旧山崎家別邸/国指定重要文化財）、川越貯蓄銀行本店（大正四年・現存せず）も保岡勝也の設計です。

その他に、明治の大火で焼失後、

意匠を凝らしたのも）も多く遺されています。代表的な建物としては、店舗と住居を兼ねる木造三階建ての旧湯宮釣具店（昭和五年・現手打ちそば百丈）、三連アーチ窓が特徴の間仁田家（昭和八年）などがあります。これらの建物は時代を経て、今でも多くが店舗として活用されており、貴重な建築物を身近に感じることが出来ます。

町並み保存とまちづくり

戦後の都市化の影響により、一度は衰退の憂き目にあった蔵造りの町並みですが、昭和四〇年代後半から

の全国的な町並み保存運動の中で、専門家による提唱や川越市による建物単体での文化財指定と並行して、商店街、自治会の主導でまちづくり活動が行われました。それにより、その価値が見直され、国の重要伝統的建造物群保存地区への選定に至り、町並みの保存が図られました。

今後も、伝統的建造物の所有者をはじめ、都市景観推進団体である「川越町並み委員会」や、歴史的風致維持向上支援法人「NPO法人川越蔵の会」などの団体の活動とともに、歴史的町並みを生かしたまちづくりが進められます。



yasunobu
OCHIAI

落合康信

川越蔵の会会長

一番街商店街でかつお節を中心とした、さまざまな乾物を販売する中市本店を営む傍らで、川越蔵の会の会長を務める落合康信さん。市制施行100周年に当たり、今後の町並みの保存について伺いました。

Interview

Profile

乾物を扱う中市本店の6代目。2018年よりNPO法人川越蔵の会5代目代表に就任し、伝統的建造物の保管活動や川越の文化を育むまちづくりイベントを開催するなど、住民が主体となるまちづくり活動に尽力する。

川越を描くことで
長い歴史を生きた
まちの姿が見えてきた

大ベストセラーとなった『活版印刷三日月堂』シリーズ、そして『菓子屋横丁月光荘』は、ここ川越が舞台の物語です。なぜ、作品の舞台に川越を選んだのか。その理由をほしおさなさんはこう話します。

「所沢市で育ち、幼い頃から何度か川越を訪れたことがあります。子どもながらに、昔からあるまちなんだと感じた記憶がありますね。それから間があいて、たまたま川越に来る機会がありました。そしたら、きれいな町並みになり新しいお店も増え、県内有数の観光地になっていて驚きました。でもその一方で、町が醸し出す独特の雰囲気は残っていて、ここは特別なまちだなという印象を持ちました。」

ほしお先生が取材を通して地元の人たちから話を聞く中で常を感じたのは、人々のまちへの熱い想いでした。「皆さん共通するのは、川越が好きで、自分のまちに大きな関心と誇り



全国で大人気のシリーズ。川越の雰囲気がいまごと描かれています

を持っているというところ。川越の人たちはまちを通して、かつて住んでいた人とのつながりや、人間らしさというものを大事にしているのではないのでしょうか。」と話すほしおさん。「市制施行100周年を迎え、改めて川越市に住む人たちが、『こうして自分たちのまちができたんだ』と地域の成り立ちを捉え直す機会にもなれば、素晴らしいことだと思います。」

次の百年へ向けてスタートを切る川越。川越のまちを舞台にした児童書の企画も進行中というほしおさん。新たに描かれる川越の物語に、今後も注目です。

sanae
HOSHIO

ほしおさなえ

小説家

川越を舞台にした小説で知られる作家のほしおさなえさん。全国のほしおファンの間でも話題になっている川越のまち。そんなほしおさんに、川越への想いを語っていただきました。

Interview

Profile

1964年東京都生まれ。作家・詩人。3歳から埼玉県所沢市で育つ。1995年「影をめぐるとき」が群像新人文芸賞小説部門優秀作受賞。川越にまつわる作品に、「活版印刷三日月堂」「菓子屋横丁月光荘」「紙屋ふじさき記念館」シリーズがある。著書は他に「言葉の国のお菓子番」シリーズ、「金継ぎの家 あたたかなしずくたち」など多数。



信場所にしようと考えると、新しいモノ・コトを発信するための場所として、また地域コミュニティの拠点として建物をそのまま生かす形としました。川越といえば蔵造りの町並みがいめじされがちですが、少し離れたところにも素敵な場所や通り、建物があるということを知ってほしいという思いがあり、弁天横丁の復興にはとても力を入れています。」



川越蔵の会は昭和55年（1983）に発足。落合さんは5代目の会長

古くから残る蔵造りの町並みを維持し、活用している川越蔵の会は、所属するメンバーを中心に多くの人と協力しながら風情ある町並みを後世に残す活動を行っています。「川越蔵の会には建築士の資格を持つメンバーも多いですが、地元の人々を中心に川越の大ファンや一般の方、学生も含め、まちづくりに自分も参加したいという多くの方が手を貸してくださっています。以前は蔵の会がかかわるまちづくりの事業などはすべて自分たちで行なっていました。今では多くの方がサポートしてくださり、とても感謝しています。」

昨今では弁天横丁の復興に取り組み、修繕が完了すると雑誌やメディア、口コミで情報が広がり、多くの人が訪れるようになりました。「何年も前から弁天横丁を活性化できないかと話し合っていました。古い長屋を利用して新しい文化の発

川越の古き良き文化と新しい時代の考え方を、どのようにしてうまく調和させていくかが課題と考えています。



江戸榎雪「川越氷川祭礼絵巻」(文政9年、埼玉県指定文化財)川越氷川神社蔵



「天下祭」として知られる神田祭の様子(提供：神田明神)



「川越氷川祭礼絵馬」(天保15年、埼玉県指定文化財)川越氷川神社蔵



氷川神社本殿彫刻



神幸祭

曳く人々は揃いの衣装に身を包み、市内で車両の交通規制が始まると、山車が会所に運ばれます。蔦頭による「木遣り(もともとも大勢で力作業を行う際に唄われた労働歌。祭礼中の安全祈願を込め唄われる)」を合図とし、囃子と山車の曳き回しが始まります。初日の午後には、氷川神社を出御した神幸祭の行列に各町の山車が供奉しながら市内を巡ります。かつては山車以外にも本屋台、山屋台、仮装行列といった練り物が登場し、文政九年(一八二六)に「江野榎雪」によって描かれたとされる「川越氷川祭礼絵巻」でも当時の様子をうかがい知ることができます。

大迫力! 夜の「曳っかわせ」
川越まつりに欠かせないのは「曳っかわせ」。祭礼中に出会った山車同士で行う挨拶の儀礼で、各町内のお囃子が、その音色を披露し合う場になっています。初日の夕暮れにかけての宵山では、提灯の灯に照らされた幻想的な山車の光景は地域の人々の心に刻まれます。祭り終了の翌日には、氷川神社で行われる「笠脱神事」をもって祭りは終了し、山車や会所は解体されます。町内では後日、慰労会として「お日待ち」が行われます。

三七〇年、継承される川越まつり

秋の小江戸川越といえば「川越まつり」。地域に根付き、私たちの心を大いに高揚させる伝統的な祭礼。過去と現在、未来が交流する「川越まつり」を紐解いてみましょう。

総鎮守氷川神社の例大祭

一般的に「川越まつり」と呼ばれる川越の秋祭りは江戸時代から続く祭礼とされます。城下町の総鎮守である川越氷川神社の「例大祭」と「神幸祭」、そして氏子を中心とする御神幸への山車の供奉や曳き回しと



多くの人でにぎわう一番街(令和4年)

いった「山車行事」から成り立ちます。例大祭とは氷川神社創建以来続けられており、神様への感謝と地域の安寧を祈る神事です。例大祭は一〇月一四日に執り行われ、現在では主に一〇月第三土曜日・日曜日に山車行事が行われます。その様式は山王権現の山王祭や神田明神の神田祭といった江戸天下祭を礎として、江戸の山車行事の様式や情緒を今に伝えています。

神幸祭と山車の供奉

祭りが近くなると、各町では神輿や山車の通り道を清めるための「軒



曳っかわせの様子(令和4年)

端揃え」を行います。かつては高張り提灯や丸型提灯が飾られていましたが、現在では紅白の水引幕を張り巡らせています。また各町の祭礼本部であり、神様をお迎えする「会所」では、入り口には青竹囲いの前庭を作り、木や草花、石灯笼、つくばいなどで風流を加えます。

例祭日である一〇月一四日の夕刻からは、氷川神社で「笠渡神事」(各町内の山車曳行責任者や宰領が集まり、身につける笠を受け取る儀式)を行なった後、各町で会所開きを行います。当日は早朝から囃子方による朝囃子(二番太鼓)が披露されます。山車を

川越まつりの役割

川越まつりは、山車を持つ町内の「町方」だけではなく、山車の組み立てや運行を担う「職方」、山車の舞台でお囃子を披露する「囃子方」がそれぞれ協力しあって成り立っています。

会所の様子



山車の曳行



曳行時のルートやスケジュールを決めたり、紅白の水引幕を張り巡らす「軒端揃え」をはじめ、会所の準備や神事への参加、そして当日は山車の曳行や手古舞の支度など、祭りにかかわる全般を町内の人々で分担しています。

「年行事」と呼ばれるその年の担当の組は、祭りの準備から花（祝儀）の受付、会所に訪れる他町の山車への対応、後日のお日待ちの準備などを行います。

山車の修復や揃いの衣装の準備などは、年間を通して行っています。

町方

山車の組み立てや運行では、職方として各町で決まった薦や大工が参加します。今でも幾つかの山車は祭りの前に組み立て、収納時には解体されます。その部材は二百を超えると言われています。また、山車曳行は薦による木遣りから始まり、山車の納めの際には納め木遣りをもって、無事の曳行に感謝します。曳行時は約二〜四トンある山車の方向転換や囃子台の回転、鉾（あんどん）の上下伸縮操作を担い、その粋な姿に町の人々は全幅の信頼を置いています。

職方

笛や太鼓が祭り囃子を奏で、踊りを披露する囃子方は、祭りになくはならないもの。囃子には王蔵流・芝金杉流・堤崎流などを中心に流派があり、各町内で異なります。

各囃子連では年間を通して稽古を重ね、祭り当日に備えています。特に子どもたちは山車上での演奏を楽しみにしています。曳っかわせはまさにその腕の見せ所。お囃子の賑やかさがあってこそこの川越まつりです。

囃子方



山車の操作をする職方



山車の組み立て



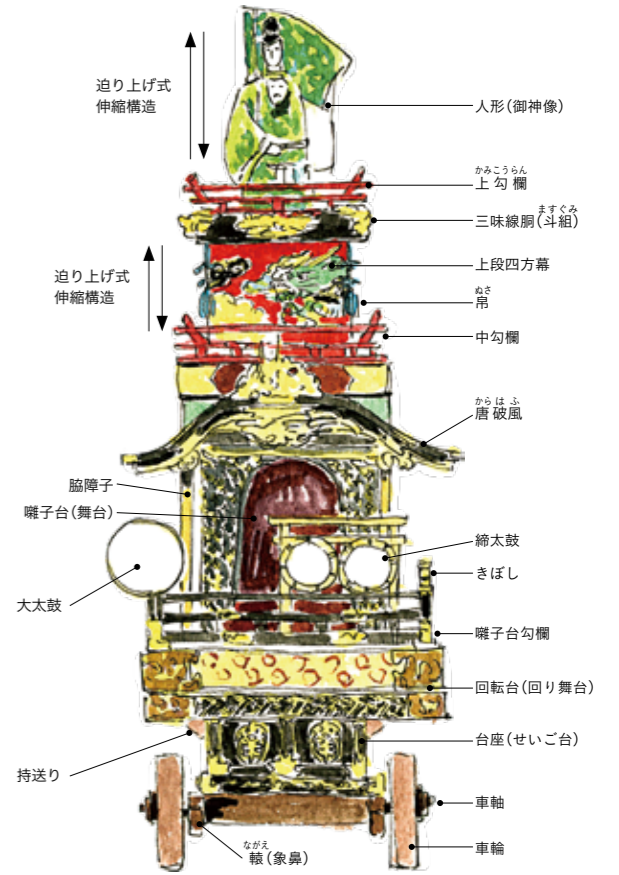
祭りに華をそえる囃子方



それぞれの曲目（舞）にはストーリーがある

山車の構造と行列

現在、川越まつりに参加する山車は二九台。もともとは南町（現幸町）・北町（喜多町）・高沢町（現元町二丁目）・江戸町（現大手町）・本町（現元町一丁目）・鍛冶町（現幸町）・志多町・志義町（現仲町）・多賀町（現幸町、大手町）・上松江町（現松江町二丁目）の十カ町が山車を保有していました。江戸時代にはまだ山車は小さく素朴なもので、幕末から明治にかけて、現在のような上下伸縮する二重鉾式の構造に進化しました。明治後期には台座上部が三六〇度水平回転する回り舞台の構造が生まれ、川越の山車



（参考：「川越祭のすべて」谷澤 勇）

の特徴となりました。二重鉾で迫り上がる山車人形の製作には江戸の名工がかかわります。志義町が製作した羅陵王は、文久二年（一八六二）に当時人気の高かった人形師の仲秀英が手掛けしました（幸町の翁、元町二丁目の山王、大手町の細女、六軒町の三番叟も仲秀英の作）。その他の山車人形も、鼠屋五兵衛（志多町の弁慶、喜多町の秀郷、原舟月（鍛冶町の小狐丸「小鍛冶」）、古川長延（松江町二丁目の浦島）など江戸の名工が手掛けたとされ、次々に絢爛豪華な人形と山車が完成していきます。明治二六年（一八九三）の川越大火で三台の山車が焼失してしま

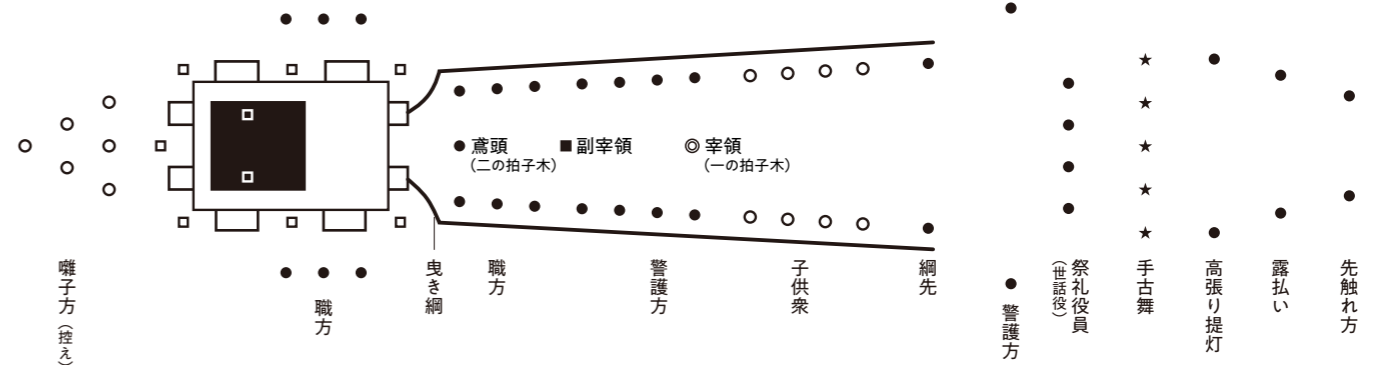


手古舞

いますが、明治後年にはまた新調され、以降修理を重ねながら大切な文化財として守られています。

山車の曳行

山車を曳行する参加者には様々な役割があります。すべての判断は責任者である「宰領」に委ねられ、行列の先頭を行き、他町への挨拶（渡り）を行う「先触れ」、金棒を持つ「露払い」、鮮やかな衣装に身を包む「手古舞」や祭礼役員が続きます。各町内の曳き手は揃いの柄の礼装を身につけ綱を曳きます。山車周りは薦頭が拍子木をもって職方に指示を出し、安全に配慮しながら曳行を行っています。このように町内全員で協力し、地域のハレの日をとともに喜び合っているのです。



伝統の山車曳行体系図※町内の事情により異なることがある。（参考：「川越祭のすべて」谷澤 勇）

川越まつりの歴史

川越まつりは、三七〇年あまりの歴史をもつ都市祭礼として知られます。寛永一六年（一六三九）、松平伊豆守信綱が川越藩主となり、城郭の拡張整備、舟運の整備、野火止の新田開発、そして十ヶ町四門前郷分の町割など、積極的に領内の整備を推進しました。そして慶安元年（一六四八）に、信綱が総鎮守川越氷川神社の例大祭に合わせ、祭礼用具（神輿、獅子頭など）を寄進して神幸祭の執行を奨励したことから、氷川祭礼が始まりました。



明治末期の川越まつり

を渡御し、町の人々も付け祭りとして練り物を仕立てて随行する風景が絵画資料として残っています。最も古い資料は享保三年（一七一八）の祭礼行列を描いた『氷川祭礼絵巻』（ニューヨークパブリックライブラリー蔵 スペンサーコレクション）で、氷川神社の神輿行列から十カ町の行列などが描かれています。当時の山車は四角い箱に二本の棒をさして四人で担ぐもので、箱の中央に立つ棒（鉾）に造形物が付いているものです。山車の他、本屋台・山屋台や大がかりな仮装行列が華を添えました。文政九年（一八二六）の『川越氷川祭礼絵巻』では山車の構造に変化が見られ、天



手古舞姿（大正4年）

保一五年（一八四四）の『川越氷川祭礼絵巻』では一本柱の山車を中心に鳶や囃子連が描かれています。さらに文久二年（一八六二）頃には二重鉾の上に山車人形が鎮座する現在に近い山車の形態で祭りが行われ始めました。

その後、戦後に商工祭としての要素も加わり、昭和四三年（一九六八）から毎年の行事になり、天皇の御大典や市制施行記念の年などは特に盛大にお祝いが行われました。

伝え続けられる祭礼行事

川越まつりが全国的に知られてき

た昭和四三年（一九六八）、一〇台の山車が埼玉県指定有形民俗文化財となり、山車行事を主催する「川越まつり協賛会」が設置されました。その後も、山車を製作する町内が市内に広がり、現在、中心市街地に参加する山車は二九台となっています。

国内外で注目される川越まつり

川越まつりの注目は年々高まり、平成六年（一九九四）に元町二丁目の山車が京都の祇園祭（後祭）に参加したことや、平成一九年（二〇〇七）三月に天皇、皇后両陛下がスウェーデン国王、王妃両陛下とともに川越



天皇、皇后両陛下とスウェーデン国王、王妃両陛下による川越ご訪問の際、川越まつりが再現された（平成19年）

日常生活から川越まつりまで
老舗提灯屋の伝統技術

お盆の時期や夏祭り、そして川越最大の行事、川越まつりで目にする提灯。制作するのは大手町に店舗を構える津知屋提灯店の十二代目・土屋潤一氏で、代々受け継がれてきた手書きの伝統を守り、一つひとつ丁寧に文字を書き入れます。

津知屋提灯店の歴史は古く、創業は万治二年（一六五九）。南町（現在の幸町）で柳田家が世襲してい



まっさらな提灯にするすると文字を書いていきます



店舗内の天井には乾燥中の提灯が吊るされています

ました。一力齋を屋号にしたのは五代目の一力齋ソ蝶の代からで、以後、代々の当主がこの屋号を名乗ってきました。九代目の柳田惣次郎の代になると後継がおらず、土屋房吉が十代目を継ぎ、それをきっかけに大手町に津知屋提灯店として開業し、現在に至ります。

先代が提灯に入れる文字や図案をメモしたという帳面を、今も参考にしており津知屋提灯店では、黒い文字を書く際はあえて墨を使用します。その後亜麻仁油で油引きして防水加工を施すと、提灯は味わい深い仕上がりとなり、川越まつりで賑わう市内を彩ります。

を訪問された際に川越まつりが再現されるなど、国内外で注目される機会が増えました。

平成一七年（二〇〇五）には「川越氷川祭の山車行事」として国の重要無形民俗文化財に指定、さらに平成二八年（二〇一六）には京都の祇園祭など全国三二件の行事とともに、ユネスコの無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」に登録されました。郷土の誇りである川越まつりは、次の百年へと継承されていきます。



川越まつり会館で行われた、ユネスコ無形文化遺産登録決定の会見の様子（平成28年）

川越まつり会館

川越まつりをいつでも体感できる施設です。常時、町内の山車が展示され間近で見ることができます。大型スクリーンでは、川越まつりの動画が放映されており、伝統的な祭礼を詳しく知ることができます。



川越市元町2丁目1番地10
049-225-2727

【観覧料金】

一般300円 小中学生100円

※団体割引など詳細はホームページにて確認してください

【開館時間】

午前9:30~午後6:30 入館は午後6:00まで(4~9月)

午前9:30~午後5:30 入館は午後5:00まで(10~3月)

【休館日】

毎月第二・第四水曜日(祝日の場合は翌日が休館)、

12月29日~1月1日



<https://kawagematsuri.jp/matsurinmuseum/>

川越市内の伝統行事・イベント

川越市には、毎年開催されている伝統行事やイベントがたくさんあります。

- 1月 1月3日 初大師・だるま市(喜多院)
1月3~7日 小江戸川越七福神めぐり(市内7寺院)
1月成人の日の前日 南大塚の餅つき踊り(西福寺)※県指定文化財
1月15日 筒がゆの神事(藤宮神社)※市指定文化財
- 2月 2月3日 節分会(喜多院成田山川越別院)
2月11日 老袋の弓取式(下老袋氷川神社)※県指定文化財
- 3月 3月春分の日 芳地戸のふせぎ(尾崎神社)※市指定文化財
3月下旬~5月上旬 小江戸川越春まつり(市内各所)
- 4月 4月第2日曜日 石田の獅子舞(藤宮神社)※市指定文化財
4月第2日曜日 老袋の万作(下老袋氷川神社)※県指定文化財
4月14日 南田島の足踊り(南田島氷川神社)※市指定文化財
4月15日 川越祭りばやし(今福菅原神社)※県指定文化財
4月15日に近い日曜日 川越祭りばやし(中台八雲神社)※県指定文化財
4月19日 中福の神楽(中福稲荷神社)※市指定文化財
4月第3土曜・日曜日 石原のささら獅子舞(観音寺)※県指定文化財
- 6月 6月30日 夏越茅の輪くぐり(川越八幡宮)
6月30日 茅の輪くぐり(三芳野神社)
- 7月 7月第2日曜日 まんぐり(八咫神社)※市指定文化財
7月13日 初山(浅間神社)
7月14日 石田の獅子舞(藤宮神社)
7月14・15日に近い土曜・日曜日 川越祭りばやし(今福平野神社)
7月15日に近い日曜日 鯨井の万作(八坂神社)※市指定文化財
7月15日前後の日曜日 下小坂の獅子舞(白鬚神社)※市指定文化財
7月24日前後の土曜・日曜日 福田の獅子舞(赤城神社)※市指定文化財
7月下旬 川越百万灯夏まつり(市街地中心部)
7月31日 茅の輪くぐり(川越氷川神社)
7月から8月頃 小江戸川越花火大会(伊佐沼公園または安比奈親水公園)
7月から8月土用丑の日 ほうろく灸(妙昌寺)
- 8月 8月第1日曜日 川越祭りばやし(中台八雲神社)※県指定文化財
- 9月 9月1日 新宿雀ノ森のお焚き上げ(雀ノ森氷川神社)※市指定文化財
9月敬老の日の前日 ほろ祭(古尾谷八幡神社)※県指定文化財
- 10月 10月第3土曜・日曜日 川越まつり(川越氷川祭の山車行事)(市街地中心部)※国指定重要無形民俗文化財
10月第3土曜日 上寺山の獅子舞(八咫神社)※市指定文化財
- 11月 11月23日 火渡り祭(成田山川越別院)
- 12月 12月3日 酉の市(川越熊野神社)

- 毎月 1日 七福神縁日(市内7寺院)
8日 呑龍デー(蓮馨寺)
8・18・28日 川越きもの日(市内各所)
28日 蚕の市(成田山川越別院)
第3日曜日 銭洗弁財天縁日(川越熊野神社)
- 毎週 土曜日 鮮度いちばん! お客様感謝市(埼玉川越総合地方卸売市場)



南大塚の餅つき踊り
西福寺
祝福の行事であり、白に縄をつけて曳きながらついでヒキズリモチとも。歌に合わせておもしろおかしく行われます。



老袋の弓取式
下老袋氷川神社
的に矢を射り、的に白と黒に当たった矢の数でこの先の天候を占う行事。境内では甘酒と豆腐田楽が振る舞われます。



老袋の万作
下老袋氷川神社
下老袋氷川神社の春祈禱の日に開催。埼玉県南部の踊りの系統に属し、手踊り・段物・芝居・茶番と豊富な内容を誇ります。



川越祭りばやし
今福菅原神社
「芝金杉流」に属する今福の祭りばやし。川越氷川祭は六軒町の山車で囃子を演奏。菅原神社などの祭礼にも囃子を奉納。



川越祭りばやし
中台八雲神社
「王蔵流」に属する中台の祭りばやし。川越氷川祭では仲町の囃子方を務め、年2回地元八雲神社の祭礼にも囃子を奉納。



石原のささら獅子舞
観音寺
舞は十二切と呼ばれる12の場面に分けられます。第5場の小唄、第7場の長歌、第9場の雌獅子隠しの乱舞が見どころ。



ほろ祭
古尾谷八幡神社
桃色の紙花の付いた竹ごを36本束ねたホロを背負った童子が、神輿のお供をします。親族は子を励ましながら進みます。

鳶の誇りを胸に 伝統技術の継承を推進

川越まつりにおいて、鳶は多様な働きをし、山車の組み立てから曳行、解体までを取り仕切ります。四代目の鳶頭である西村平雪さんは、祖父の代から預かる『浦島の山車(松江町二丁目)』を「曳かせていただく」という感謝の気持ちとスムーズな祭りの運営に責任感を持ち、毎年の川越まつりに携わっています。

また、川越鳶組合頭取の立場から、山車曳行の開始と終了を告げ



西村平雪 にしむら ひらゆき

1952年、川越生まれ。株式会社西村建設代表取締役。一級建築士。60名を超える川越鳶組合の頭取を務めている。

る木遣りや鳶の伝統技である梯子(はしこ)乗りなどを、次世代に伝えるべく活動を行っています。「町内との良好な関係を保ちつつ、新しい時代の流れの中で、伝え続けていかねばならないことは多々あります。次世代にこの地域の文化を伝える続けることこそが、鳶としての矜持であり、川越まつりにかかわる者としての使命だと思っています」と語る西村さん。また、「組合全体を統括する立場としても、川越市内外にかかわらず、まちの魅力を伝えていくことに尽力したい」と強い思いを語ってくれました。

ハレの日の空に響く 想いを繋げるお囃子の音

祭りの日の空間を音と踊りで彩る祭り囃子。川越には大きく三つの流派があり、演奏方法などは昔から口伝で受け継がれてきました。川越市囃子連合会会長の宇津木二郎さん曰く、「川越の囃子は伝統的な音色そのもの」。宇津木さんが所属する今福囃子連中は代々『三番叟の山車(六軒町)』に乗っています。祖父の笛の音の記憶とともに、成人してから笛を吹き始めた宇津木さん。山車の曳行中は



宇津木二郎 うつぎ じろう

1952年、川越生まれ。川越祭囃子今福囃子連中連長、川越まつり協賛会常任理事、芝金杉流保存会金杉会会長などを歴任。

様々な曲を使い分け、川越まつりを盛り上げます。現在市内には囃子連や保存会は三九団体。後継者などの課題もありますが、祭囃子の保存育成のための活動をしています。祭囃子は在(ざい)農(い)村(むら)に伝わる民俗芸能で、古くは商家の旦那衆が在の囃子を招いていました。昭和四〇年頃からは山車持ちの町内で祭り囃子を伝承する動きがあり、新たな囃子連も生まれました。「好きこそもの上手なれ」が大切と話す宇津木さん。指導者として、今後の世代に期待を寄せています。



新河岸川・荒川の河岸場

元禄一五年（一七〇二）には、扇河岸に二〇艘、上新河岸に二二艘、下新河岸に二六艘、古市場に五艘、寺尾河岸に三艘と、多くの川船が見られるようになりました。

商業のまち・川越と活性化する五河岸

新河岸川舟運で利用された船は、一五メートル以上ある艀船、高瀬船で、一俵六〇キロの米俵を二〇〇俵ほど積み、船頭による棹や櫂、帆の巧みな操作で、新河岸川を行き来していました。河岸のにぎわいは、下新河岸の船問屋であった伊勢安（齋藤家）の付まいなどから、当時の様子が想像できます。問屋によって扱う納屋物は異なり、伊勢安は糠と灰などの肥料を扱っていました。他にも荒物と雑貨類を扱う問屋（麻金、甘藷と材木を扱う問屋（綿儀）、糠と灰と甘藷を扱う問屋（大嶋屋）など）がありました。

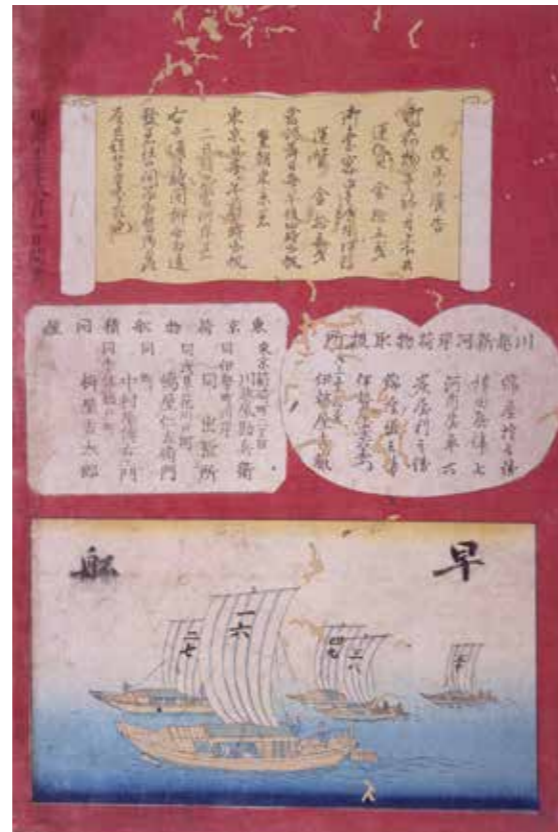
このようにして川越は新河岸川の整備によって、江戸までの舟運の起点となり、各地方や周辺から陸路で運ばれてくる農産物・織物などの集積地として、問屋などが集まる商業

都市として発展することになります。初めは年貢米などの蔵物中心でしたが、次第に農産物や建築資材などを江戸に送るようになり（下り荷物）、江戸からは肥料や砂糖、油、呉服や木物、小間物などが送られるようになったのです（上り荷物）。

商業活動が活発になる一方で、安永三年（一七七四）、番船（船を選ばずに、やってきた船へ荷物を積み込む方式）をめぐり川越町人と川越五河岸の船問屋との間で争いが起きました。その後もたびたび両者の争いが起き、嘉永元年（一八四八）には、川越町人で高沢町の名主・井上勘兵衛が代表して、江戸箱崎町の積荷問屋の権利



伊勢安の蔵



新河岸川早船改正広告
(明治12年/遠藤俊一氏蔵)

産業を支えた 新河岸川の舟運

江戸時代、城下町の産業を支え続けた「舟運」。川越から江戸の浅草花川戸まで、物資を輸送していました。荷の上げ下ろしをする河岸場は大いに賑わい、大正期に鉄道が普及するまで、移動や輸送に大きく貢献しました。



新河岸川の帆かけ船（昭和15年頃）

松平信綱による新河岸川の舟運の始まり

川越の城下町の商業は、新河岸川の舟運の整備により大きな発展を遂げます。川越と江戸との物資輸送には、新河岸川の川沿いに河岸場という船荷を上げ下ろしする場所が設けられ、川を使った「舟運」が利用されました。

寛永一五年（一六三八）の川越大火で焼失した仙波東照宮の再建資材を運ぶ際、湯水の時期で荷揚げが困難な荒川沿いの老袋に代わり、当時「内川」と呼ばれた新河岸川を経由して、江戸から寺尾村五反田の周辺に資材が荷揚げされました。これが新河岸川の舟運のはじまりです。

江戸時代、関東の領主は、毎年村から納める年貢米などを河岸場から船で江戸へ運んでおり、川越もまた川を通じて江戸と密接に結ばれていました。

藩主の松平信綱は、内川の河道や寺尾村の一部を「新河岸」という新しい河岸場として開設しました（のちに「上新河岸」「下新河岸」に分割）。これにより舟運が整備され、内川は



下新河岸の船着場（大正2年）

「新河岸川」と呼ばれるようになります。信綱による新河岸川舟運は、当初は主に、蔵物（幕府や諸藩が輸送する年貢米など）を扱うものでした。寛文四年（一六六四）には「牛子河岸」が、天和二年（一六八二）には「扇河岸」が開設され、川越に近い上流から順に、扇河岸、上新河岸、下新河岸、牛子河岸、寺尾河岸が後に「川越五河岸」と呼ばれました。

元禄三年（一六九〇）、河岸吟味の際、新河岸川では「川越新川岸」「引俣川岸」の河岸場が認められ、「納屋物」（民間の商人が輸送する物資）の扱いが、幕府に公認されました。こうして船問屋や所属する船頭によって組織された仲間（組合）が結成され、



現在の新河岸川の様子

を購入し、五河岸だけに頼らない安定した輸送経路を確保する動きも見られました。

早船の登場と 幕末・明治期の舟運

天保二年（一八三二）に、乗船の翌朝には江戸へ到着する早船の登場により人の輸送が始まりました。このため、天保一〇年（一八三九）利

用者が減った川越街道の宿場から船問屋が訴えられ、裁判沙汰となるほど早船の利用が盛んになりました。また、船不足の事態も引き起こし、近隣の村出身の船持ち船頭（出居仕衆）が、五河岸の船問屋の輸送の一部を担うようになりました。早船が登場したことにより、川越と江戸の間で人の往来がさらに増えたといえます。

嘉永六年（一八五三）六月のペリ1の浦賀来航の後、川越藩は三浦半島の警備から品川沖に造成された御台場の警備へと配置替えが命じられました。このとき、新河岸川舟運にかかわる人々も時世に対応した動きを見せます。川越五河岸の出居仕衆だった福岡村吉五郎は、川越藩の御用荷物輸送を担当、それに対抗した五河岸の船問屋は、無料での輸送や武器荷揚げ場の提供を藩に申し出ています。

とになります。なお、明治八年（一八七五）、新河岸川のすべての船問屋は、内国通運会社（後の日本通運株式会社）の傘下となっています。このように明治期になっても新河岸川舟運が重要な運送・交通手段であり続けたことは残された船問屋の引札（広告）からもうかがい知れます。しかしながら、大正三年（一九一四）の東上鉄道の開通により、次第に荷物の輸送、人の移動も舟運から鉄道に取って代わられることとなります。明治四三年（一九一〇）に起きた大水害により新河岸川が氾濫し、改修工事が大正一〇年（一九二二）に始まったことで水量が減少。そして昭和六年（一九三二）、埼玉県を通船停止令により、約二八〇年に及ぶ新河岸川舟運はその幕を閉じました。



舟運のイベントの様子

幕末時代の川越。 新河岸川舟運の 盛衰を記す

京都の出身で、現在所沢で暮らす福本武久さんは、江戸時代の新河岸川舟運を舞台にした歴史小説『武州かわごえ 繫舟騒動』の作者です。とある郷土史で川越舟運の話を読んだことが作品誕生のルーツとなったそう、執筆までの経緯をお聞きしました。

「江戸時代、新河岸川の舟運では『遠藤半蔵』という人物が活躍していたそうで、私は特に彼に興味を持ち調べることにしました。すると歴史家の斎藤貞夫さんが舟運について深く研究されていることがわかり、特に遠藤半蔵についても書かれていたんです。実際お会いして話を聞いてみますと、遠藤半蔵という人物は、幕末の新河岸の地域においてリーダー的な存在であり、極めて魅力的な人物だったということがわかり、それをきっかけに『炭屋半蔵』という人物を主人公とした小説の執筆を始めました。」



現在も残る、廻船問屋伊勢安の前を歩く福本さん

新河岸川周辺だけでなく今では若い人で賑わう町中も、福本さんにとって心身ともにリラックスできる場所。仕事で疲れたときに街中を歩くと、活気あふれる雰囲気、元気をもらえそうです。

「神社仏閣も多いですし、古い町並みも残っている。地域全体にどっしりとした落ち着きを感じますね。観光に訪れる若い人たちが親しみやすいという一面を残しながらも、古くからある歴史や文化を今に伝え育んでいる地だと思います。」と福本さん。今後も川越と江戸の関係性に注目していきたいそうです。

takehisa
FUKUMOTO

福本武久

小説家

江戸と川越を繋いだ新河岸川を題材にした、「武州かわごえ 繫舟騒動」の作者・福本武久さん。執筆時は取材で訪れ、今でもプライベートで足を運ぶ川越について、お話を伺いました。

Interview

Profile

地元・京都で仕事をする傍ら小説を書き続け、1978年、『電車ごっこ停戦』で第十四回太宰治賞を受賞。その後は転勤をきっかけに所沢に移り住み、40代で仕事を辞めて作家活動に専念。小説をはじめ、エッセイや児童文学書など、数多くの書籍を執筆。



河岸問屋のリーダー炭屋半蔵が奔走する姿を描いた活気あふれる作品





上戸緑地付近から川越市街を臨む

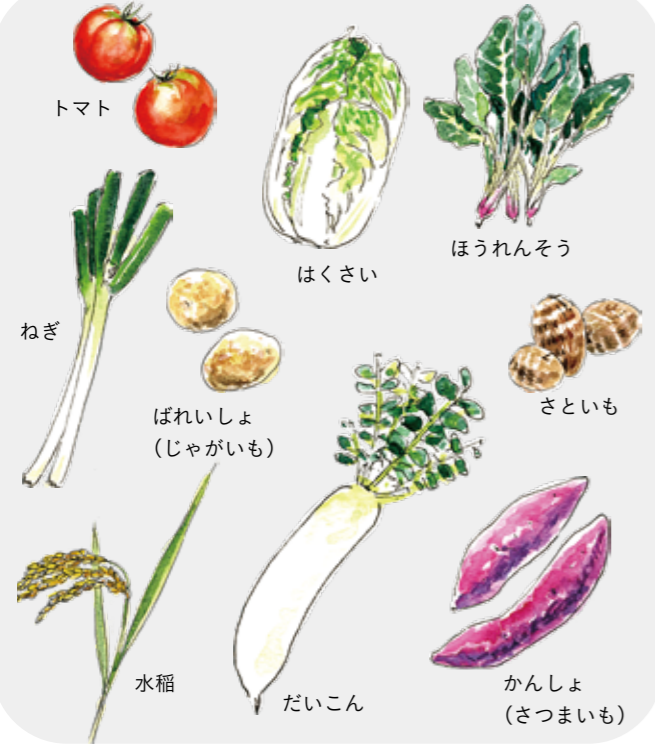


とうもろこし畑



ほうれんそうの出荷作業の様子

川越で収穫量の多い農産物



など西部から北部にかけても、広範囲にわたり水田が広がっています。近世になって川越でつくられた十組問屋には造醤油仲間・餅菓子仲間・味噌仲間があり、地域の農産物を原料とした商品が生産されました。また、古くは承応二年（一六五三）頃から、当時多く栽培されていた小麦を原料としたそうめんも作られていました。

現在、川越市内は総農家数が1、250戸、耕地面積は3、230ヘクタールです。環境の良い水田でしか見ることができないホウネンエビや準絶滅危惧種に指定されているイチヨウウキゴケなども確認されているなど、環境においても豊かな恵みに育まれた地域です。

県内有数の耕作面積
農業の現状とこれからの課題

現在、川越市内は総農家数が1、250戸、耕地面積は3、230ヘ

豊かな自然の恵み 川越の農業

江戸時代に現在の農業の礎が築かれた川越市。武蔵野台地に広がる畑や荒川及び入間川沿いの豊かな水田は、私たちの故郷の宝物です。

県内有数の耕地面積を誇る川越豊かな恵みの恩恵を受けて

関東平野の中央から西部に渡る概ね平坦な土地で、東部は入間川に沿って水田が、そして南西部は畑が広がっています。

江戸時代、原野のままであった武蔵野台地は、赤土の関東ローム層に覆われ、栄養分が少なく、水はけが悪く土地で開拓は容易ではありませんでした。元禄七年（一六九四）から元禄九年（一六九六）にかけて、藩主柳沢吉保が三富の新田開発に取り組み、三富新田（上富・中富・下富）という新しい村ができました。三富新田では、現在でも吉保が開拓した地割の原型が見られ、屋敷地、畑地、平地林で構成され、間口四〇間（72メートル）×奥行き三七五間（約675メートル）、約5ヘクタールの

短冊状の区画となっています。平地林は大風や土壌の飛散を防ぐほか、その落葉（コナラやクスギを中心とした落葉広葉樹）を堆肥とすることで環境負荷の低い循環型農業を可能にしています。また三富地域とは、三富新田（上富・中富・下富）を中心とした現在の川越市、所沢市、狭山市、ふじみ野市、三芳町にまたがる畑作地帯を指しています。

三富地域で行われていた環境保全型農業は「武蔵野の落ち葉堆肥農法」として、平成二十九年（二〇一七）に日本農業遺産に認定されました。現在ではさつまいも、ほうれんそう、里芋、かぶ、にんじん、だいこん、ごぼうなどが生産され、全国有数の露地栽培産地となっています。一方、小畔川や入間川流域の霞ヶ関・霞ヶ関北地区や名細・山田地区



下松原周辺の風景



落葉などを1年近くかけて堆肥とする



中院の碑

河越茶
天長七年（八三〇）、最澄の弟子の円仁が無量寿寺（現在の喜多院・中院）創建時、京より茶の実を携えて境内で栽培し始めた、中院の碑（河越茶発祥の歴史）に記されています。平安時代末期、現在の川越市上戸に館を構えた河越氏が鎌倉時代より茶をたしなみ、河越荘内などで茶の栽培や製法が広まりました。臨済宗の開祖、栄西（一一四一―一二一五）が承元五年（一一二二）に著した日本で最初の茶の専門書『喫茶養生記』にも、茶の薬用が記され、南北朝時代の往来物（教科書）『異制度訓往来』には「武蔵河越」は茶の産



高林式製茶機
（日高市教育委員会）

地として紹介されています。江戸時代中期になると、宇治の蒸し煎茶が江戸で普及して人気を博し、狭山地域では文政二年（一一八九）に狭山茶のルーツとなった河越茶が復興しました。狭山丘陵から加治丘陵にかけての地域で茶の栽培が急速に拡大。「狭山生まれの宇治製法」を確立し、生産が盛んになりました。また、小仙波村で開業医をしていた平沢村（現日高市）出身の高林謙三は、明治一七年（一八八四）、回転円筒式の焙茶機械、茶葉蒸器及び製茶摩擦器械を発明。明治三一年（一八九八）、高林式茶葉粗揉機を完成させ、日本の近代製茶技術に一大革新をもたらしました。



サツマイモ

江戸時代、川越藩とそこに隣接する村々（現在の川越市の他、所沢市、狭山市、富士見市、ふじみ野市、三芳町、新座市、朝霞市、志木市など）で生産されたサツマイモは「川越いも」と呼ばれました。西日本で広がった享保の大飢饉（一七三三年）を背景に、將軍徳川吉宗は、青木昆陽にサツマイモの栽培を命じ、昆陽の試作以降、関東へサツマイモが伝播していきま

を取り寄せ、栽培を始めました。これが「川越いも」の始まりで、サツマイモの栽培はその後近隣の村々に伝わっていきました。サツマイモは農民の自給作物、飢饉に備える救荒作物となったのです。寛政時代には、江戸に焼き芋屋が出現し、たちまち焼き芋が流行しました。焼き芋は、庶民の食べ物の中心では数少ない甘い食べ物で、安価で入手がしやすかったためです。江戸まで比較的近く、新河岸川舟運による運搬の利便性も良く、川越地方産のサツマイモは「本場物」として焼き芋用に重宝され、「栗（九里）より（四里）うまい十三里」ともいわれていました。

慶応二年（一八六六）から川越の今福出身の赤沢仁兵衛はサツマイモの栽培方法を研究し、明治期には収穫量を二倍以上にする増収法（赤沢式）を確立しました。

現在、サツマイモを用いた川越の和菓子や洋菓子は人気のスイーツとして様々な種類が市内で販売されています。



地元の農産物を使った商品

クタール（田耕地面積1、890ヘクタール、畑耕地面積1、340ヘクタール）と県内有数の規模となっています。農業産出額（推計）は約70億円となっており、産出額の内訳は野菜が46億円を占め、次いで米、花き、いも類、果実となっています。川越の野菜は、直接都内から飲食店のシェフが農家に買い付けにやってくるなど、その品質が評価されています。農業経営体としては米農家が多く（917経営体）、次いで野菜（427経営体）の農家が続きます（注）。

また川越には後継者問題に悩む農家が増えてきていますが、一方では今なお十数代続く農家が数多くあり、



連雀町に設けられた川越青物市場（明治37年頃）



ファーマーズマーケットの様子（令和元年）

新規就農者も増えています。
注 農林水産省「グラフと統計でみる農林水産業（埼玉県川越市）」※耕地面積は令和3年面積調査、総世帯数は令和2年国勢調査、前記以外は2020年農林業センサスより
広がる農家の輪
マーケットで生産者をつながる
農家が直接出店し、自慢の農産物

を販売するファーマーズマーケットでは、消費者は直接生産者と顔を合わせながら新鮮な地場の野菜を購入することが出来ます。さらに、生産者や飲食店経営者、食品メーカーとつながる機会が増え、特別メニューやスイーツ開発など食によるコラボレーションが多く実現。ジャムやドレッシングなど六次産業化（農業や水産業など第一次産業が、食品加工の

二次産業や流通・販売の第三次産業に関わること）も活発に行われ、川越で作られた農産物が、私たちの食をより豊かにし、環境に優しい地産地消が実現されています。また、地場の野菜や切り花など、毎日地元の農家から届く新鮮な農産物を扱う「農産物直売所 あぐれっしゅ川越」は、地元の人々だけでなく観光客からも人気です。



江田勝男

katsuo
EDA

江田養鶏場

独自配合した飼料を食べて育った鶏が産む「特殊卵」は、その美味しさから多くの人に愛され、すぐに売り切れてしまうほどの人気商品です。

Interview

Profile

芳野地区で江田養鶏所を経営。芳野地域の畜産農業に詳しく、飼育環境の向上やより栄養価の高い飼料を独自の研究のもと配合し、特殊卵の生産に成功する。過去に川越市畜産振興協議会の副会長を務めた実績を持つ。

川越を代表する名産品 サツマイモを栽培する 老舗の農園

「昭和29年は戦後間もない時期で、まだレジヤというものがほとんど存在しなかった時代でした。そんなときに私の父が川越で芋掘り体験を始めたことがきっかけとなりました。その後、徐々に口コミで広がっていき、昭和35年頃に川越における体験型観光として注目されるようになり「ました。」と坂本宏之さん。

出荷用のサツマイモの栽培をする傍らで、芋掘り体験を実施している光景が幼稚園の先生目のにとり、「園児の教育の一環にかなうのではないか」と考えられ、昭和40年頃には、芋掘りが川越を代表する農業体験の一つとなりました。

体験だけではなく美味しいサツマイモを求めるお客さんは今も多く、坂本さんは芋掘り体験や直売所、地方発送を通して、多くの人に丹精込めて育てたサツマイモを届けています。

また、川越で作られてきたサツマイモ



葉が黄色に色づくとき、収穫の時期を迎えます

イモの品種は昭和40年代までは紅高系と紅赤の2種類でしたが、時代が進むにつれて新しい品種も登場しました。「昭和50年代に収穫量の多い紅あずまが登場し、平成に入るとシルクスイートや紅はるかなど、しっかりと甘さが特徴の品種が増えました。」

時代の変遷や環境の変化とともに、さまざまな手法を取り入れ、研究しなければならぬ農業。「生産価格高騰の影響などの課題もありますが、時代のニーズに対応しながらこれからも川越の地で頑張っていきます。」とお話いただきました。

坂本宏之

hiroyuki
SAKAMOTO

坂本農園

酸性の土壌を好むサツマイモは、川越の土地に適した農作物でした。坂本農園では、時代のニーズに合わせて、川越の農業を支えています。

Interview

Profile

昭和29年に芋ほり観光をスタートした坂本長治氏のご子息。父親から観光農園を引き継ぎ、現在坂本農園を営む。川越市農業委員会に所属していたほか、平成20年度には市内の観光農園を営む農業者で構成される、川越いも研究会を立ち上げ会長を務めた。



付加価値をつけることで 高品質の 卵作りに成功

「養鶏場を始める以前はサラリーマンをしていました。当時父が副業で養鶏業をしていたこともあり、結婚を機に会社を辞めて夫婦2人で江田養鶏場を始めました。今年で50年が経ちます。」

もともと芳野地区には約30軒の養鶏場がありましたが、その数は年々減少し、現在では江田養鶏場のみに。「養鶏業を始めてから20年ほど経ったとき、何百万羽と鶏を育成できる企業養鶏という大型養鶏が市場を占め始めました。そのときに、どうしたら私たちのような地域の養鶏場が企業養鶏に対抗できるかと考え、卸ではなく自分たちで販売することにしました。」と江田さん。

しかし、初めは自身で卵を販売するに当たり、どうすればより多くの人に購入してもらえるのか、という課題もありました。「飼料から入念に見直し、『特殊卵（特定の栄養成分を多く含んだり、飼育法やエサの

原料にこだわるなど消費者が求める価値を付与した卵のこと」を販売しようと考えました。当時は特殊卵を作っている養鶏場はなく、より多くの卵を出荷することが主流でした。しかし私は卵の質で勝負することにしました。」江田養鶏場にはこの特殊卵を求めて地元川越を中心に多くのリピーターが訪れます。江田養鶏場の卵は黄身が濃く、濃厚な味わいで、市内を含む多くの飲食店から指名買いをされるほど。安全安心で新鮮な地たまごとして人気です。

現在は息子さんを中心に養鶏業を営んでいるそうで、「現状を維持しながら、卵の販売規模を広げていきたいですね。」と話す江田さん。「後継者が増えて、今後も畜産農家が残っている環境になってほしい」と農業従事者として未来の川越にも大きな期待を寄せています。



目で見て美味しいと思える卵をお届けします

飛躍し続ける 川越の商工業

今、観光地として名を馳せる川越。
それは、この地で商工業にかかわる人々の大きな努力が
あったからこそその賑わいです。

川越の商工業の歴史

川越は江戸時代から商工業が発達していたまちです。江戸時代前期の商人、榎本弥左衛門は川越の豪商として知られ、彼が記した「榎本弥左衛門覚書」によれば、塩取引を中心に米や雑穀、煙草などを商っていたことがうかがえます。江戸時代も後期になると、川越はとくに織物と米の商いが中心となりました。江戸や近隣への米穀の出荷により財をなした横田次郎吉などが有名です。また、「川越平」、「川越斜子」などの絹織物の名が知られるようになっていました。

明治初期の川越の商工業では、農産物や木工品（川越箆筒や木桶など）のほか、綿織物が多く生産されていました。川越町はそれらの製品の流通の市場としての役割を担い、商業



志義町の足立要（現原田家住宅）前で行われた米穀市（明治34年以降）

川越商工会議所の 設立と活動

都市への発展に繋がっていきます。また、農村部では米・麦、甘薯や茶の栽培に加え、そうめんや餅菓子などの食品加工業が行われるほか、蚕卵紙、繭、木綿、藍染など衣料品の原料になる作物も多く産出されていました。

明治二十七年（一八九四）から二十八年（一八九五）の日清戦争後、日本経済の発展は川越に大きな影響を与えました。近代商業都市としての川



喜多町の荒井桶店（大正初年）

越で商工業者の代表機関となったのが、川越商工業会議所です。川越商工業会議所は明治三二年（一八九八）より設立の機運が高まり、明治三三年（一九〇〇）二月一三日に設立し、埼玉県では初の商業会議所となりました。構成会員はとくに繊維や穀物の関係の商人が多く、この二つの業種が川越の経済構造では有力な位置にいたものと考えられます。また商業会議所の事務所は明治三五年（一九〇二）二月に、川越会館の建設とともに会館内に移転しました。

本市では明治三七年（一九〇四）に川越電話所が開設されていました。電話交換所の開設が実現しておらず、日露戦争の戦時下ということもあり、なかなか特設電話開設の許可が下りませんでした。明治四〇年（一九〇七）ようやく許可が下り、翌四一年（一九〇八）電話交換業務

が開始されました。この時、特設電話に約百名の架設希望がありました。また川越は織物の一大集散地でしたが、周辺地域との流通機能に欠けていました。そこで明治三二年（一八九九）頃に織物市場の建設に関する建議が町議会に提出されました。明治四三年（一九一〇）には商業会議所が主唱者となって川越織物市場株式会社が設立され、ついに鉄砲町（現松江町）に川越織物市場が開業しました。市場は毎月六回開市していました。さらに商業会議所では流通機能の整備だけにとどまらず、川越染織学校から図案を求めたり、繊維産業の盛んな地域を視察するなど、生産改良にも力を注ぎました。

第二次世界大戦戦時下の昭和十八年（一九四三）に、商工会議所は解散。再スタートは大戦後の昭和二十二年（一九四七）八月になります。昭和二十九年（一九五四）には社団法人から特殊法人となり、新商工会議所として発足。昭和三十〇年（一九五五）の周辺九か村との合併に関する意見書の提出や川越狭山工業団地の造成推進など、川越の産業経済の推移において川越商工会議所が大きな役割を果たしました。

繊維業の発展と衰退

明治前期の川越の製糸業は、座繰製糸場で占められていました。座繰製糸とは繭から糸を取り出しやすくするために繭を釜で煮た後、片方の手で糸を繰りながらもう片方の手で糸を巻き取る手作業による生糸の生

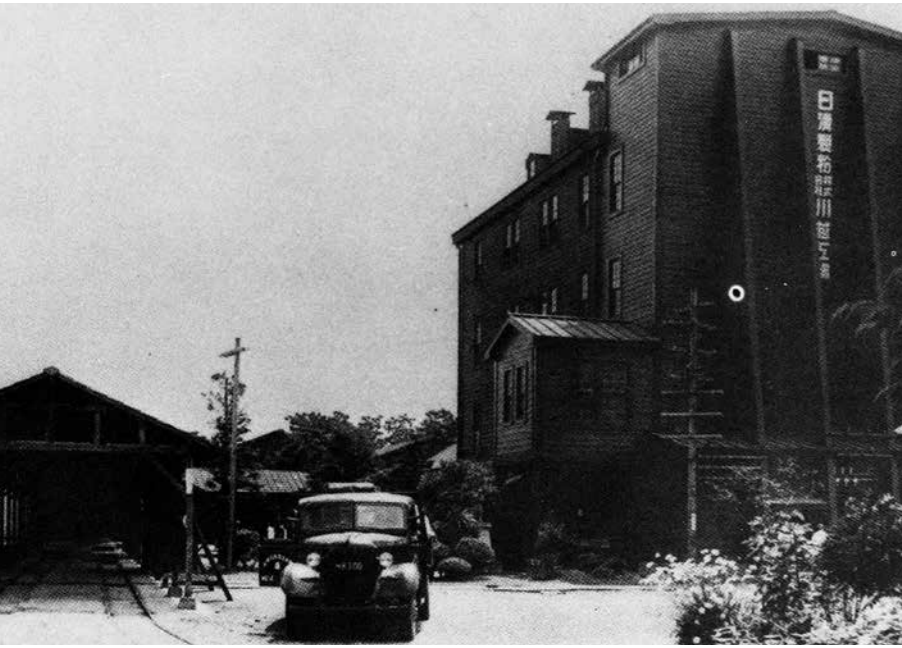


川越百万灯夏まつりの際の川越商工会議所（昭和57年）

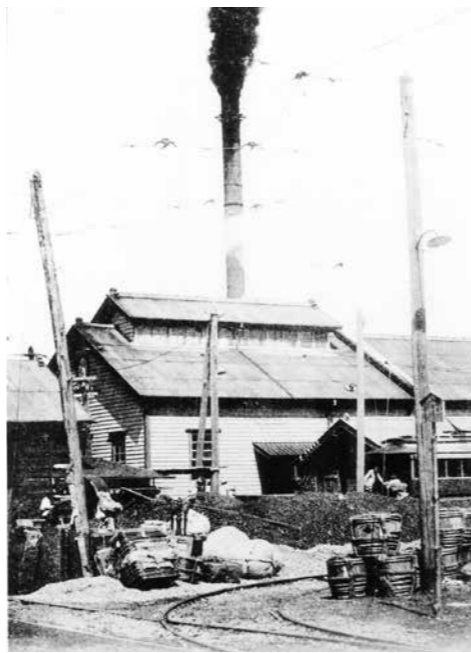


現在の市民会館の場所にあった川越会館（明治35年以降）

その後、大正三年（一九一四）から始まった第一次世界大戦は、一時期、川越の商業に不安と混乱をもたらしましたが、翌年頃から軍需品の輸出増大や日本の中国市場の独占に伴い、日本経済全体が繁栄し、川越町の商業も盛況となりました。しかし大正七年（一九一八）の終戦以降、過剰生産が原因で恐慌に陥りました。議所は川越商工会議所と名称を変更



日清製粉川越工場。当時入間郡は良質な小麦粉の産地であった（大正8年以降）



現在の東京電力パワーグリッド株式会社川越支社にあった川越火力発電所（大正2年頃）

川越では小麦が多く栽培されていたことから製粉業も盛んだった。大正八年（一九一九）には地元資本により武蔵製粉が設立され、材料や製品の輸送に東武東上線の引き込み線や西武新宿線の側線を利用するなど、関東内陸の小麦産地に立地する工場として関東大震災後の被災地供給に一役買っていました（昭和十二年「一九三七」には現日清製粉に吸収合併）。川越では、駄菓子屋の製造も盛んでした。養寿院門前にある菓子屋横丁は関東大震災後に大きな被害を受け、たまたま代わり、駄菓子が製造され、超える菓子製造業者が軒を連ねていたといえます。現在では約二〇件の店舗があり、昔ながらの雰囲気求め多くの人が訪れています。そのほかにも、明治三十七年（一九〇四）に川越の工場進出を促すきっかけにもなった川越火力発電所や、小仙波の医師であった高林謙三が発明した高林式製茶機など、金属や機

械工業においても大きな発展が見られました。第二次世界大戦直後、川越の工業で最も多く生産されていたのは農機具でしたが、製品出荷額も昭和三〇年代中頃までは低調でした。昭和二十七年（一九五二）に埼玉県の工場誘致条例が始まり、川越市は昭和三〇年（一九五五）の一市九村の合併を契機として、工業都市へと歩みを進めます。市内では大規模な工業団地の建設が進められ、工場進出が始まりました。また、人口の一極集中により首都圏の交通渋滞などが社会問題となったことで、昭和三十一年（一九五六）に制定された首都圏整備法（東京二三区を含む東京、埼玉、神奈川県内の市を既成市街地と定め、産業や人口の過度の集中を防止するために工場や学校の建設を制限した法）により、郊外地域の需要が高まりました。これを受け、昭和四十一年（一九六六）、日本住宅公団により「川越狭山工業団地」の整備が完了しました。また、昭和五十五年（一九八〇）に埼玉県企業局により市内東部に「川越工業団



石川組製糸場。明治41年に川越工場が北久保町に設けられた

産方法でした。その後、明治中・後期になると器械製糸が発達し、明治四一年（一九〇八）、北久保町（現三久保町）に石川組製糸（明治二六年「一八九三、石川幾太郎により操業開始」）の川越工場が建設されます。水力や蒸気を利用した器械製糸にいち早く切り替えた石川組製糸は、日清・日露戦争の景気で経営の規模を拡大し、各地に複数の工場をもつ全国有数の製糸会社となりました。さらに大正一二年（一九二三）には、大興紡績も川越で操業を開始しました。その他、県立川越染織学校（明治四一年開校・現川越工業高等学校）や県立川越

蚕業学校（大正九年開校・現川越総合高等学校）が開校して染織や図案を提案するなど、教育面からも川越の繊維業には大きな期待が寄せられていました。しかし大正一二年の関東大震災やその後の昭和恐慌、化学繊維の登場で石川組製糸の経営は悪化、昭和二年（一九三七）に解散となりました。また、大興紡績も昭和元年（一九二六）に閉鎖され、翌年に日清紡績株式会社に買収されました。一方、旧高階村を中心として別珍、コールド（パイルで縦うねを表した織物）の製造は第二次世界大戦中まで行われていました。別珍とはピロッド様の綿織物で、下駄などの鼻緒によく使われるものです。明治四〇年（一九〇七）以降から生産が盛んになった旧高階村は「別珍村」とも称されていたそうです。第一次世界大戦時の需要増加により工場が増え、昭和六年（一九三一）には約三〇の工場が稼働していましたが、第二次世界大戦中に衰退していきました。川越の主力であった繊維業自体は戦前には衰退してしまいましたが、現在では唐棧柄の着物の復活や、レ

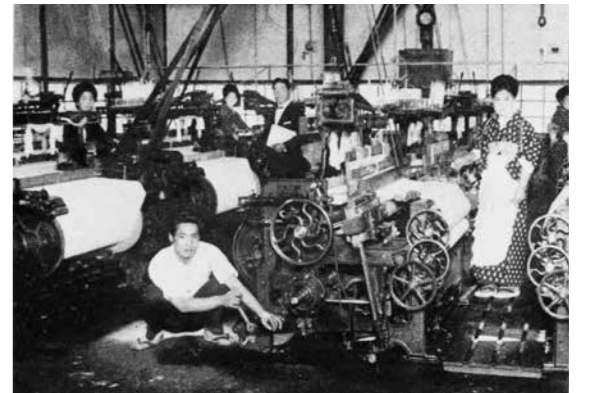
ンタル着物の流行、織物市場の整備などで再び注目を集めています。今に続く食品工業



やまぶき会館付近にあった石田撚糸工場の様子（大正7年頃）
撚糸は生糸など原糸を加工して丈夫にしたもの。ここでは主にマニラ麻が使われた



埼玉県蚕業取締所川越支所（大正2年以降）



旧高階村の別珍工場の様子

高度経済成長と川越の工業

第二次世界大戦直後、川越の工業で最も多く生産されていたのは農機具でしたが、製品出荷額も昭和三〇年代中頃までは低調でした。昭和二十七年（一九五二）に埼玉県の工場誘致条例が始まり、川越市は昭和三〇年（一九五五）の一市九村の合併を契機として、工業都市へと歩みを進めます。市内では大規模な工業団地の建設が進められ、工場進出が始まりました。また、人口の一極集中により首都圏の交通渋滞などが社会問題となったことで、昭和三十一年（一九五六）に制定された首都圏整備法（東京二三区を含む東京、埼玉、神奈川県内の市を既成市街地と定め、産業や人口の過度の集中を防止するために工場や学校の建設を制限した法）により、郊外地域の需要が高まりました。これを受け、昭和四十一年（一九六六）、日本住宅公団により「川越狭山工業団地」の整備が完了しました。また、昭和五十五年（一九八〇）に埼玉県企業局により市内東部に「川越工業団



サツマイモのスイーツ

時の鐘や蔵造りの町並み、本丸御殿など歴史的な建築物や通りを見て歩き、楽しむことができます。さらに、様々なスイーツやグルメ、体験を楽しんだりすることも大きな魅力です。平成二十二年(二〇一〇)には、川越市の物産等を楽しむ名所として、川越市産業観光館(小江戸蔵里)がオープンしました。この建物は、明治八年(一八七五)創業の旧鏡山酒造の建物を改修した施設です。

また、自然の中で農と食を楽しむためのグリーンツーリズム、エコツーリズムの推進により、今後ますます新しい川越の可能性が広がります。その他に川越市では新たな取り組みとして、市内における映画やドラマ等のロケーション撮影の支援(川越ロケーションサービス)や、ウエスタ川越など施設を利用したコンベンション誘致の推進(国内外の人が集う大会やイベント誘致)、小江戸川越ハーフマラソンなど全国的なスポーツイベントを開催しています。

また市内には38の商店街(会)があり、川越駅から続くクレアモールや霞ヶ関の角栄商店街などでは、広場などを利用したイルミネーション事業、まちバルなどのイベントを行って商店街の活性化を図っています。川越駅周辺には大型施設が建設されています。令和二年(二〇二〇)には川越市民サービスステーションやホテル、飲食店が入った複合施設「U PLACE」がオープンし、ウエスタ川越とともに新たな人流の創出を担っています。



クレアモール



旧山吉デパートのプロジェクションマッピング
「川越 灯りと音と文化の祭典」(平成25年)



大正浪漫夢通りの春のイベント風景



川越工業団地と川越第二産業団地

地」(平成一九年「二〇〇七」に隣接して「川越第二産業団地」が整備され、市内西部には、川越市・坂戸市・鶴ヶ島市にまたがる「富士見工業団地」が整備されました。そして、今後新たに「川越増形地区産業団地」が整備される予定になっています。

このように川越市は工業の集約により、令和元年(二〇一九)は県内第四位となる製造品出荷額等を有しています。



様々な体験が楽しめる川越

川越の観光と新しい人流の創出

現在、多くの観光客が訪れている川越。令和元年(二〇一九)の観光入込客数は775万7千人、そのうち外国人観光入込客数は31万3千人と、平成二十三年(二〇二一)の外国人観光入込客数の2万5千人から大きく増加し、国外でも認知度が高まっていることがうかがえます。

市内では今も多く遺る神社仏閣、



Interview

Profile

昭和39年（1964年）生、川越市出身。立教大学法学部卒。「有限会社山屋」代表取締役社長。（公社）小江戸川越観光協会会長、川越青年会議所OB会会長、川越料理店組合副会長などを歴任。

松山 潤

jun MATSUYAMA

（公社）小江戸川越観光協会会長／料亭 山屋

老舗の「料亭 山屋」の5代目当主で公益社団法人 小江戸川越観光協会会長でもある松山潤さん。商業、観光業のまち、川越の活性化を牽引する一人です。

町の活性化に求められるのは、時代に即した対応力

明治初年創業の「料亭 山屋」は、長い歴史の中で何度も危機を乗り越え、まちとともに営業してきました。松山さんは五代目当主として、時流に合ったおもてなしで川越を盛り上げています。

「コロナ禍で生活スタイルが大きく変わり、大規模な宴会は少なくなり、一方で、寿命が延びて長寿のお祝いが多くなっています。また、七五三などご家族のお客様を個室でご案内できることで喜ばれています。料亭として時代にどう対応していくかが重要だと考えます。」

15年ほど前、これまで完全予約制で夜の会席料理中心だった営業スタイルを、昼間に予約なしのフリー客を受け入れる体制にしたところ、観光客の来店が増加。その歴史ある建物と本物の料亭体験がSNSなどで発信され、夜の来店にも繋がりました。また、少人数でのブライダル事業、

店内のWi-Fi設置など時代の求めに次々と応じ、近年はドラマ撮影のロケ地としても知られてきました。多くのドラマファンが全国から訪れ、川越全体の観光にも繋がっています。「町自体が飽きられては駄目。古いものを守りつつ、時代の流れの中で少しずつ変化していくことが大切です。古さと新しさの共存こそが川越の色だと思っています。」



「若い方にもぜひ料亭の文化を体験してほしい」と松山さん

川越における

工業の発展そして

まちの魅力を知る

数多くの企業の工場が集積する川越。市制100周年を迎える今、これまでどのようにして発展してきたのか、川越東部工業会協同組合で理事長を務める山中亨さんにお伺いしました。

「川越の工業は、工業団地の整備により急速に発展してきました。1960年代に整備された川越狭山工業団地は、川越と狭山にまたがる、当時日本一の敷地面積を有した工業団地です。その後、坂戸、鶴ヶ島、川越にまたがる富士見工業団地が、さらに1981年に川越工業団地が整備されました。この3つの工業団地が中心となって、川越の工業は発展してきました。」

川越東部工業会協同組合は、川越工業団地及び2009年に拡張整備された川越第二産業団地に立地する企業を主として成り立っています。114社、従業員数5100名を擁し、この一帯は川越でも有数の工業



川越東部工業会協同組合は地元地域との共存共栄を掲げています

地帯となっています。

多くの人が訪れる観光地であるとともに、広大な工業地帯も有する二面性を持つ川越。「小江戸川越は古くからの歴史と伝統が息づく魅力あるまちです。同時に工業に関しても、古くは新河岸川の舟運、現在では高速道路や鉄道の発達により、交通の要衝としてとても利便性の高い素晴らしいまちだと思います。観光・工業ともに栄えている川越の大きな魅力ですね。また、埼玉県内で初めて市制施行100周年を迎えるということをとてもうれしく思います。」とお話いただきました。

山中 亨

toru YAMANAKA

川越東部工業会協同組合理事長

川越東部工業会協同組合理事長を務め、組合員企業と協力して地域社会の発展に取り組んでいる山中亨さん。様々な顔を持っていることがこのまちの魅力です。

Interview

Profile

工業用マイクロ波加熱装置の専門メーカー「ミクロ電子株式会社」の代表取締役。川越東部工業会協同組合の4代目理事長。



私たちに語りかける 地域の文化と芸術

川越の長い歴史の中で、当時の人々の習慣や風俗、芸能をうかがい知ることが出来る文化財や、その時代に生きる芸術家が飽くことなく追求し表現する作品は、地域における文化の継承や未来の暮らしにとって、大変貴重な財産です。

そこには伝統的な技法が惜しみなく使われ、あるいは先進的で自由な発想がほとばしり、私たちの感情に多くのことを語りかけてきます。

Kawagoe ART ARCHIVEでは、数ある文化財や芸術作品の中から、川越を代表する8名の画家と2名の彫刻家、そして代表的な9つの文化財をご紹介します。



kawagoe
ART ARCHIVE

川越アートアーカイブ

雅邦の「想」で描かれる ダイナミックかつ温雅な山水世界

山水や故事人物など漢画系の画題を得意とする雅邦ならではの、雄大な山水世界を水墨で描いた作品です。近景の樹林と聳える山の間を濃霧がたゆたって截然と分かち、山の立体感が際立って、近景右手の山容は霧のせいで柔らかく浮かび上がって見えます。曲線を連ねる山水画由来の皴法や、画面を構成する線質には、雅邦作品ならではの温雅な特徴がよくあらわれています。制作時期は明治30年代と推定されています。



《谿山雲霧》(1897-1906年頃)
川越市立美術館蔵

橋本雅邦 (1835-1908)

はしもと・がほう

江戸木挽町に生まれる。弘化3年(1846)狩野勝川院雅信に学ぶ。川越藩士を経て、開国後は海軍省兵学校で図学を教える。フェノロサ、岡倉天心と知遇を得て、明治17年(1884)設立の鑑画会に参加。明治22年(1889)東京美術学校開校に際し教諭に、翌年教授となる。明治31年(1898)日本美術院創設に参加。狩野派の技法に西洋画の遠近法等の技法を取り入れ、日本画の革新に寄与した。



繊細な鉛筆のみで描かれた 今も息づく川越の名所十景

6H鉛筆で描かれた作品です。失敗すると一から描き直す勝平のやり方で、消しゴムが一切使われずに描かれています。文豪川端康成、美術評論家の河北倫明の勧めで制作を始めていた、同時期の《東京百景》と同じ描き方で制作されています。現在も残る《県立川越高等学校》、埼玉りそな銀行旧川越支店として親しまれた洋風建築が認められる《川越市鳥瞰》、《喜多院無量寿殿》や《東照宮》など名所十景が描かれています。



《川越十景》(1950-1961年頃)
川越市立美術館蔵

岩崎勝平 (1905-1964)

いわさき・かつひら

川越町(現・川越市幸町)に生まれる。本名読みは「かつへい」。大正11年(1922)頃から岡田三郎助に師事、大正14年(1925)東京美術学校に入学、藤島武二教室に学ぶ。卒業後は光風会に所属。人物画を得意とし、官展画家として活躍した。戦後は貧困と孤独にあえぐ中、「神様絵描き」と呼んだ川端康成、河北倫明ら理解者に支えられ《東京百景》など鉛筆画などを遺した。



力強く立ち、軽やかに舞う 天を仰ぐ女性像

左腕を上方に、右手を下方に広げ、右膝を軽く屈伸させ、首を右下に傾けて立っている女性像。閉じられた手指で、左手は手の甲を、右手は掌を見せながら天を仰いでいるようです。上方に挙げられた左腕の肘、下方に向けられた右手指、曲げられた右膝が女性像を支える立脚点となっています。この突き出された三点が、像を静止させるとともに、今にも舞いを始める女性の軽やかな動きを内に秘めています。

橋本次郎 (1919-1997)

はしもと・じろう

川越町に生まれる。昭和17年(1942)東京美術学校卒業。同年、第5回文展に初入選。以降、官展系の作家として活躍。昭和33年(1958)日本彫塑会会員、昭和40年(1965)日展会員、昭和53年(1978)日展評議員となる。平成3年(1991)勲三等瑞宝章受章。平成9年(1997)川越市に作品・石膏原型174点が寄贈される。



《翔》(1982年)
川越市立美術館蔵



《サンタクローズ
《聖尼格刺図》》(1938年)
川越市立美術館蔵

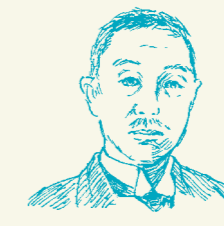
大胆な筆致で表現された 水墨画としてのサンタクローズ

水墨でサンタクローズ(聖尼格刺)を表現するという、ユニークな作品です。一見サンタクローズとは気づかないかもしれませんが、上着とナイトキャップ姿、頬から顎を覆う長い白髭、大きな白い袋を肩に背負い、片方の手を差し出している姿がサンタクローズであることを証しています。面白いのがサンタクローズの背景。円窓で囲まれた風景に、湧き立つ雲、吊るされた香炉、樅の木が配られています。

久保提多 (1885-1956)

くぼ・ていと

青森県八戸柏崎新町に生まれる。明治35年(1902)に旧制八戸中学校を卒業、八戸尋常小学校の代用教員となり、奈須川瀧光らと日本画の絵画研究会「野の花会」を結成。翌36年に上京し東京美術学校予科に入学し、下村観山の教室に学ぶ。大正7年(1918)埼玉県立川越中学校教諭となって以後は川越を本拠に活動。昭和26年(1951)川越市に表彰される。山水画など優れた作品を多く遺した。



日本画伝統の「竹」の主題を 現代的に描き出した作品

竹林の四季を四曲一双の屏風に描いた現代的な日本画です。右側の一隻には春夏が、左側の一隻に秋冬が描かれています。春の竹は風にそよいで揺れていて、右端には霞が描かれています。地面には筍がそこかしこに顔を出しています。夏の竹は緑色が深まりしっきりとし、秋の竹林の間には紅葉した木が見え、秋の風情を湛えています。冬の竹林は雪が降り、地面や竹の葉、節に降雪が見られます。

小泉智英 (1944-)

こいずみ・ともひで

福島県石川郡石川町に生まれる。川越市在住。多摩美術大学で加山又造、横山操に師事。昭和41年(1966)新制作展日本画部に初出品。昭和44年(1969)多摩美術大学大学院修了、文化庁全県展選抜展において《群像》で文部大臣賞を受賞。昭和53年(1978)グループ野火の結成に参加、第1回・第2回個展開催により美術界で一躍注目される。平成14年(2002)川越市初雁文化章受章。



《竹林四季》(1990-1991年)

川越市立美術館蔵



静かな自然観照から浮かび上がる 抒情あふれる稲田の風景

川越から荻窪に居を移し、青樹が門下生を集めて「杉立社」を組織した晩年に制作された作品。自然や風景に静かに向き合い観照し続けた、青樹の作風が本領発揮され、詩情、抒情あふれる風景画です。穂の垂れた金色の稲の緻密な描写が美しく、実りの季節として、稲刈りが近くなった稲田が明るい色彩で描かれています。画の右下に小さく描かれた青い案山子は画面構成に変化を与えています。

小茂田青樹 (1891-1933)

おもだ・せいじゅ

川越町(現・川越市幸町)に生まれる。川越町立高等小学校(現・川越市立川越第一小学校)卒業後、画家を志して上京。松本楓湖主宰の安雅堂画塾に入門。大正3年(1914)同門の今村紫紅らと赤曜会を結成、「青樹」に改号。大正5年(1916)第2回日本美術院習作展で《星雨》が入選。大正10年(1921)日本美術院同人となり中心画家として活躍。花鳥画、詩情豊かな風景画を遺した。



《豊穣》(1928年頃)

川越市立美術館蔵

小紋柄のように白い雪の降る 雪岱の愛した日本橋の面影が見える

画面いっぱいの白い雪は、積雪や木造家屋の薄暗さとは対照的で、朝まだきを伝える温かみのある障子灯りにも負けじと、しんと降っています。この作品は、大正13年(1924)頃に肉筆画として制作されました。没後、雪岱に師事した山本武夫監修のもと、昭和16年(1941)頃版画化されました。装幀家・雪岱の処女作、泉鏡花『日本橋』の見返しに描かれる日本橋の冬が発展した作品とも言われています。

小村雪岱 (1887-1940)

こむら・せつたい

川越町郭町(現・川越市郭町)に生まれる。明治41年(1908)、東京美術学校日本画科選科卒業。国華社に勤め、仏画、絵巻、浮世絵模写の仕事で独自の筆法を培う。大正3年(1914)、泉鏡花『日本橋』の清新な意匠の装幀で時の人に。鏡花本や大衆作家の装幀の仕事のほか、邦枝完二著「おせん」の連載挿絵で好評を博し、挿絵画家としても活躍。舞台、映画の美術考証や装置も手がけた。



《雪の朝》(1941年頃)

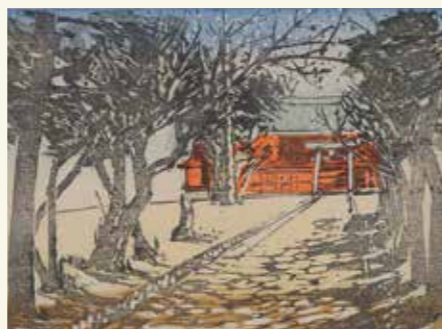
川越市立美術館蔵

木版画で力強く表現された 静馬の名を地元で刻んだ《川越八景》

この二作は、《川越八景》と総称される作品です。《川越八景》の発案者は、静馬の友人で剣道家の北村博学だと言われています。《時鳴鐘》は川越の時の鐘を象徴的に描いた作品で「じめいしょう」、「ときのなるかね」と呼ばれます。また、《里の春》は三芳野神社を描いています。《川越八景》は、静馬の名を知らしめた戦後の代表作とされており、掲載作はどちらも複数のエディションがあります。



《時鳴鐘》(1960年頃)
川越市立美術館蔵



《里の春》(1960年頃)
川越市立美術館蔵

内田静馬 (1906-2000)

うちだ・しずま

埼玉県北足立郡川田谷村(現・桶川市川田谷)生まれ。旧制川越中学校を経て、昭和2年(1927)東京高等工芸学校卒業。翌年春陽会初入選、昭和7年(1932)日本版画協会会員になる。昭和37年(1962)日版会会員となり活動を本格的に再開。伝統的な木版画にこだわり、力あふれる風景画の制作を続けた。『木版画の制作技法』『日本の民画』などの著述や教室開催など、版画普及活動に努めた。



モノクロームの異国の静かな街に 人影のようにある、一台の自転車

正方形の画の中で、近景から中景にかけて空間が広がり、遠景にはヨーロッパの歴史あふれる町並みが見えています。遠景の真ん中に位置する、白い個性的な建物のファサードの左端には自転車一台、立てかけるように配置されています。この作品は欧米諸国を巡回していた頃に描かれ、異国風景の、とりわけ北フランスのモノクロームの風景に引かれた、求一郎の創作意欲が認められます。



《自転車のある風景》(1973年)
川越市立美術館蔵

相原求一郎 (1918-1999)

あいはら・きゅういちろう

川越町高沢町(現・川越市元町)に生まれる。川越商業学校に入学、商業美術の教師・小原正夫に絵画指導を受ける。卒業後、家業を継ぎながら独学で油彩画を始めた。戦後、大國章夫の紹介で猪熊弦一郎に師事。1950年代は画風模索を続けたが、昭和36年(1961)の北海道旅行を機に、具象絵画へと転じ自己表現を確立。北海道風景の連作はライフワークとなった。



column

「かわいい!」の 原点を描いた漫画家



花村えい子 (1929-2020)

少女マンガ家のパイオニアの一人として、今でも新たなファンを獲得し続けています。花村えい子さんの可愛い少女イラストは、コミック誌の付録や文房具にも使われ、少女たちの心をつかみました。中でも『花影の女』は川越が舞台となっており、儂げな女性の表情が美しい作品です。平成元年(1989)、第18回日本漫画家協会賞優秀賞、平成29年(2017)、フランス国民美術協会(SNBA)に参加、特別賞を受賞。平成29年(2017)栄誉賞受賞など数多くの賞を受賞しています。令和2年(2020)12月に永眠するまで、海外への作品出品や川越氷川神社に絵を奉納するなど、精力的に活動を行いました。

漫画家・アーティストの花村えい子さんは、「相模屋庄兵衛」の名で代々続く川越市の商家に生まれました。川越高等女学校時代に終戦を迎えた花村さんは、戦後、女性誌『そいゆ』を発行した画家の中原淳一の作品に憧れ、女子美術大学に入学するも中退。昭和34年(1959)、金竜社の貸し本向け単行本『虹』に『紫の妖精』を描いて作家デビューします。昭和38年(1963)には、『なかよし』(講談社)に『白い花につづく道』を描き雑誌デビュー。以後、『少女フレンド』『週刊マーガレット』『少女コミック』などの少女誌のほか、レディースコミックの作品を発表、ミステリーコミック分野の確立にも貢献し幅広い読者層に受け入れられる作品を発表していきました。大きな瞳にキラキラの星、カラフルな髪の色、世界の人に愛されている少女マンガのスタイルをいち早く描き、後の女性マンガ家誕生の先鞭をつける

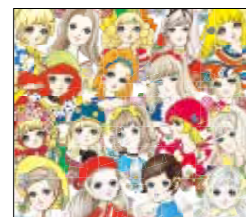
少女漫画のパイオニア



『霧のなかの少女』(初版1966年 週刊マーガレット 集英社) P40-41



川越が舞台となった『花影の女』(1978年 女性セブン)



カラフルで可愛い花村作品

ユーモラスで心が和む 別世界の生物のような彫刻

黒御影石の彫刻は、台座の上に5体の生き物が積み重ねられているように見えます。一番上と真ん中の彫刻はふくろうのような生物の表情を、一番下は亀のような姿を、鑑賞者に向けています。一見、かわいらしい、見ている者が癒やされるような柔らかい彫刻の生き物のようですが、凝視し続けると、何か意味深いメッセージを発しているように思えてきて不思議な心持ちにさせられます。

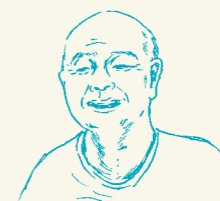


《集う》(2018年)
作家蔵

田中毅 (1951-)

たなか・つよし

宮崎県青島に生まれる。昭和50年(1975)東京藝術大学彫刻科卒業。昭和52年(1977)東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。昭和53年(1978)初個展。昭和60年(1985)神戸具象彫刻大賞展で大賞受賞。平成6年(1994)第6回現代日本具象彫刻展で大賞受賞。以後も数多くの展覧会、シンポジウムで入選、入賞を果たす。川越市内に多くの作品が設置されている。川越在住。





「川越の春」で描いた田谷堰の水門前にて

これまで描いた川越の風景は日常の中にある身近な景色でした

46年前に川越へ移り住んだ小泉智英さん。当時と今とでは川越の風景は大きく変わったようで、「あの頃と比べると今の川越の活気には驚くばかりです。一番街はとも賑わいを見せていて、お客さんが来たときによく案内をしていますよ。」と小泉さん。

小泉さんの絵の中には川越の風景を題材としたものもあります。創作

活動をする上でどのような場所を選ぶのかお伺いすると、「私にとって身近な場所を選んでいきます。散歩をしているときに『いいな』と思った場所や風景を描くことが多いですね。『川越の春』では田谷堰の水門を背景に桜が咲く新河岸川を、『川沿いの道』では近所を流れる入間川を見た風景を自由に描いています。」

小泉さんは今の住環境がとても気に入っているようで、「住めば住むほど好きになっていく。ここで暮らしていることを誇らしく感じます。」

今後も小泉さんの表現する川越の風景に期待が高まります。



結婚して子どもが生まれ、川越にやってきました

tomohide KOIZUMI **小泉智英** 画家

多摩美術大学大学院を修了後、画家活動を始めた小泉さん。戸田から川越へ自宅兼アトリエを移し、創作活動に勤めています。46年間住んでいる川越についてお話を伺いました。

まるで風景を切り取ったかのような「川越の春」



Interview

東京藝術大学大学院美術研究科において彫刻専攻修了後、日本各地の様々なコンクールで賞を受賞。数々の個展やグループ展などにも参加し、幅広いシーンで活躍されています。

Profile



川越市内で見ることができる田中さんの作品は、私たちが楽しい気持ちにさせてくれます

tsuyoshi TANAKA **田中 毅** 彫刻家

川越の至る所で見かける、動物をイメージした彫刻の数々。制作するのは宮崎県に生まれ、現在は川越で創作活動をする田中さん。数々のかわいらしい作品は、どのようにして生まれたのでしょうか。

伊佐沼の自然に
囲まれて産み出される
彫刻たち

1977年に川越に移り住み、当時は建築関係の仕事しながら二足のわらじで創作活動にいそしんで、個展を開いてきたという田中毅さん。「2011年にこの伊佐沼工房を作りました。今はここを中心に毎年地元である宮崎県の展示会に参加したり、他県を訪れて現地で彫刻を制作する活動をしています。」と、川越内外で精力的に活躍されています。



川越を拠点に、各地で個展を開催しています

田中さんの作品はどれもちょっと不思議でかわいい表情。彼らはどのようなにして誕生するのでしょうか？「1978年に神田で開いた最初の個展で、空想の動物をイメージした作品を展示したことが始まりです。以前から毎朝デッサンすることを日課としていて、『こんな生き物がいたら面白いかな』とイメージしたものを絵に描き、それをもとに彫刻を制作するようになりました。また、川越には宮崎では見かけたことのない虫も生息しているので、工房や田んぼの近くでその姿を見てひらめくこともありですね。」私たちの心を楽しい気持ちにさせてくれる田中さんの作った不思議な生き物たちは、川越の町中にも。美しい黒御影石の彫刻は川越の町並みにもしっくりきます。



緑豊かな環境で創作活動を行なっています

重要文化財
《三十六歌仙額》

1640年、岩佐又兵衛／仙波東照宮



面長で豊かな頬が特徴の
岩佐又兵衛後期の代表的絵額

この絵額は再建された仙波東照宮に奉献すべく岩佐又兵衛勝以が描いたものです。檜の柱目板に黒漆塗りの縁を、天地左右に飾金具を施し、地は胡粉の上に金泥塗りとし、36人の歌仙が1人ずつ極彩色で描かれています。柿本人麿と中務の図の裏面に朱漆で「寛永十七庚辰年六月十七日 絵師土佐光信末流岩佐又兵衛尉勝以図」と記されています。面長で豊かな頬の肖像画は又兵衛の特徴で、下部の波模様はそれぞれの歌仙の性格に合わせて変化を持たせたものです。

重要文化財
《銅鐘》

1260年／養寿院



新日吉社の荘園として
寄進された川越の中世を伝える
河肥庄の歴史

銘文には「武蔵国河肥庄 新日吉山王宮 奉鑄椎鐘一口長三尺五寸 大檀那平朝臣経重 大勸進阿闍梨円慶 文応元年大歳庚申十一月廿二日 鑄師丹治久友大江真重」とあります。河肥庄（かわごえのしょう）は平安末期から鎌倉時代にかけて、この地方を支配した河越氏の荘園でした。後白河法皇のとき、この荘園が京都の新日吉山王社の社領として寄進されたため、河越荘内にも日吉山王社が祀られました。河越氏の最盛期は河越太郎重頼の頃で、この鐘の寄進者経重はその曾孫に当たります。

重要文化財
《紙本著色職人尽絵》

近世初期、狩野吉信／喜多院

25種の職種が描かれた
近世初期の貴重な風俗画

様々な職人の働く姿を描いた《紙本著色職人尽絵》は、近世初期の代表的な風俗画として極めて著名なもので、桃山時代の京都あたりの職人を描いたものと言われています。六曲一双の屏風の各扇に2図ずつ貼られ、合わせて24図の紙本極彩色となっています。作者は、壺型の朱印があることから近世初期の画家で狩野派の長老の一人であった狩野吉信とされています。描かれた職種は25種類となっています。



県指定
《木造天海僧正坐像》

1643年、式部卿／喜多院

喜多院を再興した天海僧正、
入寂前の寿像

この木像は境内の慈眼堂内に安置され、喜多院再興の傑僧天海僧正の像で檜材の寄木造、極彩色で玉眼が嵌入されています。袍裳をつけて袈裟をかけ、右手に拈子を持ち、左手をこれに添えて曲景上に乗った姿です。像底から出ている柄の背面には「寛永廿癸未歳八月吉□、大仏師式部卿」という墨書銘があります。天海僧正の没年は寛永20年（1643）10月2日であることから、僧正入寂の2か月前に寿像として造立されたことがわかります。





県指定
《鷹絵額》

1637年頃／仙波東照宮

元は江戸城内二の丸東照宮に
奉献された俊敏な鷹の性格が
写生された出色の絵額

金砂子地に極彩色で、生き生きと描かれた鷹（江戸時代に盛んに行われた鷹狩りの鷹でしょう）が止まり木に乗り、紐でつながれています。この絵額は12面あり、各面には「寛永十四丁丑曆九月十七日阿部対馬守藤原朝臣重次」と記されています。この日付は江戸城内二の丸東照宮創建日に当たることから、この鷹絵額が初めは江戸城内にあったものが、その後仙波東照宮に移されたと推測されます。



重要美術品
《絹本着色東照権現像》

川越市立博物館

東照大権現として神格化された
徳川家康の御影

豊臣秀吉の例に倣い、徳川家康も没後に神格化が図られ、東照大権現としての御影が多く描かれています。喜多院に縁の深い天台僧の天海はその推進に大きな役割を果たし、東照大権現像には賛を加えています。本図もその一つで、かつては茨城県守谷町の天台宗の古刹、西林寺に伝えられてきたものです。本図の賛は「東照大権現 帰命満月界 浄妙瑠璃光 法楽救人天 因中十二願 三国伝灯山門探題 僧正天海書」と書かれています。

県指定
《三芳野天神縁起》

1649年、勝田竹翁／三芳野神社

草創から寛永元年再建までの
経緯を伝える
県内に現存する本格的縁起絵巻

三芳野天神の草創から、寛永元年（1624）酒井忠勝（後の川越城主）が幕命により同社を再建造営した際の遷宮式にいたるまでの経緯を、伝説と史実を織り交ぜて説き起こした絵巻です。極彩色の大和絵と流麗な仮名交じりの詞書から成立しています。『武蔵三芳野名勝図会』によると本文は林道春（羅山）の撰、書は本阿弥光悦、画は勝田沖之丞（竹翁）とあります。慶安2年（1649）正月、時の川越城主松平伊豆守信綱が奉納したもので、表紙の織地に松平家の家紋が織り出されています。



市指定
《堀河夜討図》

伝住吉具慶／養寿院

城主から養寿院へ寄進された
不思議な逸話をもつ屏風

江戸初期の住吉派住吉具慶の作と言われており、川越城主であった酒井重忠が養寿院に寄進したものとされます。この寄進についてはある逸話が伝えられています。川越城内で夜もふけ、皆が寝静まる頃、どこからともなく合戦の音が聞こえてきます。毎夜のことで不安になった重忠が易者に占ってもらったところ、城内に合戦の絵がありそれが災いしていると聞き、調べてみると堀河夜討の戦屏風が一双見つかりました。重忠が日頃から信仰し帰依している養寿院へその半双を寄進すると、その夜から合戦の音は聞こえなくなったとされています（川越の七不思議「城中蹄の音」）。





川越が誇る芸術家の作品を展示

川越市立美術館

川越市市制施行80周年を迎えた平成14年（2002）市民の日に開館した川越市立美術館。常設展や定期的に開催される特別展では、川越にゆかりある画家や彫刻家の作品を鑑賞することができます。これまで「郷土出身作家並びに郷土にゆかりのある作家、及びその関連作家の美術品」を中心に数多くの作品を収集し、内田静馬《時鳴鐘》、小茂田青樹《豊稔》、小泉智英《川越の春》、橋本雅邦《溪山雲霧》といった、2000点を超えるコレクションを所有。そのほか館内には「相原求一朗記念室」を設けており、川越出身の洋画家相原求一朗（1918-1999）が描いた風景画を、年4回の展示替えを実施して公開。また、市民ギャラリーや創作室を貸し出し、美術作品の制作を目的とした個人、団体をサポートしています。

川越市郭町2-30-1
049-228-8080

開館時間 9:00～17:00(入場は16:30まで)

休館日 月曜日(休日の場合は翌日)、年末年始、特別整理期間
観覧料「常設展」一般200円(160円)、大学生・高校生100円(80円)
※()内は20人以上の団体料金。※特別展は展覧会ごとに設定。



代々受け継がれてきた貴重な日本画を展示

山崎美術館

川越藩のお抱え絵師を務めた橋本晴園の子息で、日本画革新の先覚者として明治時代に活躍した橋本雅邦の作品を展示する山崎美術館。館内に展示される作品は、明治32年(1899)に川越の有志が集まり結成された画宝会の幹事を務めた、山崎家4代目山崎豊が橋本雅邦から譲り受けたもので、作品は大切に保管され代々受け継がれてきました。その後社会公益のため、また一般の方に広く知れ渡ってほしいという考えのもと、山崎豊生誕150年となる昭和57年(1982)文化の日に山崎美術館は開館しました。橋本雅邦が描いた繊細かつ美しい日本画を中心に、山崎家に伝わる美術工芸品を季節ごとに展示する山崎美術館は、川越の貴重な伝統文化を現在に残す名所として多くの人に利用されています。

川越市仲町4-13
049-224-7114

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

休館日 木曜日(休日の場合は開館)、年末年始、展示替期間
入館料 大人500円(400円)、大学生・高校生350円(250円)、中学生・小学生200円(150円)※()内は10人以上の団体料金。
障害者手帳などをお持ちの方 一般250円、大学生・高校生200円、中学生・小学生100円



小江戸川越の歴史がひと目でわかる

川越市立博物館

蔵造りをイメージした切り妻の瓦屋根に漆喰風の白壁姿の博物館は、旧川越城の二の丸跡に建っています。川越が繁栄した江戸時代から明治時代を中心に、原始時代から近・現代までの長い川越の歴史が総合的に理解できるように展示となっています。特に、城下町全体が見られるジオラマ模型や細部まで復元した蔵造りの町並み模型、また蔵造りの建築工程を再現した実物大模型は迫力満点です。見学した後に、市内を巡れば川越散策がさらに楽しめます。

川越市郭町2-30-1
049-222-5399

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(休日の場合は翌日)、第4金曜日(休日の場合は除く)、年末年始、臨時休館日

入館料 一般200円(160円)、大学生・高校生100円(80円)、中学生以下無料

※()内は20人以上の団体料金。



絵画、建築を楽しむ美術館

ヤオコー川越美術館

現代建築におけるモダニズムが感じられるヤオコー川越美術館は、ヤオコー創業120周年事業として、日本を代表する建築家伊東豊雄氏の設計により建設されました。エントランス、2つの展示室、カフェを兼ねたラウンジの4つで構成された館内には、現代リアリズムの巨匠と言われた洋画家三栖右嗣（1927-2010）が制作した作品を展示。三栖右嗣は比企郡ときがわ町にアトリエを構えて創作活動を行ってきた人気作家で、風景を写し取るだけでなく、優しい視点を反映した人間味のある描写の作品を生み出してきました。ヤオコー川越美術館は三栖右嗣氏が描いた絵画を通じて、川越の観光名所としても、市内外から訪れる多くの人に愛されています。

川越市氷川町109-1
049-223-9511

開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(休日の場合は翌日)、年末年始

入館料 大人300円(200円)、大学生・高校生200円(100円)、中学生以下無料

※()内は20人以上の団体料金。障がいのある方(手帳をご提示)と、その介助者の方お一人様まで無料。

川越の四季の風俗が描かれた 当時の生活風景がうかがえる 歴史的資料

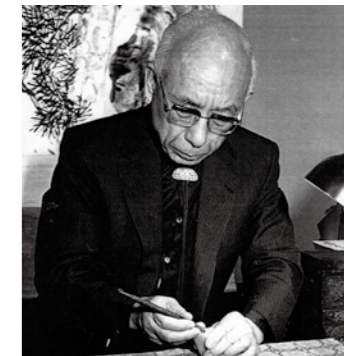
八曲一隻の《川越の四季屏風》は川越の四季風俗を描いたものとして知られています。筆者は高沢町(現川越市元町2丁目)の井上権兵衛(安永8年[1779]没)で、屏風第八扇に「安永六年丁酉夏日/梅暁堂盤雨行年六十八歳画」と落款があります。春は花見と流鏝馬、夏は田植えと石合戦、子ども相撲と囲碁・将棋の対局、秋は寺子屋の風景と祭礼に大工・石工の作業場、冬は謡初と画の揮毫、往来で遊ぶ子どもたちなどです。



column

「印」を追う 書の美の一つである

小林斗盞、本名庸浩は、大正5年(1916)川越の南町(現元町二丁目)で印章舗の三代目として生れました。10歳のころ、父より篆刻の手ほどきを受け、初めて印刀を持ちます。篆刻とは、軟石に楷書の字形である古代文字を書き入れ、印刀(鉄筆)を用いて刻る石印彫刻のことで、印文には中国の戦国、秦漢時代の通行文字篆書を使うことから篆刻と称されました。斗盞は昭和6年(1931)、川越中学(現川越高等学校)二年の時、書道界の重鎮比田井天来を訪問、持参の臨書を激賞され浩堂の号を与えられます。昭和8年(1933)、卒業後篆刻家石井雙石に入門。さらに昭和14年(1939)に東方書道会展に出品した篆刻作品が、斯界の第一人者河井荃盧の賞揚を得、その縁で師事することになり、号を斗盞に改めます。その後荃盧が戦災で死去したため、同門の書道家西川寧に就き、篆刻に専心しました。



文化勲章受章の印人

とあん 小林斗盞 (1916-2007)

戦後は東京大学の加藤常賢教授のもとで古代文字の研究を重ね、現在国宝の金印「漢委奴國王」にまつわる偽金印説を覆すなどの成果を上げています。昭和22年(1947)、日本美術展覧会に「書」部門が新設されると、その後は日展の篆刻作家として参画し、文字学に裏打ちされた厳整な作風で、日本はもとより中国でも高い評価を受け、北京・上海に招かれ、たびたび個展を開催しました。昭和54年(1979)、国内最高峰の書人による朝日新聞社主催の「現代書道二十人展」のメンバーに選出され、品位の高い作品で多くの書道ファンを魅了し続けました。また篆刻制作上欠くことのできない「中国古銅印譜」の集収に努め、それはやがて「中国篆刻叢刊」全四十巻となって実を結び、中国にもない巨冊として国内外に驚きをもって迎えられました。小林斗盞は「篆刻」の世界と、長年の研究対象である「文字学」の蓄積という「二大両輪」を生涯に亘って押し続けながら、書の美の一つである「印」を、今までない高い水準に昇華させ、現代日本芸術の深遠を世界に示しました。その高い功績により、平成16年(2004)に埼玉県内で初めてとなる文化勲章を受章しました。



江澤民印



瓢巴鼓瑟而沈魚出聽



さあ、

次の100年へ。



100th Anniversary

KAWAGOE

おめでとう、川越市！

こえまのまちの Interview

川越で生まれ育った人、
川越に移り住んだ人。
それぞれの川越に対する想いは十人十色。
次の100年に向けて、
まちへの想いとこれからの夢を伺いました。



こえまのまち
帰ってこられるまち
安心できる私の故郷

小学校4年生で終戦を経験し、戦後少しずつ活気を取り戻していく川越の姿を知る帯津良一さん。そんな町への愛情から、1982年、地元で帯津三敬病院を設立しました。86歳になった今も現役で患者さんの診療に当たっています。

り本当に住みやすい。この先も今の市民生活を維持していつてもらえたらいいですね。いつでも帰ってこられるふるさと、という安心感もあります。川越の人たちはそれを一つの利点として考えてもらいたいです。これからもずっとみんなが町を愛してくれればいいなと思います。」



川越市の地域医療を担う総合病院、帯津三敬病院。病院の創業者である帯津良一さんは川越で生まれ、戦中戦後、そして現在に至るまでの町の変遷を見てきた一人です。長年暮らすこの町への思いを語っていただきました。

「実家はおもちゃ屋で、本来なら長男の自分が継ぐべきところですが、私はしゃべるのが苦手です。進路は向かないなと思っていました。進路を選ぶ時期に、ふと子どもの頃に通っていた近所の耳鼻科の寡黙な先生を思い出して、医者もいいなと思いました。」

高校は都内にある小石川高校へ進学し、東大理科二類（現：理科三類）を受験。それが医者の道を歩み始める一歩となりました。

「最初から、町医者になろうと思っていました。町医者になるには何でもできたほうがいいから外科に進み、様々な分野で仕事をし、地元の川越で開業しました。もともと他所でやることは考えなかったですね。」

川越は天災があまり多くない土地で、これまでその心配や苦労がなかったところが大きな魅力だと話す帯津さん。穏やかでのんびりとした町の空気も昔から変わらないそうです。

「私は釣りが好きで、戦争で空襲が始まった後も友達と近所で釣りばかりしていました。警戒警報のサイレンが鳴ると普通はみんな家へ帰るんですが、子どもだからすぐには釣りをやめられないんです。次の警報が鳴るともうそこに飛行機が見えて、操縦している人の顔まで見えるくらい近くに来る。そして、撃つてくるんです。みんな慌てて茶畑の中にダーツともぐつたのを覚えています。でも、不思議と撃たれた奴はいない。みんな敏しうで大したもんだと思っていたんですが、あれはきつと飛行機の操縦士が、子どもだからとわざと外したんだなと。そうでなければ、一人や二人撃たれてもおかしくないですよ。今思えば、そんなふうに戦争中でも何となくのどかさを感ずることもありました。」

今でもまちの人の健康のため、精力的に働く帯津さん。「私は川越が好きです。落ち着きがあって、何よ



元気な帯津さん、「毎晩の晩酌が楽しみ！」

Profile

帯津良一
おびつりょういち
帯津三敬病院名誉院長。
1936年川越市生まれ。医学博士。東京都立小石川高等学校を経て、1961年に東京大学医学部医学科を卒業。東京大学医学部第三外科、東京都立駒込病院外科医長などを経て1982年川越市に帯津三敬病院を設立。人間をまるごと捉えるホリスティック医学の第一人者でもある。



Interview

まちのこえ

Profile

井上誠一郎
いのうせい いちろう
1937年生まれ。川越第二小学校、川越第二中学校、県立川越高等学校、日本大学医学部卒業。井上医院名誉院長。川越市山車保有町内協議会会長。

国指定重要無形民俗文化財であり、2016年にはユネスコ無形文化遺産にも登録された川越氷川祭の山車行事。その370年以上の歴史と伝統を守り続ける町方の一人が、川越市山車保有町内協議会の会長の井上誠一郎さんです。

まちが好きという
気持ち、伝統を
つなぐ原動力に

井上家十三代目当主、井上誠一郎さんは、江戸時代に川越に移ってきた初代から、ずっと川越の歴史と文化を継承してきた一族です。市の文化財に指定されている「川越の四季屏風」も井上さんのご先祖が描いたもの。当時の川越の子どものたちの様子が描かれている、貴重な資料です。

井上さんは、現在川越まつりで重要な役目を担う、「山車保有町内協議会」の会長を務めています。「川越まつりにおいて私たち町方の最も重要な役目は、町の誇りである山車を保存し、祭りに毎年参加すること。準備は町中総出で行います。」

一番の見どころは、豪華絢爛な山車の曳き回し。山車同士が出会ったときの「曳っかわせ」やお囃子の音はいつの時代も川越っ子の心をはやませます。

「苦労はありますが、祭りが始まればすべて吹き飛んでしまいます。」井上さんは小学生のとき初めて曳き

回しに参加。当時は観光客はおらず、未舗装だった砂利道の道路を元町二丁目から烏頭坂までガラガラと山車を曳いて歩いたと言います。山車にぶら下がって帰ってきたことは、70年以上経った今でも井上さんにとっては忘れられない思い出です。

「保存、保管、維持、すべてにおいて伝統を受け継ぐことの難しさは身をもって知っています。それでも、私たちは川越まつりが大好きです。一年中お囃子の笛や太鼓の音色が耳から離れません。この想いこそが伝統です。この伝統を生涯守り続けたいものです。」



祭り衣装の井上さん



「季節に合わせて着物を選ぶのが好き」という原さん

若い世代を
応援したくなる！
活気あふれる地元が好き

大正浪漫夢通りにある吉田謙受堂の家に生まれ、川越女子高等学校を出て家業を手伝った後、原家に嫁いだ原肇子さん。ご主人とともに「やまわ 新富町店」を長く任ざられていました。生まれながらの川越っ子で、道を歩けば知り合いばかりという川越のまちの有名人です。御年86歳。品のある凛とした佇まいの中に、驚くほどアクティブな一面が顔をのぞかせます。

「昔は一年中朝から晩まで着物。買い物などの行き帰りの自転車にも着物で乗っていました。川越は今でも普段から着物を着ている人を多く見かけますね。」時代とともに川越のまちが変わる様子を、住人としても商人としても見てきました。

「銀座通り（現大正浪漫夢通り）は昔アーケード街だったの。あれは祖父が商店街理事長をやっているときに作ったものです。昔の商店街は今と違って地元の人の店ばかりだった。だからどの商店街も、昔からあるお店がだんだんと減っていくのはやっぱりちょっと寂しいね。」

それでも、まちに新しい風が吹き込むことはうれしいという原さん。

若い世代が、川越で何かを始めると聞くと応援したい気持ちに駆られるそうです。

「若い人とお話するのはとっても楽しい。大分歳は離れているけれどもみんなとってもやさしくてね。私を気にしてよく声をかけてくれます。近所の「弁天長屋」も最近活性化されてお店も増え、よく遊びに行っています。やっぱり私は川越が一番だね。川越のまちと人が好きなんです。」

川越の中心街で生まれ育った原肇子さん。
城下の面影を感じるこのまちが、観光地として
めざましい発展を遂げていく姿を間近で見えました。

Interview

まちのこえ

Profile

原 肇子
はらとしこ
1935年生まれ。川越生まれ、川越育ち。
川越市遺族会女性部長。



Interview



Profile

大治将典

おおじまさのり

Oji&Design代表、手工業デザイナー。日本の様々な手工業品のデザインをし、それら製品群のブランディングや付随するグラフィック等も統合的に手がける。2011年、ててて協働組合共同設立・共同代表。ててて商談会などを主催。

生まれ育った広島から東京、そして川越へと移り住み、プロダクトデザイナーとして活躍する大治将典さん。古き良き町での生活を楽しみながら、さまざまなことにチャレンジしています。

古い町並みが残り 独自の文化が息づく 川越が好き

30歳のときに地元広島から東京に引っ越し、デザイナーとして活動していた大治将典さんは、ある時クラアントの真鍮メーカーと栓抜きを作ることになり、「栓抜きビール」というイベントを開くことになりました。

「イベントを開催するに当たり栓抜きは完成しましたが、栓を抜くためのビールはどうしようか? という話になったんです。せっかくなら素敵なビールがいいなと調べたところ、川越のクラフトビールメーカーの存在を知りました。早速お話しをしたところ快諾をいただき、それがご縁で川越を知ることになりました。」

打ち合わせで川越を訪れた際に古い町並みが残る素敵な場所だと感じた大治さんは、「川越に引っ越したいんですけど、どんな場所ですか?」と相談。じっくりと川越のまちをめぐり、移り住むことを決意したそうです。



大治さんが手がけた和モダンを感じさせる空間

川越に移り住んでみた感想を聞いてみると、「仕事で北陸へ行く機会が多く、大宮駅から北陸新幹線で仕事場まで行けるようになったのでも便利に感じました。また、妻が子どもの通う学校でPTAの役員をしていたこともあり、ご近所さんとの付き合いも楽しいまちですね。」と、仕事もプライベートもとても充実した生活を送っています。

「普段散歩するだけでも楽しいまち。古い道を残しながら散策を楽しめるような地域に発展していったほしいです。」と今後の川越について話していただきました。



休日は10時間にわたってピアノを練習します

お父さんに憧れて ピアノの道を選んだ 小学校5年生の努力家

川越の町並みが好きで、お父さんとよく遊びに出かけるという凜仁さん。お気に入りの場所は、「伊勢屋のお団子と、辛味噌の焼き鳥が好きです。あとは、川越氷川神社はいつ行っても楽しいので、お気に入りの場所です。」と教えてくれました。

そんな凜仁さんは、2022年に開催された国際ピアノコンクールの5大会で、弱冠11歳にして年代別1

位に加え、その内の一つでは全年代中のグランプリにも選出。ウィーンへも招待されるなど輝いた実績を持ちます。幼稚園の年中からピアノニストのお父さんのもとでピアノを習い始めました。「お父さんがピアノリサイタルでショパンの『革命のエチュード』を弾く姿に憧れて、僕もピアノニストを目指しました。練習は楽しいときも辛いときもありますが、それも僕の一部になっています。」練習は厳しいときもあるそうですが、「そのおかげで成長できました」と大人さながらの回答の凜仁さん。

今後の目標はショパンコンクールへの出場。「もっと大勢の人に曲を聴いてもらいたいです。」と意欲を燃やしています。現在は親子共演のコンサートを開催。コンサートの舞台の裏方がどうなっているのか、プロとして仕事を受けたときに請求書はどう書くのか、といったことも勉強しているというから驚きです。

川越が100周年を迎えてどう思いますか? と尋ねると、「通っている川越小学校も150歳。これからも川越は昔の雰囲気が残るまちでいてほしいです。」と話してくれました。

川越小学校に通いながら日々ピアノの練習に励み、プロのピアニストを目指す凜仁さん。川越の好きな場所や、今後の目標についてインタビューしました。

Interview

まちのこえ



Profile

山田凜仁

やまだりひと

2022年2月と3月に開催された国際コンクールで、ドビュッシーのピアノ独奏曲「喜びの島」を演奏し、グランプリを獲得するなど、2022年には5冠を達成。ピアニストで作曲家の父・山田隆広さん指導のもと練習プログラムを毎日こなし、コンクールに積極的に出場。

食や催しを通じて

タイ文化を

知ってもらいたい

「タイで空手を教えていた日本人の夫と1992年に結婚したことをきっかけに川越に移り住みました。」と話すスパタラーさんは、タイのオリンピック協会空手連盟の秘書を務めながら、自身も空手選手として国の代表も務めていました。

川越に移住した後、市の依頼を受けて埼玉県在住タイ人クラブを開設し、代表を務めることになりました。クラブの活動内容について伺うと、「日本の方にはタイ文化の普及を目的として、国際的な活動やイベントを通じてタイ語や食文化などを知ってもらい、反対にタイから日本に来て生活している方には日常生活の役に立つよう、日本語や法律について学んでいただく活動をしています。」と、お互いの国の文化を学んでもらうため尽力しています。

タイを代表する正月行事『水かけまつり』など、さまざまな催しを市内で行なってきたスパタラーさんは

外国籍市民の意見を聞き、市と協力しながらより良い生活を実現する

中国・北京市出身の焦さんは、川越で生活して30年になります。

「1990年に経営工学の研究者として来日しました。当時、私の夫は日本の大学院に留学しており、また、私の両親も医師として日本で生活していたのですが、家族みんなで暮らしたいとの思いから、子どもと一緒に、日本に移り住むことにしました。その後、夫の就職を機に川越での生活が始まりました。」日本の大学院を卒業した後、現在は川越市外国籍市民会議の座長を務めています。

「川越市外国籍市民会議は1999年に発足し、『川越に住む外国籍市民の意見を市に提案すること』と『行政からの意見に外国人目線で応えること』を目的として様々な国・地域出身のメンバー（計10名）で活動しています。川越で生活する外国籍市民は過去10年間で1・8倍増加しており、約8,700名の方々がいらっしやいます。ニーズの多様化とど

Interview

まちのこえ



焦雁

ショウ・エン

中国・北京市出身。川越在住30年。1990年に研究員として来日。現在、川越市外国籍市民会議座長や外国籍市民相談（中国語相談）の相談員、埼玉県多文化共生キーパーソンとして活動している。その他、川越市国際化基本計画策定委員会のメンバーを務めた経験もある。

Profile

川越市外国籍市民会議の座長を務める焦さんは、川越で暮らす外国籍市民と市の間で立ち、お互いにとってより良い多文化共生のあり方を実現するため努力しています。

Interview

まちのこえ



ラタナスツシー・スパタラー

タイ王国出身。埼玉県在住タイ人クラブ会長。元埼玉県国際交流相談員。タイ人に対する日本語習得に関する支援、生活相談等の多岐にわたる事業を継続的に展開。在日タイ王国大使館から高く評価をされている。タイ王国の言語、料理、ダンスを紹介する活動も行っている。

Profile

結婚を機にご主人の地元川越に移住したスパタラーさんは、いつも笑顔を忘れずにタイと川越、双方の文化を広げる活動をしています。今後もイベントを通じて、お互いの国の魅力を発信していきます。

「皆さんが笑顔で楽しめるタイのイベントをたくさん開催したいです。」と話します。より多くの人がタイの文化に興味を持ってもらうため、日々活動しています。川越とタイの似ているところや日々の暮らしで感じることは、「タイは仏教の国なので川越と同じようにたくさんのお寺があり、歴史を知ることができ、勉強になります。特に喜多院は私のお気に入りの寺院ですね。また、川越に住む人たちは思いやりがあり誰に対してもとても親切で、川越で生活していることを誇らしく思います。」とお話いただきました。



笑顔が素敵なクラブのみなさんと活動しています

のように向き合うかが課題となっており、家庭や福祉、教育など、多くの相談を受けています。」と焦さん。これまで多くの施策が実現され、「国際交流センターで実施する事業や外国籍の子どもたち向けの教育ガイドの発行、家庭ゴミの分け方・出し方の多言語展開など、多くの取り組みに携わってきました。」多文化共生の観点から、特に教育と言語が大切なテーマと考える焦さんは、「外国籍市民の皆さんに、身近な地域の活動に参加することで、日本の言葉や文化の魅力にもっと触れていただきたいな。」と心から願っています。



自然が多く活気ある風景が、川越と北京の共通点です

姉妹都市・友好都市



川越市では国内外の6都市と姉妹友好都市の盟約を結び、教育や文化、スポーツなど、これまで様々な分野で都市間交流活動を行ってきました。また、海外姉妹都市へ中学生交流団を派遣することで青少年間の交流を促進し、異なる文化や言語への理解を深めることを目的とした活動を、30年以上にわたり続けています。

棚倉町

[福島県]

提携50周年

人口約13,000人 面積159.93km²



福島県南部に位置し、棚倉城を頂く城下町。江戸時代に川越藩・棚倉藩の藩主に松平周防守康英を頂き、両市町の歴史を作ってきたことから提携。昭和47年1月18日友好都市調印。

小浜市

[福井県]

提携40周年

人口約28,000人 面積233.11km²



福井県の南西部に位置し、数多くの文化遺産が点在。川越藩主が若狭小浜藩に転封された際、ささら獅子の演技者を召連れ、雲浜獅子として伝承されている縁から提携。昭和57年11月30日姉妹都市調印。

中札内村

[北海道]

提携20周年

人口約3,900人 面積292.69km²



日高山脈の裾に広がる農村地帯。村の西部は日高山脈襟裳国定公園。川越市の名誉市民・相原求一郎さんの美術館が同村に開館したつながりから提携。平成14年11月30日友好都市調印。

オフエンバッハ市

[ドイツ連邦共和国]

提携39周年

人口約142,000人 面積45km²



ライン川の支流、マイン川沿いに位置する工業都市。ともに大都市圏に位置し古い歴史があること、川越市内の企業の工場が同市にもあったことなどから提携。昭和58年8月24日姉妹都市調印。

セーレム市

[アメリカ合衆国]

提携36周年

人口約180,000人 面積120km²



オレゴン州の州都。市内の大学と同市にある大学が姉妹校であることから市民交流が重ねられ、提携に至る。昭和61年8月1日姉妹都市調印。

オータン市

[フランス共和国]

提携20周年

人口約14,000人 面積60km²



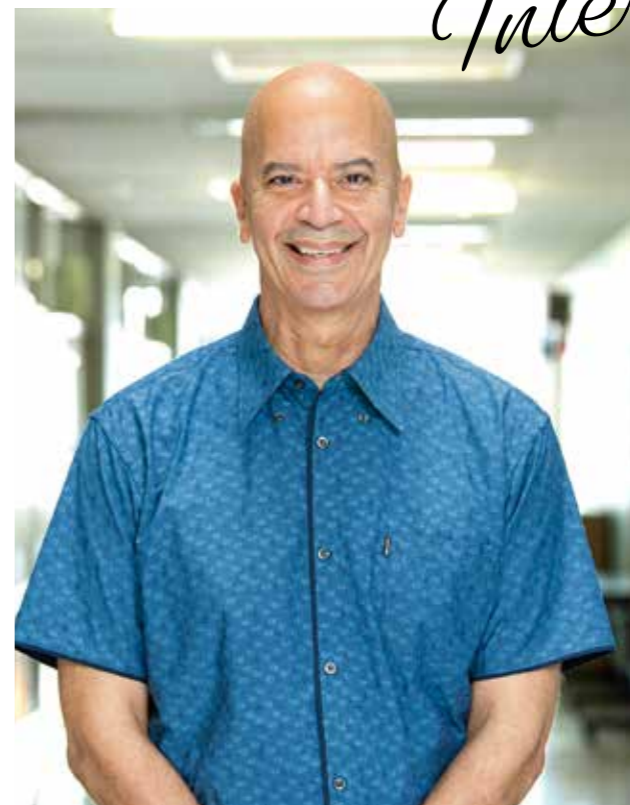
パリの南東300kmにあり、2000年の歴史を持つ古都。異なる価値観、文化を持つ地域との交流によるまちづくりを進める同市からの申し出により提携。平成14年10月18日姉妹都市調印。

旅行をきっかけに 川越に移住し 英語指導助手として活動

もともとアメリカ・コロラド州でコンピューター関係の仕事をしてきたブレイロックさんは、現在川越でAET（英語指導助手）として活動しています。川越で働くことを選択した理由を尋ねると、「コロラド州で働いていた頃に日本人の友人ができました。『日本へ旅行に行こう』という話になり、川越を訪れたことがきっかけです。帰国後、その友人と日本で塾を作ろうという話になり、1年間のプランニングを経た後、改めて日本を訪れて川越と坂戸に塾を開校しました。」

旅行で川越を訪れた際に風情ある町並みを気に入り、移住したいと考えていたブレイロックさんにとって、日本での塾の開校はとても楽しみなものでした。その後ブレイロックさんは教育委員会に勤める知人の誘いを受け、AETの道へ進みます。「市外の学校で6年間勤務した後、2003年から川越に勤務地を移し

Interview まちなこえ



Gregory Blaylock
グレゴリー・ブレイロック
アメリカ出身。英語指導助手。米国コロラド州コロラドスプリングスのフォード・エアロスペース・コーポレーションでコンピューター・エンジニアとして勤務し、来日後は川島町でAETを6年間勤務。川越市と坂戸市でBECスクールのオーナー兼指導者として活動。

Profile

日本での塾開校の後、AET講師として活動を始めたブレイロックさん。国際化が進む昨今において、川越を拠点に日本人の英語力向上に注力しています。



国際交流を通じて英語を学ぶ場を設けています

ました。当時は学校によって英語の教え方が異なっていたので、共通して英語を教えることのできる教材作りから始めました。」とブレイロックさん。
現在はウェブ上で資料をダウンロードし、学年ごとに適した内容を学べるプログラム制作を考えているほか、先生たちとコミュニケーションをとり、よりわかりやすく英語を教えられる環境作りに注力しています。「看板や道路案内標識にもっと英語が使われ、国際化が進んでいくといいですね。」と、今後の発展につながる川越への想いに溢れています。

令和4年は市制施行100周年を記念し、川越市や多くの市民団体が様々な事業等を行い市内を盛り上げました。

4月

デービッド・アトキンソンさん講演 ウィズコロナ時代、魅力的な 国際観光都市であり続けるために

令和4年4月16日 ウェスタ川越

伝説のアナリスト、デービッド・アトキンソンさんの講演会。生産年齢人口の減少による影響など社会実態の鋭い分析がありました。また新型コロナウイルスの収束が見えない中、いずれまた回復するインバウンドの受け入れに備え、持続可能なまちであるために、「国際観光都市・川越」がすべきことを語っていただきました。



川越妖怪まち歩き

令和4年4月30日 中心市街地

位置情報アプリ「妖怪コレクション」を使って、川越に現れた妖怪を探しながらまち歩きを行う企画。イベント中は妖怪たちが会場周辺をさまよい歩きました。4月のほか7月と10月にも開催。ガイド付きのまち歩きツアーも好評でした。



1月

池上彰さん講演 いままでの100年、これからの100年 ～祝川越市100周年

令和4年1月22日 ウェスタ川越

100周年のオープニング事業として開催されたジャーナリスト、池上彰さんの講演会。川越、日本、世界の100年の歴史から得られる教訓を語っていただきました。コロナ禍の今、ウィズコロナ時代をどう生きるか、まちづくりはどうあるべきかを考え、川越の若者たちへエールをいただきました。また、川越髙組による祝い木遣りも披露されました。



2月

梶田隆章さん講演 自然を不思議と思う心 ～次の100年を担う川越の若者たちへ～

令和4年2月19日 ウェスタ川越

ノーベル物理学賞受賞者・梶田隆章さんの講演会。ニュートリノと重力波研究について述べられるとともに、過去100年間の科学、特に物理学の歴史を振り返り、今後予想される発展を語りました。また、科学技術による今後の社会と地球のことを考え、川越の未来を担う若者に期待することを語っていただきました。



3月

川越市市制施行100周年記念誌 市民モデルの決定

本記念誌制作にあたり、市民の皆様へ被写体としてご登場いただき、ご協力をいただきました。



5月

川越アクション フェスティバル2022

令和4年5月3日・4日 ウェスタ川越

「アクション」をキーワードに日本伝統の武道、格闘技、ダンス、アーバンスポーツなどのコンテンツが集合しました。



武蔵野里山マルシェ

令和4年5月4日 中福地内

里山の豊かな自然の中で、川越のお酒やグルメ、音楽、ゲームなどを通して多くの方々に川越の魅力を再発見してもらうイベント。野菜の収穫体験やワークショップ、ステージでは音楽演奏会やダンスも行いました。



5月

KAWAGOE SUNRISE 2022

令和4年5月14日 川越水上公園

長いコロナ禍からの夜明けを願い、「SUNRISE (日の出)」というテーマを掲げ、100周年会議と川越青年会議所が共催した事業。コスプレグランプリや気球の搭乗、着物姿の100人文字アート、巨大アート制作、キッチンカーなど、市民とともに川越市市制施行100周年を盛り上げる楽しい企画を行い、多くの来場者で賑わいました。



川越まち歩き(春夏編)

令和4年5月22日 市内

皆川典久さんら“まち歩きの達人”とともに川越を歩くディープなイベント。11月に秋冬編も開催され、重要伝統的建造物群保存地区、川越城や喜多院周辺、新河岸、霞ヶ関などで様々な角度から川越の魅力を探りました。



川越奏和奏友会 吹奏楽団特別演奏会

令和4年5月22日 ウェスタ川越

川越市文化賞受賞団体「川越奏和奏友会吹奏楽団」による演奏会。第一部では100周年記念委嘱作品交響詩『河越』など、川越を題材にした楽曲で川越の魅力を発信しました。第二部では、誰もが親しみ聞き覚えのある楽曲を揃えた企画ステージを開演しました。



皆川典久さんシンポジウム まち歩きで再発見！ ～川越の凸凹地形と新たな魅力

令和4年5月21日 ウェスタ川越

NHK『プラタモリ』の案内人を務めた東京スリパチ学会会長・皆川典久さんを中心に、地形など従来注目されてこなかった点に着目しながら、川越の新たな魅力創出を考えました。古道研究者・荻窪圭さん、路地連新潟代表・野内隆裕さん、埼玉スリパチ学会会長・吉村忠さん、NPO法人川越蔵の会副会長・守山登さんといったまち歩きの達人が登場！



6月

川越市100周年記念の飾付け

100周年記念バナーフラッグや木札、マンホール蓋が制作されて、市内を飾り付けました。



河合敦さんシンポジウム

『小江戸川越の歴史的魅力と川越まつり』

令和4年7月16日 ウェスタ川越

NHK「歴史探偵」などのテレビ番組への出演や数多くの著書を持つ歴史作家・河合敦さんをお迎えし、小江戸川越の歴史的魅力を語っていただきました。後半は、“川越まつり”をテーマに、河合さんと祭り関係者である、川越市山車保有町内協議会会長・井上誠一郎さん、川越市囃子連合会会長・宇津木二郎さん、川越齋組合頭取・西村平雪さん、川越氷川神社宮司・山田禎久さんがその魅力に迫りました。中台囃子連中による囃子の実演で盛り上がりました。



川越市市制施行100周年記念 第41回川越百万灯夏まつり

令和4年7月30日～31日 川越市内

市制施行100周年となる今年は夢灯ろう、OH！通りゃんせKAWAGOE、川越ゆかりの時代行列などが催されました。



8月

川越市市制施行100周年記念 ゴルフ事業

令和4年8月22日 霞ヶ関カントリー倶楽部

令和3年に開催された東京2020オリンピックでゴルフ競技の舞台となった霞ヶ関カントリー倶楽部を会場に、所属プロによるデモンストレーション、大会で使用されたコースの見学、写真展示など、感動の名場面を振り返りました。また、大会組織委員会スタッフらによる報告会も行われました。



ロバート キャンベルさん講演 文学から知る川越のこと -地域を知る楽しみ-

令和4年8月13日 ウェスタ川越

日本文学研究者ロバート キャンベルさんによる講演会。川越市に今なお残る古き時代の町並みと情緒。城下町・川越は一体どのようなまちだったのか。文化財「川越の四季屏風」を展示し、屏風に描かれた内容をテーマに文化的意義をお話しいただきました。





グリーンツーリズム 整備推進

令和4年11月23日

緑豊かな伊佐沼にある「農業ふれあいセンター」を、バーベキュー場、市民農園などを備えたグリーンツーリズム拠点として改修し、リニューアルオープンしました。

11月



初雁公園整備

令和4年11月30日

初雁公園整備事業の第一段の整備として、本丸御殿周辺が整備され令和4年11月30日に完成披露されました。広場を設けるとともに土塁を整備するなどし、往時の趣を感じられるようになりました。

9月

月刊『東京人』 特集川越散歩

令和4年9月2日発売

月刊『東京人』（都市出版株式会社）10月号では、川越市市制施行100周年を記念した川越特集が組まれました。川越の今昔を様々な角度から深掘りした内容が盛りだくさん。市民の皆様が多く登場する魅力の一冊となりました。



12月

川越市市制施行100周年 記念式典

令和4年12月1日 ウェスタ川越

令和4年12月1日、川越市は市制施行100周年を迎えました。これを記念する式典を開催しました。



川越市100周年特設WEBサイト



川越市100周年に関するニュース、イベント情報、PRパートナー紹介（100周年関連グッズの紹介）、お祝いのメッセージなど、WEBサイトやSNSを通じて発信しました。

川越市100周年謎解き周遊イベント



「川越浪漫財宝譚」
(伊佐沼、新河岸、霞ヶ関)



「ふしぎ道 風詩吟堂のヒミツ」
(市内中心部)

川越市内を舞台に謎解きしながら宝探しをする周遊イベント。市内を巡りながら新たな川越の魅力を発見してみませんか？

川越市100周年ロゴ&キャッチフレーズ

市制施行100周年を記念して、そのシンボルとなるロゴマークとキャッチフレーズが多くの応募の中から選ばれました。

100周年記念ロゴマーク
西田正樹さん(東京都)の作品



川越を象徴する時の鐘と、多様性を表すレインボーカラーをモチーフにしたロゴマーク。過去から現代、そして未来へと悠久に鳴り響く鐘の音のように、多種多様につながり、広がり続ける、これからの川越をイメージしています。

100周年記念キャッチフレーズ
増田梨奈さん(川越市)の作品

「時をつなぐ」は川越のシンボル時の鐘を、「つむぐ」は川越の伝統織物である川越唐棧をイメージして考えられたキャッチフレーズ。これまで川越のまちを築いてきた先人たちの時を大切に、この先の未来につなげていくという思いが込められています。

10月

毛利衛さん講演 宇宙からのおくりもの

令和4年10月9日 ウェスタ川越

宇宙飛行士として活躍した毛利衛さんの講演会。「宇宙からのおくりもの」と題して講演していただきました。毛利さんと参加された、宇宙に興味津々の小学生との間で、活発な対話が繰り広げられました。



石山アンジュさん講演 シェアライフ

-新しい社会の新しい生き方-
令和4年10月29日 ウェスタ川越

(一社)シェアリングエコノミー協会代表理事の石山アンジュさん(デジタル庁シェアリングエコノミー伝道師)が、シェアリングエコノミーを通じて、社会がどう変化していくのか、また私たちの働き方や生き方、ライフスタイルの未来について語っていただきました。



川越市市制施行100周年川越まつり

令和4年10月15日・16日 市内

3年ぶりに川越まつりが実施されました。27町29台全ての山車が披露され、多くの市民が久しぶりの祭りに酔いしれました。



PRパートナー
商品紹介

川越市市制施行100周年に際し、多くの企業・団体がPRパートナーとして川越の魅力を広く発信しました。その一部をご紹介します。



とこわか
常若
笛木醤油株式会社



がんじだま
山車願字玉
そうび木のアトリエ



100周年記念絵ハガキ
株式会社アート・ブランドゥ



100周年記念 十万石まんじゅう
株式会社十万石ふくさや



川越いも焼酎 富の紅赤
H30by 古酒720ml
株式会社釜屋



むぎがらみべつあつらえ ろうろう
麦絡別 詠 臍
株式会社協同商事コエドブルワリー



@FARM 小江戸セレクション
三共木工株式会社



ガラスペンセット
「宙の文箱」
株式会社櫻井印刷所



セブン-イレブン
川越市100周年記念商品
株式会社セブン・イレブン・ジャパン



川越城・河越館御城印
手漉き和紙たの



100周年記念
Tシャツ・トートバッグ 他
サニープレイス



100周年記念手拭い
株式会社五幸堂



地元婚応援特典
川越100周年記念「つなぐ」
川越プリンスホテル



鏡山 さけ武蔵 純米大吟醸 越詠
小江戸鏡山酒造株式会社



100周年記念はつかり醤油
株式会社松本醤油商店



100周年記念
スマートフォンスタンド
株式会社同志舎



川越百寿餅
有限会社くらづくり本舗



ねこまんまポップコーン
株式会社長登屋



西武川越パスで行く！
おトクに川越旅キャンペーン
西武鉄道株式会社



100周年限定お守り
株式会社原一



マンガで振り返る川越ヒストリー
川越百年裏道さんぽ
株式会社丸広百貨店



お写ん歩ノート「川越♡愛」
お写ん歩書房

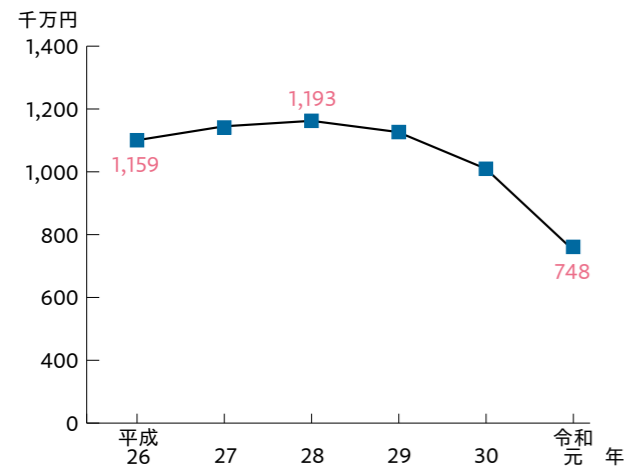


川越柄足袋
株式会社武蔵野ユニフォーム

データでみる 川越市

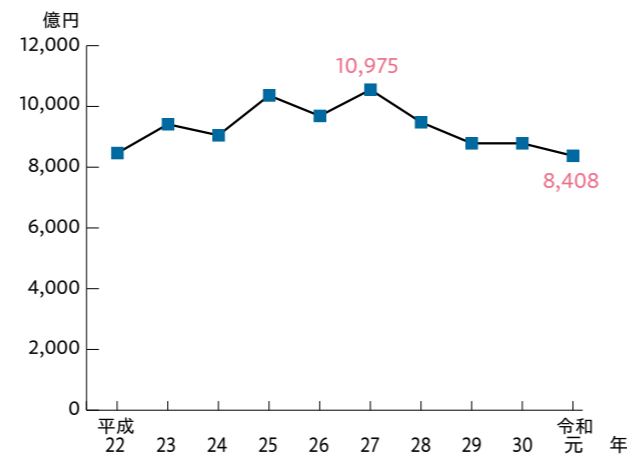
川越市の市制施行から100年。編入合併によって増大してきた人口や市域、また昨今の川越における産業などの変遷をデータでみてみましょう。

農業産出額



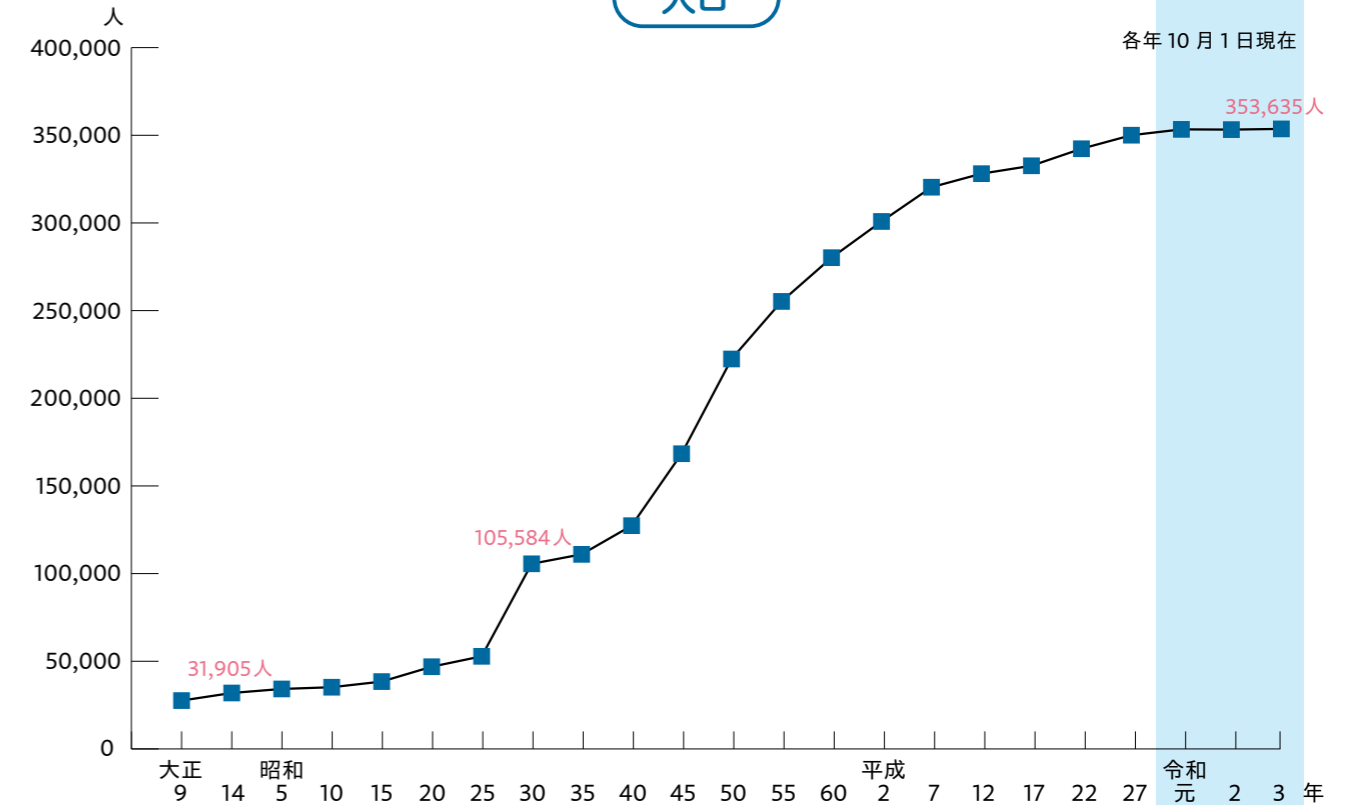
農業産出額は平成28年の1,193千万円をピークに減少し、令和元年には748千万円となっています。

工業製造品の出荷額等



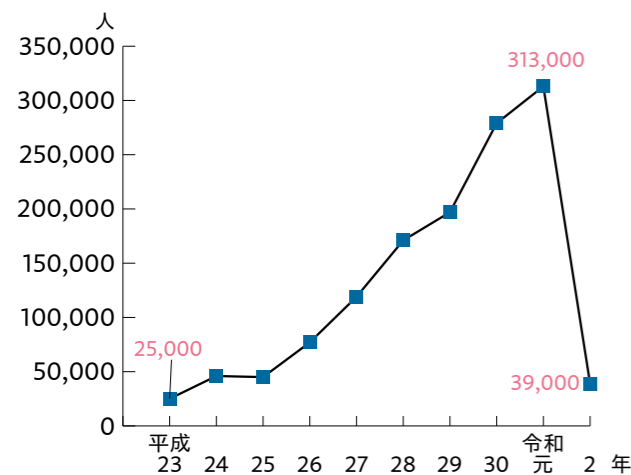
製造品出荷額等は、平成27年の10,975億円をピークに減少し、令和元年には8,408億円となっています。

人口



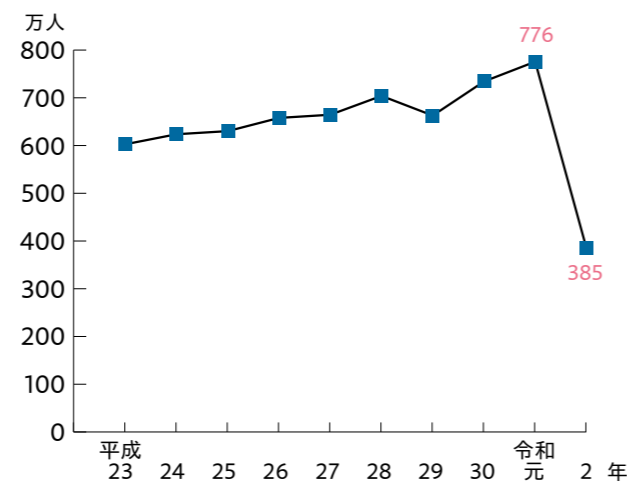
※昭和25年以前は国勢調査、昭和30年以後は住民登録人口の数値をもとにグラフ化しています。

外国人観光客数



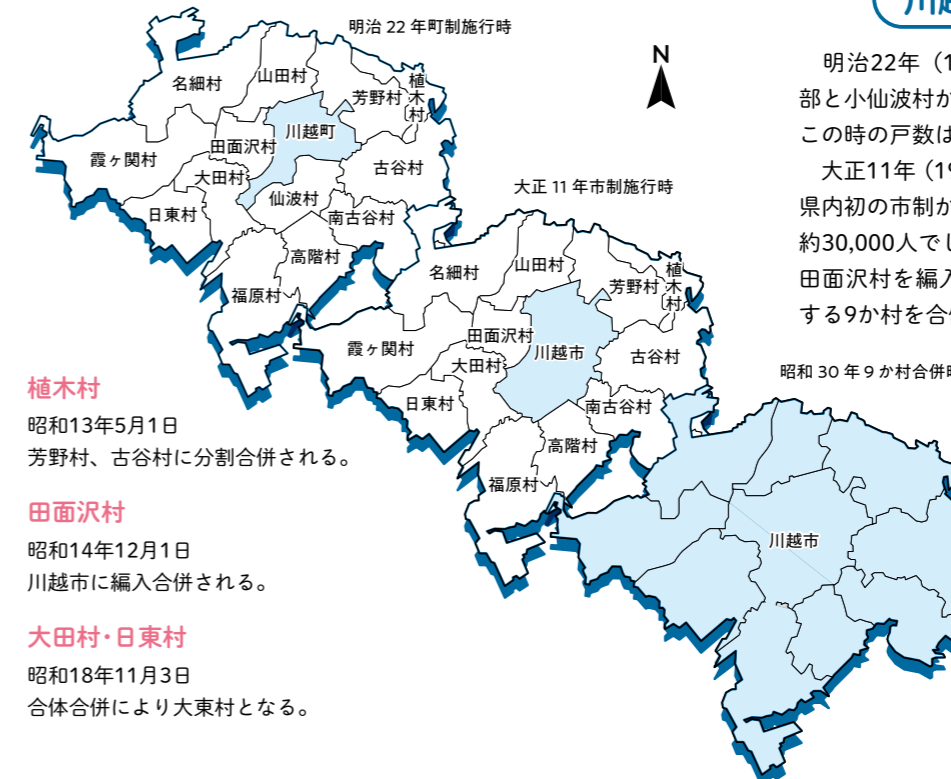
外国人観光客数は平成23年の25,000人から8年間で12倍以上増加して、令和元年には313,000人となっています。

入込観光客数



入込観光客数については、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて385万人にとどまりましたが、平成23年からの8年間で150万人以上増加して、令和元年には776万人となっています。

川越の市域の変遷



明治22年(1889)に6町村および野田村の一部と小仙波村が合併し、川越町が誕生しました。この時の戸数は2813戸、人口は16,150人でした。大正11年(1922)には川越町と仙波村が合併し、県内初の市制が施行されました。この時の人口は約30,000人でした。また昭和14年(1939)には田面沢村を編入合併、昭和30年(1955)に隣接する9か村を合併し、現在の市域となりました。

参考文献

「川越市史」川越市
 「川越・星野山 喜多院」喜多院
 「榎本弥左衛門覚書」榎本弥左衛門
 「川越藩（シリーズ藩物語）」重田正夫
 「川越の自然」川越環境ネット
 「川越市の文化財」川越市教育委員会
 「川越祭のすべて」谷澤勇
 「川越の人物誌 第一集」川越市教育委員会
 「川越の人物誌 第二集」川越市教育委員会
 「武州・川越舟運 新河岸川の今と昔」斎藤貞夫
 「川越 商都の木綿遺産」川越織物市場の会編
 「常設展示図録」川越市立博物館
 「第2回企画展 写真展―明治・大正・昭和の川越―」川越市立博物館
 「第16回企画展 河越氏と河越館」川越市立博物館
 「第34回企画展 よみがえる河越館跡 国指定史跡河越館跡の発掘―その成果と課題」川越市立博物館
 「第38回企画展 新河岸川舟運と川越五河岸のにぎわい」川越市立博物館
 「第43回企画展 城下町川越の町人世界」川越市立博物館
 「川越商工会議所75年誌 川越経済商工録」川越商工会議所
 「川越物語（川越商工会議所100周年記念誌）」川越商工会議所
 「橋本次郎彫刻展 ―和みの刻―」川越市立美術館
 「特別展 木版画家 内田静馬 素朴美へのまなざし」川越市立美術館
 「川越の美術家たち 田中毅展 あれ？こんなのがいたよ！」川越市立美術館
 「〔川越の美術家たち〕小泉智英展―静響の譜」川越市立美術館
 「第4回特別展 川越ゆかりの画人たち―近世から近代に活躍した11人の精華―川越ゆかりの近代日本画家の巨匠―橋本雅邦と小茂田青樹―」川越市立博物館
 「田中屋コレクション 小村雪岱×岩崎勝平 ―人を極める―」川越市立美術館
 「川越市立美術館開館記念 相原求一郎の世界展 自然の詩情」川越市立美術館
 「小村雪岱―物語る意匠」埼玉県立近代美術館
 「開館1周年記念・没後70年 小茂田青樹展」川越市立美術館
 「川越市立美術館コレクション選」川越市立美術館
 「川越市産業振興ビジョン（令和4年度から令和7年度）」川越市

撮影協力

株式会社アミューズ
 株式会社フリースター
 株式会社ホリプロ
 株式会社読売巨人軍
 株式会社ワンミュージック
 宝塚歌劇団

市民撮影協力

石森春陽
 伊藤京子
 伊藤高之
 植村正宏
 内田みのり
 大内由美
 岡田康
 岡田柚葉
 小川永以子
 小川広美
 小沢もえ
 小林将大
 佐野唯葉
 菅原朱実
 関口のどか
 高橋茂子
 高橋文哉
 寺田万由子
 根岸正信
 根岸裕美
 牧之内萌美
 宮澤果奈
 森舞妃
 森田栄魅

制作協力

青柳達雄
 天達新一
 石川真
 イテル抄子
 宇津木二郎
 川股秀之
 桑原浩
 関根水絵
 長堀洋
 野村正
 山口日出美
 山田英次
 米原民子
 ラタナスツシー・スパタラー
 荒牧澄多
 遠藤俊一
 小林俊明
 斉藤文夫
 高尾善希
 谷澤勇
 松尾鉄城
 松村信
 宮岡圖南
 森田正治
 安島博幸
 山野清二郎
 川越八幡宮
 川越氷川神社
 神田明神
 喜多院
 仙波東照宮
 中院
 三芳野神社

養寿院
 蓮馨寺
 ウェスタ川越
 霞ヶ関カンツリー倶楽部
 川越市教育委員会
 川越商工会議所
 川越市立中央図書館
 川越市立博物館
 川越市立美術館
 川越地区消防組合
 川越東部工業会協同組合
 公益社団法人小江戸川越観光協会
 国立歴史民俗博物館
 東北大学附属図書館
 日本カメラ博物館
 日高市教育委員会
 ヤオコー川越美術館
 山崎美術館
 あぶり珈琲
 NPO法人川越蔵の会
 株式会社アトリエえい子
 株式会社ピーアンドディコンサルティング
 川越スカラ座
 川越なるかわ農園
 川越薪火料理 in the park
 呉服笠間
 呉服かんだ
 大学いも・川越いわた
 陶舗やまわ
 マーケットテラス株式会社
 松山商店
 有限会社エフ・エム・ジー
 料亭山屋

編集 櫻井理恵
 執筆 中村健太郎
 鈴木はるか
 芦田玲
 櫻井理恵
 校閲 伏島恵美
 撮影 齊藤美春
 中村香奈子
 広川智基
 小松正樹
 中里楓
 株式会社ケノンソフト

表紙題字 蜂城 河東純一
 表紙装画 宇江喜桜
 デザイン 熊谷昭典
 吉野博之
 井上唯
 上野有
 イラスト 上坂じゅりこ
 中榮康夫
 株式会社H
 ヘアメイク・スタイリスト 株式会社H

川越市百周年記念誌

令和4年12月1日 第1版発行

令和5年1月20日 第2版発行

令和5年3月20日 第3版発行

発行 川越市市制施行100周年会議（事務局 川越市政策企画課）

川越市元町1丁目3番地1

TEL 049-224-8811

制作 株式会社櫻井印刷所

本誌掲載写真・内容の複写及び転載を禁じます。





川越市百周年記念誌

川越市百周年記念誌

川越市



100th Anniversary
題字 蜂城 河東純一
絵 宇江喜核